

静岡県立美術館年報
平成25年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2013

静岡県立美術館年報

平成25年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2013

目次

自己評価システムの体系	4	美術講座	57
平成25年度 美術館の評価活動	5	対外活動	59
【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。		【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。		美術館ボランティア・広報サポーター	62
展覧会活動 展覧会一覧	7	平成25年度 友の会活動	64
観覧者数一覧	8	【運営基本方針C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。	
(企画展)		【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
草間彌生 永遠の永遠の永遠	9	広報活動(ホームページ)	68
夏目漱石の美術世界	10	美術館ニュース「アマリリス」	69
世界遺産登録記念 富士山の絵画	12	【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます。	
二見彰一展	13	新たな広報チャンネルの開拓	70
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	14	【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。		ロダン館展示・イベント	71
(調査研究活動)		【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます。	
紀要の発行	16	【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます。	
研究活動	17	施設利用状況(年度別)	74
研究会	18	県民ギャラリー利用状況	75
各種資料整理	21	【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます。	
博物館実習	22	来館者のアクセス満足度	76
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。		■付帯資料	
収蔵品展	23	平成25年度主要記事	77
移動美術展	24	(展覧会 出品目録)	
平成25年度新収蔵品	25	草間彌生 永遠の永遠の永遠	78
収集品点数一覧	28	夏目漱石の美術世界	82
図書資料の収集・整理	30	世界遺産登録記念 富士山の絵画	89
館蔵品の貸し出し	31	二見彰一展	92
美術作品の補修	38	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	102
保存活動	40	収蔵品展	112
【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。		移動美術展	115
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します。		(管理運営)	
(一般向け)		関連法規	117
ギャラリーツアー	42	組織・名簿	125
実技・鑑賞講座	43	歳入・歳出決算	126
(子ども向け)		建築・設備概要	127
実技・体験	45	利用案内	133
学校連携普及事業(美術館教室)	50	奥付	134
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します。			
講演会	56		

自己評価システムの体系（平成23年度～平成25年度）

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針

A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

重点目標

1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します
2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します
3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます
2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします
1	館内施設を充実させ、満足度を高めます
2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます

評価指標

1	展覧会の来館者数
2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
3	作品やテーマに興味を持った人の割合
4	展覧会における新規来館者の割合
5	展覧会に対する外部評価【定性】
6	調査研究の発表回数
7	内部セミナー・研究会・研修の回数
8	他の美術館や大学と連携した取組件数
9	調査研究に関する外部評価【定性】
10	収蔵品展の観覧者数
11	収蔵品の公開件数
12	作品購入件数・価格
13	作品寄贈件数・価格
14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
15	学校教育と連携した取組数
16	鑑賞系プログラム数
17	コレクションを活用したプログラム数
18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
19	講演会等の開催件数
20	学芸員のフロアレクチャー等の数
21	地域住民等と連携した取組数
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
25	ホームページのアクセス件数
26	ホームページの満足度
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
29	ロダン館の入館者数
30	美術館利用者数
31	鑑賞環境に対する満足度
32	レストラン・カフェに対する満足度
33	ミュージアムショップに対する満足度
34	来館者のアクセス満足度

平成25年度 美術館の評価活動

■総括

基本方針に対する自己評価を以下に示す。

A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

取組方針①に従って新しい切り口の企画展を開催した。

- ・静岡ゆかりの現代美術グループ「グループ幻触」の活動の全貌を掘り起こした「グループ幻触と石子順造」展は、学芸員の継続的な研究に基づくものであり、戦後美術史と静岡という地域の美術活動の関係性を再考することができた。
- ・「富士山の絵画」は、文化的意義を多面的に紹介し、世界遺産登録の構成資産である富士を眺めるスポットを描いた絵画なども含め、富士山世界遺産登録記念に相応しい作品選定を行い、充実した内容の図録を完成させた。
- ・草間彌生の近作による展覧会は、若年の観客層を想定し、地元の若者向けの商業施設と連携した広報活動を成功させ、新しい若年の来館者の掘り起しにもつなげることができた。
- ・「夏目漱石の美術世界展」は、漱石がその文学に直接的、あるいは間接的に触れた美術品を検証し、その実作品を一堂に集めることで、漱石個人の美意識のみならず、その時代の美術への関心のありかたをとらえることに成功した。そのほか、寄贈作品を活用した「二見彰一展」も、作家の活動の全容をおさめた充実した図録を作成。
- ・取組方針②に従って、県立美術館開館30周年に向けた、「徳川の平和」を主題とする企画展を2016年秋に計画し、準備に入った。また、ロダン館については、ロダン没後100年を記念した展覧会開催にむけて、そのイベントとして、ロダン館20周年記念イベントを2014年度秋に計画し、準備に入った。
- ・さらに、作品収集の面でも、収集方針にそって、黒田清輝の「富士之図」6点などを購入し、コレクションの充実に努めた。

B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術活動と普及活動を展開します

- ・従来から実施している実技系イベントを継続実施するとともに、指導者向けの講習会を実施することで、各学校との連携強化と、指導者の育成に寄与することができた。
- ・実技系イベントの内容を展覧会と合致させることで、鑑賞と制作の両面から美術への理解を深めることができた。
- ・鑑賞教育については、当館ボランティアの協力を得て、学校団体等へのレクチャーを充実することができた。
- ・今後は、鑑賞系プログラムの更なる開発・充実に努めるとともに、実技系プログラムと鑑賞系プログラムの有機的な連携を図る必要がある。
- ・「草間彌生」展で地元商業施設と連携し、作品の展示や広報を積極的に実施した。また「夏目漱石の美術世界」展では、地元の映画館と協力して、映画上映会・講演会を実施した。これらの試みにより、新たな客層の開拓や、地元企業との繋がりができたことは、評価できると考える。
- ・学芸員による、県内の美術館・博物館訪問記を、静岡

県文化政策課発行の広報誌『アトリエふじのくに』（発行部数5万部・年3回発行）に連載、文化政策課、および、地域の美術館博物館との協力体制広報活動を継続。

C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。

- ・「草間彌生展」では、地元の商業施設と展示・広報・物販において連携し、「夏目漱石展」では、地元映画館と協力し、映画上映会・講演会を開催したことは、新たな客層の開拓や、県立美術館のブランド力向上に寄与したと考える。
- ・「二見彰一展」では、大学生の広報サポーターを募集し、SNSによる広報に努めた。
- ・地域のイベントに参加することで、地域との連携を深めるとともに当館の存在感を高めることができた。
- ・企画広報会議を定期的に開催し、美術館としての戦略広報のあり方を検討した。
- ・ロダン館の新たな魅力作りのため、職員全員でアイデアを出し、「ロダン賞記念コンサート」、「ロダン館クイズ」イベントを実施した。

D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

- ・レストランのメニューをさらに充実するため、専門家による試食会を実施し、サービスの向上に努めた結果、花見の時期などには、レストラン目的の来館者も多数みられるようになり、一定の効果をあげた。
- ・今後の美術館施設の効率的な改修を進めるため、中長期計画づくりに着手した。
- ・県の観光部局などと連携し、美術館周辺の遊歩道の整備をすすめた。これによって、日本平エリアの一体感を強化した。今後、あらたな連携関係に発展することが期待され、実際に、2014年度は、動物園と美術館の連携を試みる予定である。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成25年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

(1) ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。平成25年度は、以下の活動を行った。

- 1 アンケート調査結果の集計と分析
 - A. 展覧会観覧者アンケート（3本）
 - B. 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
 - C. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ミュージアムショップ）
 - D. 美術館ホームページによるアンケート

(2) 研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

- 坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学
客員教授
- 潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立美術館
館長
- 山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所企画
情報部副部長
- 榊原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館館長、
群馬県立女子大学教授
- 金原 宏行【教育普及・日本画】／豊橋市美術博物館
館長、常葉美術館顧問

■開催記録

平成25年5月24日

- ・平成23年度 研究活動評価について
- ・平成24年度 研究活動評価について
- ・今後の研究活動についての意見交換
- ・基金購入候補作(黒田清輝)視察

平成25年7月15日、7月23日

- ・「夏目漱石の美術世界」展の視察及び評価・提言

平成25年9月10日、9月12日

- ・「世界遺産登録記念 富士山の絵画」展の視察及び評価・提言

平成25年12月2日、12月4日

- ・「静岡県立美術館所蔵 二見彰一展」の視察及び評価・提言

平成26年2月5日、3月14日

- ・「グループ『幻触』と石子順造 1966-1971」展の視察及び評価・提言

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準

により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業。
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項。

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

展覧会活動 展覧会一覧

	企 画 展						収蔵品展
	1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4/13 (土) ~ 6/23 (日)						
5 MAY	草間彌生 永遠の永遠の永遠						
6 JUNE	6/24 (月) ~ 7/12 (金) 館内整備のため休館						
7 JULY	7/13 (土) ~ 8/25 (日)					7/13 (土) ~ 8/25 (日)	
8 AUGUST	夏目漱石の美術世界					新収蔵品展	
9 SEPTEMBER	9/7 (土) ~ 10/20 (日)					8/27 (火) ~ 10/6 (日)	
10 OCTOBER	世界遺産登録記念 富士山の絵画					挿絵・書籍の 愉しみ	
11 NOVEMBER	10/29 (火) ~ 11/15 (金)					10/8 (火) ~ 11/24 (日)	
12 DECEMBER	ふじのくに芸術祭 2013					佐伯祐三、里 見勝蔵と独立 の画家たち	
1 JANUARY	11/22 (金) ~ 1/19 (日)					11/26 (火) ~ 1/19 (日)	
2 FEBRUARY	二見彰一展					グループ「幻触」 と石子順造プレ 企画 前衛の駆 け抜けた頃	
3 MARCH	2/1 (土) ~ 3/23 (日)					1/21 (火) ~ 2/23 (日)	
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971 —時代を先駆けた冒険者たちの記録—					大地から —日本画の情景	
						2/25 (火) ~ 3/30 (日)	
						没後150年福田 半香とその師友	

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 数						
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	招待・減免	実績数	対見込
			日	人	人	人	人	人	人	人	%
企 画 展	草間彌生 永遠の永遠の永遠	4/13～6/23	63	45,000	48,626	3,815	5,160	3,203	7,173	67,977	151.1
	夏目漱石の美術世界	7/13～8/25	38	36,000	9,131	1,277	2,530	2,240	3,434	18,612	51.7
	世界遺産登録記念 富士山の絵画	9/7～10/20	38	14,000	8,989	951	975	3,730	3,136	17,781	127.0
	二見彰一展	11/22～1/19	47	13,000	2,599	589	531	445	(注1) 3,413	7,577	58.3
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	2/1～3/23	44	12,000	3,066	639	1,250	385	1,693	7,033	58.6
	小 計		230	120,000	72,411	7,271	10,446	10,003	18,849	118,980	99.2
収蔵品展		4/1～3/31	293	23,000	5,898	(注2) 3,145	—	1,564	1,794	12,401	53.9
合 計				143,000	78,309	10,416	10,446	11,567	20,643	131,381	91.9
ふじのくに芸術祭2013		10/29～11/15	16	17,000					8,047	8,047	47.3
総 合 計				160,000	78,309	10,416	10,446	11,567	28,690	139,428	87.1
移動美術展	小 山 町	9/19～9/29	10	10,000	—	—	—	—	—	1,201	29.2
	袋 井 市	10/18～10/30	12		—	—	—	—	—	1,715	

(注1) 「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」による観覧者(中学生1,870人)を含む。

(注2) 「小・中学生」の観覧者数を含む。

年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成12年度	146,833
昭和62年度	174,031	平成13年度	207,340
昭和63年度	214,156	平成14年度	170,390
平成元年度	229,258	平成15年度	184,095
平成2年度	233,904	平成16年度	146,706
平成3年度	190,361	平成17年度	129,768
平成4年度	173,665	平成18年度	222,608
平成5年度	218,921	平成19年度	184,535
平成6年度	410,182	平成20年度	190,669
平成7年度	245,028	平成21年度	101,792
平成8年度	178,701	平成22年度	264,207
平成9年度	127,299	平成23年度	126,626
平成10年度	153,099	平成24年度	163,533
平成11年度	107,977	平成25年度	139,428
		累計	5,380,858

静岡朝日テレビ 開局35周年記念 草間彌生 永遠の永遠の永遠

主催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ、朝日新聞社
協賛：岡村印刷工業、静鉄グループ
協力：草間彌生スタジオ
会期：平成25年4月13日（土）～6月23日（日）

■概要

世界的な現代美術家として活躍する草間彌生の、最新の創作活動を紹介した。半世紀以上にわたって、水玉や網目の作品を作り続けてきた草間は、2009年から、驚異的な創作意欲を傾け、新しい絵画シリーズ「わが永遠の魂」に取り組みはじめた。それらは子どものように自由に楽しい想像力に溢れながら、人間の内面世界をえぐり出すような、これまでに見たこともない作品群となった。この色彩豊かな新作と象徴的なのが、50点からなる「愛はとこしえ」の連作であった。草間が2004年から3年間で描き上げたモノクロの作品は、無限に湧き出る連鎖的なイメージを、魔法のような筆使いで描き出したものである。さらに、初公開となる《南瓜》などの彫刻や、光と水と鏡によるインスタレーション《魂の灯》^{ともしび}も展示し、草間の分身としての創作世界を体感させた。草間彌生という希有な才能をもった芸術家の、最先端の挑戦を、楽しんでいただく展覧会となった。

■関連事業

- ・特別講演会
「草間彌生の世界」
4月27日（土）14：00～15：30／当館講堂
講師：建畠哲氏（京都市立芸術大学学長・埼玉県立近代美術館館長）
- ・映画上映会
「草間彌生 わたし大好き」（2008年日本、102分、監督：松本貴子）
5月11日（土）、18日（土）14:00～／当館講堂
- ・学芸員によるフロアレクチャー（作品解説）
4月28日（日）、5月19日（日）各日14：00より30分程度／当館展示室
- ・「こどもワークショップ ヤヨイちゃん夢の旅日記」（対象：小学生以上）
5月3日（金・祝） 午前の部：10：15～12：15 午後の部：13：30～15：30／当館実技室
- ・ちょこっと体験「ぬりえちょこっと体験 ヤヨイちゃん夢の旅日記」
5月8日（水）～10日（金） 各日10：00～12：00、13：00～15：00／当館エントランス

■図録

編集：安來正博、前山裕司、澁田見彰
草間彌生スタジオ、草間彌生記念文化財団
朝日新聞社企画事業本部大阪企画事業部
発行：朝日新聞社
協力：オオタファインーツ
翻訳：後町幸枝、クリストファー・スティヴンス
デザイン：FROG SPLASH 井上淳子
印刷：岡村印刷工業
仕様：A4版176頁
内容：
ごあいさつ
草間彌生 「永遠の永遠の永遠」
建畠哲 「みんなのアヴァンギャルド」
図版
安來正博 「永遠の道程—草間彌生のゼロ年代絵画を巡って—」
澁田見彰 「花園に舞う永遠の魂」
略歴
主な書籍
主な展覧会
出品リスト

■出品目録

pp. 78-81 を参照



▲チラシ

夏目漱石の美術世界

主 催：静岡県立美術館、中日新聞東海本社、テレビ静岡
後 援：ブリティッシュ・カウンシル
協 力：岩波書店、神奈川近代文学館、KLMオランダ航空、日本航空
会 期：平成25年7月13日（土）～8月25日（日）

■概要

東京藝術大学大学美術館および広島県立美術館との共同企画巡回展。

「吾輩は猫である」「こころ」といった多くの名作を通じ、近代日本を代表する作家として親しまれている文豪・夏目漱石（慶応3年～大正5年／1867～1916）。幼い頃から絵が好きだった漱石は美術にも造詣が深く、さまざまな美術作品を自らの文学に取り入れている。

展覧会では、漱石の文学作品や美術批評に登場する美術家達の作品を可能なかぎり紹介することを標榜、ターナーやミレイに代表されるイギリス絵画から、若冲や応挙、抱一といった江戸絵画、さらには青木繁、黒田清輝、横山大観、朝倉文夫といった近代美術を漱石の眼を通して見直すことを目指した。

さらに、浅井忠、中村不折、橋口五葉、津田青楓といった当代の一流画家達が手掛けた漱石作品の装幀や挿画も紹介。デザイン史のうえからも見逃すことのできない漱石の造本を考察した。

また、漱石は漢詩の優れた素養を背景に多くの南画山水を描いてもいる。これら漱石自筆の絵画から、漱石が描いた理想の境地に迫った。

加えて、漱石愛蔵の美術書などの資料紹介、あるいは漱石没後にその文学作品をイメージソースとして制作された新作絵画等も展示。本展はいわば、漱石を案内人として美術を鑑賞する展覧会であり、美術を導きの糸として漱石文学をより深く理解する展覧会ともなった。

静岡展の付帯イベントとして映画会を企画開催した。これは、漱石作品を題材にした映画「それから」（森田芳光監督・松田優作主演／1985年作品）を映画学者の解説付きで上映するというもの。美術と文学をテーマにした本展にふさわしく、(DVDではなく)フィルム上映にこだわり、市内のミニシアター「サールナートホール静岡シネギャラリー」の協力を得てこれを実現することができた。

なお、関係各位の尽力により、本展は新聞紙上で内容面が評価を受けた。『朝日新聞』（平成25年12月19日）では、北澤憲昭氏・山下裕二氏の2名の評論家が、『毎日新聞』（平成25年12月26日東京夕刊）では、美術評論家の高階秀爾氏がそれぞれ平成25年の優れた展覧会3本の一つとして本展を挙げている。

また、本展は美術館連絡協議会から「2013年 美連協

奨励賞」を受けた。

■関連事業

- ・シンポジウム「夏目漱石の美術世界」
日時：7月21日（日）14：00～16：00／当館講堂
パネリスト（50音順）：田中淳氏（東京文化財研究所）、芳賀徹（当館館長）、古田亮氏（東京藝術大学大学美術館）
司会：泰井良（広島県立美術館学芸員）
- ・美術講座「夏目漱石「文展と芸術」について」
日時：8月4日（日）14：00～15：00／当館講堂
講師：泰井良（広島県立美術館学芸員）
- ・映画『それから』ミニレクチャー付き上映会
日時：8月18日（日）10：00～17：00
（上映一講演一上映）／サールナートホール静岡シネギャラリー1Fホール
講師：上倉庸敬氏（大阪大学大学院教授）
- ・学芸員によるフロアレクチャー
7月27日（土）、8月3日（土）、8月10日（土）
各日14：00から／当館展示室

■図録

- 編 集：**東京藝術大学大学美術館、東京新聞
発 行：東京新聞、NHKプロモーション
執 筆：赤峯裕子、荒井経、大庭朋子、岡本明子、越智裕二郎、金井真悠子、佐藤央育、泰井良、芳賀徹、藤崎綾、古田亮、松村智郁子、村上敬、渡部名祐子
翻 訳：マーサ・マクリントク
デザイン：田中久子
制 作：アイメックス・ファインアート
仕 様：29.5×21.0 cm 260ページ
内 容：
論考
芳賀徹「漱石の中の絵——王若水の「懸物」をめぐって」
古田亮「夏目漱石の美術世界」
泰井良「夏目漱石『文展と芸術』——漱石の「自己の表現」と黒田清輝、高村光太郎」
図版目録
出品作家略歴
関連年表
関連文献
出品作品目録

■出品目録

pp. 82-88 を参照

夏目漱石の美術世界

NATSUME SOSEKI AND ARTS

文学から観る、美術から読む。

7月13日(土)～8月25日(日)

開館時間…午前10時～午後5時30分(最終入館は午後5時)

休館日…毎月第1・3日曜日・8月13日(土)・9月16日(日)

観覧料…700円(中学生以下500円)

大学生以下無料

静岡県立美術館

▲チラシ

世界遺産登録記念

富士山の絵画

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
特別協賛：清水銀行
会期：平成25年9月7日（土）～10月20日（日）

■概要

平成25年6月、晴れて富士山が世界文化遺産に登録された。富士山がいにしえより信仰の対象とされ、様々な芸術活動の源泉となってきたことは周知のとおりであるが、この機会に改めてその文化的意義を示すために、中世から近代にいたる富士山の絵画を一堂に集めた展覧会を開催した。

世界遺産への登録にあたっては、富士山の山体そのものとあわせて、その周囲にある神社、登山道、湖沼など数多くの構成資産が選定されている。これら構成資産は、富士山と一体となってその価値を構成し、文化的景観を創出している点に大きな意義が認められる。富士山信仰においても重要な意義をもつ「白糸ノ滝」や、地理的には富士山からやや離れた場所にある「三保松原」が構成資産として選定されたのは、このためである。とりわけ、芸術の源泉という意味で、両者の果たしている役割は非常に大きいといえる。

本展ではこの点に注目し、富士山信仰はもとより、静岡県の景勝地としても名高い「三保松原」「白糸ノ滝」が富士山と組み合わせられることで、どのような景観を形作ってきたのかについても検証した。

■会期中イベント

- 特別講演会
9月15日（日）14：00～15：30／当館講堂
「世界遺産としての富士山—外国人の見聞を中心に—」
芳賀徹（当館館長）
- 美術講座
10月6日（日）14：00～15：30／当館講座室
「富士山—信仰と芸術の山—」
富士雄也（当館主任学芸員）
- 学芸員によるフロアレクチャー
9月14日（土）、23日（月・祝）、29日（日）
10月13日（日）
各日14：00～15：00／当館展示室

■関連記事

- （展覧会紹介）『翼の王国』8月号
- （展覧会紹介）『月刊水墨画』8月号
- 富士雄也「富士画1000年史」『芸術新潮』第64巻第9号（富士山大特集）8月24日
- （展覧会紹介）『てんとう虫』9月1日号
- 「芸術のなかの富士山」『はれ予報』9月号
- 「視点論点」（「芸術の山 富士山」）NHK総合 9月6日放送
- 富士雄也「世界遺産としての富士山」『新美術新聞』9月11日号

- 「美の履歴書 富士三保松原図屏風」『朝日新聞』9月18日
- 日曜美術館アートシーン NHK教育 9月22日放送
- 「白煙を上げる姿も 富士山大絵画展」『週刊新潮』9月26日号
- 「富士山 千年の旅①～④」『日本経済新聞』11月24日～12月15日
- 展覧会回顧（保坂健二郎氏）『新美術新聞』12月11日、21日号
- 展覧会回顧（高階秀爾氏）『朝日新聞』12月18日

■図録

編集・発行：静岡県立美術館
制作・印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
仕様：A4版 144ページ
内容：

ごあいさつ
富士雄也「富士山のトポスとその変遷—「発見」される富士山—」
図版・作品解説
主要参考文献
落款・印章

■出品目録

pp. 89-91 を参照



▲チラシ

二見彰一展

主催：静岡県立美術館

会期：平成25年11月22日（金）～平成26年1月19日（日）

■概要

二見彰一（1932～）は、戦後日本の銅版画界を支えてきた作家の一人である。色刷りアクアチンを用いたその繊細な表現は、夢見のような詩情を漂わせつつも、どこか芯の通ったたたずまいを感じさせる。二見の作品は日本のみならず、ヨーロッパ、特に北ドイツで反響を呼び、各地で版画や水彩画の展覧会を50回以上開催してきた。当館は2009（平成21）年度に作家自身からの寄贈を受け、137点の二見作品を収蔵した。本展は、作家所蔵の作品や資料をさらに加えた約300点で、二見の世界をまとめてご覧いただく、静岡では初めての機会であった。

■会期中イベント

- ・特別講演会
11月23日（土・祝）14：00～14：30／当館展示室
「二見彰一 自らの作品を語る」
- ・コンサート
1月12日（日）、13日（月・祝）
「二見彰一展 音楽と美術と」
演奏：斎藤樹里（ハープ）
- ・美術講座
1月8日（水）～1月12日（日）
「ちょっと体験講座「銅版画」」
1月13日（月・祝）
二見彰一展関連銅版画講座
「アクアチン講座 構成の愉しみ」
- ・学芸員によるフロア・レクチャー
2013年11月24日（日）、12月4日（水）、14日（土）、18日（水）
12月8日（日）、15日（日）
2014年1月2日（木）、8日（水）
各回14：00から／当館展示室
- ・当館ボランティアによるギャラリー・ツアー
2013年12月8日（日）、15日（日）
2014年1月5日（日）、19日（日）
各日13：00～、14：00～、15：00～／当館展示室

■図録

編集・発行：静岡県立美術館

執筆：新田建史、南美幸

制作：有限会社サイズ

印刷：日本レーベル印刷株式会社

仕様：A4版94ページ

内容：

あいさつ

新田建史「ブルーの探究、あるいは深みを視ることについて」

第1章 最初期の努力（1963-68）

第2章 アクアチンによる制作と版画集（1969-）

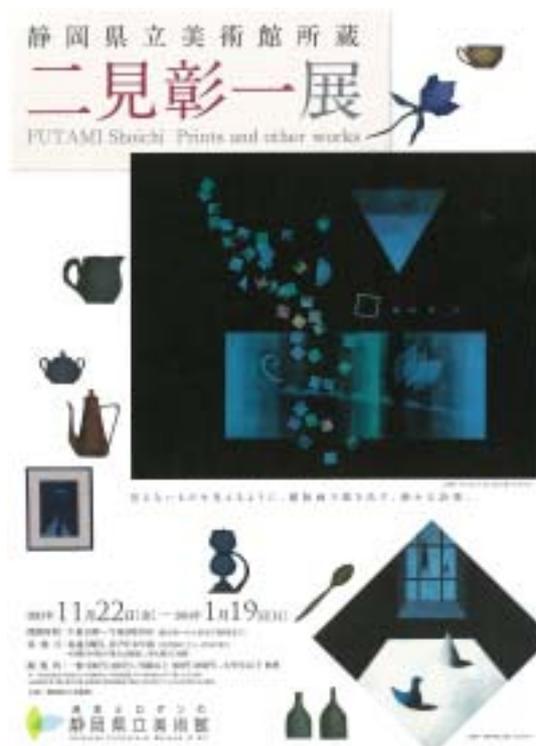
第3章 ドイツとの関わり（1975-2005）

第4章 近年の試み 詩画集ほか（2006-）

資料 作家略歴 二見彰一文献 作品データ

■出品目録

pp. 92-101 を参照



▲チラシ

グループ「^{げんしょく}幻触」と石子順造 1966—1971

—時代を先駆けた冒険者たちの記録—

主催：静岡県立美術館

特別協賛：鈴与グループ

会期：平成26年2月1日（土）～3月23日（日）

■概要

1966年に静岡を拠点に結成された美術家集団、グループ「幻触」は、1956年から64年まで清水で暮らした気鋭の評論家石子順造との深い交流を通して、時代を先駆ける作品を発表し、1966年から1971年にかけての日本の現代美術シーンにおいて、重要な足跡を残した。

本展では、同時代の美術の動向の中における、鈴木慶則、前田守一、飯田昭二、丹羽勝次、小池一誠ら主要なグループメンバー達の表現の意味を、石子順造の美術批評や、当時の資料から読み解き、未だ広く知られていない、グループの輪郭を浮き上がらせ、グループ「幻触」の活動を美術史の中に落とし込むことを目指した。

展示では、当館所蔵作品に加えて、作家や遺族らが保管していたオリジナル作品を紹介するとともに、現存しない作品3点の再制作を行った。また、1960年代半ば～1970年初頭の美術の動向を特徴づける、美術作品を合わせて展示し、時代の表現の中におけるグループ「幻触」の作品の意味や、同時代の美術に「幻触」が果たした役割についても検証した。

石子順造の代表的な批評文と、グループ「幻触」の活動を伝える写真や文字資料は、おもに図録の中で詳細に紹介した。「幻触」のメンバーや、石子順造と接点のあった、戦後美術の重要な作家のひとりである李禹煥の未掲出の論文を、本図録に全文掲載したほか、これまで十分まとめられる機会のなかった、主要メンバーの個人プロフィールを図録別冊に掲載した。

■関連事業

・シンポジウム

3月9日（日） 13：30～16：30／静岡県立中央図書館講堂

「石子順造、グループ『幻触』、1960年代」

パネリスト：榎木野衣氏（美術評論家、多摩美術大学教授）、梅津元氏（埼玉県立近代美術館主任学芸員）、加治屋健司氏（広島市立大学 准教授）

司会：川谷承子（当館上席学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー

3月2日（日）、16日（日）

各日14：00～／当館展示室

・演劇公演

2月14日（金）19：00開演、15日（土）19：00開演、16日（日）15：00開演／アトリエみるめ（静岡市駿河区寿町12-21）

「ハプニング劇『此処か彼方か、はたまた何処か？』」

作：上杉清文、内山豊三郎

演出：大岡淳

出演：SPAC

料金：1,500円

主催：ふじのくに文化・芸術振興事業実行委員会、SPAC-静岡県舞台芸術センター

協力：一般社団法人 静岡アート支援機構

支援：平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館活動支援事業

・「むすびじゅつ」静岡の芸術文化を掘り起こす共同事業

「むすびじゅつ」静岡の芸術文化を掘り起こす共同事業報告書を参照

■図録

編集・発行：静岡県立美術館

デザイン：大溝裕（Glantz）

印刷：株式会社山田写真製版所

仕様：21.1×14.8cm 412ページ

内容：謝辞

ごあいさつ

凡例

第1章 グループ「白」の時代

第2章 石子順造の世界観

第3章 「幻触」前夜

第4章 「幻触」1966 - 68 —「見る」ことへの問い

第5章 「幻触」1969 - 71 もの派との交差 制度への問い

出品リスト

撮影・写真提供

図録別冊

編集・発行：静岡県立美術館

デザイン：大溝裕（Glantz）

印刷：株式会社山田写真製版所

仕様：21.1×14.8cm 112ページ

内容：展示風景

論考 川谷承子「グループ『幻触』と石子順造」

本阿弥清「石子順造と「幻触」 日本の現代美術に与えた影響（1969 - 69年）

成相肇「匿名の肉体にさわるには一石子順造的世界の手引き」

大岡淳「石子順造の転回—近代芸術批判のアポリア」

加治屋健司「石子順造と視覚の制度」

資料 作家略歴

関連年表

主要参考文献

■関連記事等

- NHK「日曜美術館」アートシーン 2月9日放送
- 「「幻触」の今昔作品を味わう」『朝日新聞』朝刊、静岡版、2月11日
- 大西若人「時代より先に生まれた芸術—戦後の前衛に光」『朝日新聞』夕刊、全国版、2月19日
- 高橋綾子「創2014 先駆性支えた「交流」」『朝日新聞』朝刊、愛知版、3月19日
- 平野雅彦「県立美術館『幻触』展 空白埋める美術研究」『静岡新聞』朝刊、3月3日
- 福住廉「まぼろしの輪郭「グループ『幻触』と石子順造 1966 - 1971」展」『美術手帖』2014年5月号
- 工藤健志「学芸員レポート グループ「幻触」と石子順造 1966-1971」『アートスケープ』2014年4月1日号

■出品目録

pp. 102-111 を参照



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館藏品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って、研究テーマは主に館藏品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第29号

■版 型 29.7×21.0 cm

■頁 数 35ページ

■発行日 平成26年3月31日

■内 容

□口絵図版

- ・下岡蓮杖《キリスト昇天の図》全図（横浜美術館蔵、伊藤務氏寄贈）
- ・下岡蓮杖《ゲッセマネに祈るキリスト》全図（蓮杖写真記念館蔵、篠澤公平氏寄贈）
- ・高芙蓉《富士川西岸望富嶽図》全図（個人蔵）

□論文

- ・南美幸「下岡蓮杖のキリスト教絵画―「手本」を中心とする考察」
- ・福士雄也「高芙蓉筆 富士川西岸望富嶽図」

□各論日・英レジュメ



(表紙)

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニューズレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆

- ・著書『ローマ-外国人芸術家たちの都市』（共著、竹林舎、平成25年10月）
- ・著書『版画の写像学』（共著、ありな書房、平成25年12月）
- ・著書『フランス近世美術叢書Ⅱ 絵画と受容』（共著、ありな書房、平成26年3月）

◆南美幸

- ・論文「絵師・下岡蓮杖に関する一考察 西洋的手法から見る作画態度」（東京都写真美術館監修『下岡蓮杖 日本写真の開拓者』国書刊行会、平成26年3月）
- ・論文「下岡蓮杖のキリスト教絵画－『手本』を中心とする考察」（『静岡県立美術館紀要』第29号、平成26年3月）

◆三谷理華

- ・口頭発表「ラファエル・コランの極東美術コレクション—新出旧蔵品について」（第1回ジャポニズム学会奨励賞受賞記念講演会、帝京大学、平成26年3月）

◆新田建史

- ・論文「ブルーの探究、あるいは深みを視ることについて」（『二見彰一展図録』当館、平成25年11月）

◆川谷承子

- ・論文「石田徹也とその時代」（『石田徹也ノート』求龍堂、平成25年9月）
- ・論文「グループ「幻触」と石子順造」（『グループ『幻触』と石子順造展図録』、当館、平成26年3月）

◆村上敬

- ・口頭発表「「留守模様」としての歴史画——川村清雄《建国》をめぐる」（第64回美学会全国大会、東京藝術大学、平成25年10月）

◆福士雄也

- ・論文「古画愛好の時代—狩野惟信《徽宗筆水仙鶴図模本》から見えてくること—」（『美術フォーラム21』第

27号、醍醐書房、平成25年5月）

- ・論文「富士見のトポスとその変遷—「発見」される富士山」（『世界遺産登録記念 富士山の絵画』展図録、当館、平成25年9月）
- ・論文「池大雅筆 翠嶂懸泉図」（『國華』1418号、平成25年12月）
- ・論文「高芙蓉筆 富士川西岸望富嶽図」（『静岡県立美術館紀要』第29号、平成26年3月）

研究会

平成25年度に開催された研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は準備室時代に始まり、ほぼ月1回のペースで現在までつづいている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館藏品に関する発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちと質疑応答を行っている。

4月

ジャン・バルポーの『古代ローマの最も美しきモニュメント』について

南美幸

平成24年度に購入したジャン・バルポーの版画集『古代ローマの最も美しきモニュメント』について、作家および作品についての基本的データを紹介するとともに、18世紀後半のローマに通底する考古学の現状と認識を踏まえつつ、ピラネージ作品と比較した上でのバルポーのいくつかの特質を指摘し、今後考えられる調査の方向性（ローマのピラネージ・サークルやフランス・アカデミーでのバルポーの位置づけ、18世紀の景観版画集の系譜における本書の特質など）について発表した。

5月

古画愛好の時代—狩野惟信《徽宗筆水仙鶴図模本》から見てくること

福士雄也

木挽町狩野家第七代の狩野惟信（1753～1808）が、浅野家旧蔵の伝徽宗《水仙鶴図》（個人蔵）を写した標題作は、狩野派の卓抜した描写力を示すのみならず、これまで不明であった原本の伝来および模本制作の経緯を示す由来書が付属している点、きわめて貴重である。とりわけ、当時大坂の御用商人が所蔵していたという伝徽宗画が、時の広島藩主・浅野斉賢の所望により献上されたという記載は、18世紀後半から19世紀前半にかけての古画愛好ブームを象徴的に示しており注目に値する。

また、「古画の学習」という言い方で括られがちなこの種の模本制作には、より積極的な意義を見出すべきであろう。ことに、本作のように明らかに鑑賞を前提として制作されたものについては、発注者の存在を抜きにしてはその意味が十分に理解できない。こうした作品が生み出された時代背景に目を向けることによって、そこで果たした狩野派の役割や、類似する模本類の制作意図についても見えてくるように思われる。

発表内容は、『美術フォーラム21』第27号（醍醐書房、2013年5月発行）誌上にて公表した。

6月

川村清雄《天の石屋戸の図》の発見

村上敬

「維新の洋画家 川村清雄展」に出品されたオルセー美術館所蔵の絵画《建国》。天石屋戸神話を絵画化した本作は、「装飾性」を武器として「日本的歴史画」の実現に挑んだ果敢な実験であり、川村の画業の一到達点と評価される。

さて、東京都江戸東京博物館には、先行研究によって《建国》の「構想文」とされた文書と「下絵」とされた水彩画が所蔵されている。発表者も従前の解釈にならない、「構想文」「下絵」をともに《建国》に深く関わるものと考えてきた。

だが今回、ある美術コレクターを通じ、「下絵」と酷似した構図を持つ未知の川村清雄作品が雑誌口絵として出版されているとの情報を得た（『日本一』2巻1号=1916年1月号所収）。「構想文」「下絵」に加え、清雄が天の石屋戸神話を扱った第三の資料の登場である。

これらを実見し詳細に検討した結果、発表者は今まで考えられてきた「構想文」「下絵」《建国》の三者の関係を見直し、「構想文」と《建国》とを密接に関連づけ、「下絵」は全く別の機会（すなわち今回発見された雑誌口絵執筆準備）のために描かれたという説を提起した。その意義についてはまた別の機会に考察したい。

7月

障壁画史における狩野永徳の創造性

浦澤倫太郎

修士論文をもとに内容を一部補い発表した。安土桃山時代の絵師、狩野永徳は織田信長や豊臣秀吉など権力者の城郭・御殿の障壁画制作を担ったことで知られるが、現存作例が極めて乏しい。秀吉が1588年に創建した天瑞寺の方丈障壁画も失われたとみられるが、模本が紹介されている。これらをもとに構図の復元と考察を試み、室中の松図については「檜図」と同様の巨樹を描きつつも、その構図は先行する聚光院方丈室中「花鳥図」に由来し、また各室画題は日月や四季の花木など中世のやまと絵障屏画に共通するなど、障壁画史における永徳による継承と創造について述べた。また方丈全体の間取りと各室画題を、近世初期の御殿建築と比較検討し、大坂城障壁画制作において永徳によって大きな変革がもたらされた可能性にも言及した。

9月

ラファエル・コラン—関連一次資料にみる画家をとりまく人的交流をめぐって

三谷理華

ラファエル・コランは、日本では近代洋画家を育てたフランス人画家として知られるものの、フランスでは忘れ去られてきた。したがって、画家の資料発掘や整理はフランス側においてまったくなされておらず、コランの書簡といった一次資料の探索から行う必要があるのが現状である。しかし、直系遺族の絶えたコランに関する一次資料は、個人宅などにまとまった形で保管されている訳ではなく、可能性のある公文書館等を丁寧に当たっていくという地道な方法を取るしかない。コランの自筆書簡については、パリの国立公文書館をはじめ、フランスの6機関に保管されていることをこれまで確認していた。これらに加え、発表者は、新たにオルセー美術館資料室、オート＝ド＝ソーヌ県公文書館等で調査を行い、新たにコラン関連の文書の存在を確認した。そしてそれを翻刻、翻訳し、内容に関して簡単な分析を加えた。結果、コランを取巻く人的交流の新たな側面が看取され、そこで共有されていた美意識など、コランの芸術を理解する上で有益と思われる幾つかの要素を抽出することができた。

10月

飯田昭二《トランスマイグレーション》について 川谷承子

飯田昭二はグループ「幻触」の中心メンバーの一人で、1967～68年には、鏡を用いて錯視的な効果を生み出す作品を制作したことで知られる。《トランスマイグレーション》は、1969年「第9回現代日本美術展」に出品され、発表当時、石子順造や李禹煥から高い評価を得た作品である。二本のヒノキを生木のまま、梢から根っこまで縦半分と、上下半分それぞれ割り、半分を富士山麓に生えたまま残し、もう半分を美術館の中に持ち込んで展示する、というコンセプトで制作され、素材としての木には、切るという行為を除いては、ほとんど手加えられてはいないという特徴を持つ。本発表では、現存しない本作がいかなる作品であったのかを、当時の写真と文字資料により整理するとともに、本作が「幻触」のメンバーと、批評家、石子順造との交流の末に生まれた作品である点を、石子の批評を参照しながら指摘した。

11月

クロード・ロランとタッソー《エルミニアと羊飼い》から考える 小針由紀隆

クロード・ロラン（1604/05-1682）の《エルミニアと羊飼い》（レスター伯爵、ホルカム・エステート）は、1666年にローマの収集家、パオロ・フランチェスコ・ファルコニエーリのために制作された作品で、主題の文学的典拠は、タッソーの長編叙事詩『エルサレム解放』（1581年

初刊）の一節（VII:6）にあった。

「エルミニアと羊飼い」の図像の展開を探ってみると、クロード以前にこの主題をよく選択していたのは、17世紀前半のローマで優位を占めていたボローニャ派の画家たちであった。そして、『エルサレム解放』の第7歌からインスピレーションを得て、この主題を描くためのプログラムを書き残したのも、ボローニャ出身の美術理論家、ジョヴァンニ＝バッティスタ・アグッキ（1570-1632）であった。つまり、この主題のイコノグラフィは、ボローニャ派の画家や理論家と不可分の関係にあり、クロードも彼らによって形成された図像伝統に留意していたと推察される。

本発表では、イコノグラフィ及びアグッキの手稿の記述を考察し、クロード自身の主題解釈に関して一、二の私見を付け加えた。詳細については、『フランス近世絵画叢書Ⅱ 絵画と受容』（共著、ありな書房、2014年）を参照されたい。

12月

南薫造の津波について 角田新

広島県賀茂郡（現呉市安浦町）出身の画家、南薫造（みなみ くんぞう 1883年(明治16年) - 1950年(昭和25年)）。東京美術学校卒業後、イギリス、フランスで学び、文展、帝展、新文展、日展で活躍。油彩、水彩画家として、また創作版画作家としても知られている。この南の作品の中に《津波》と題する作品が残されている。キャンバスに油彩で描かれ、作品名以外、制作年も含めて情報はなく、作品に描かれた情景が一体どういう状況を描いたものなのか画面から読み解くことは難しい。

しかし描かれた人物たちは、突然の津波を目にしたとするにはあまりに緊張感がないことから、この作品が描く「津波」が、有名なアマゾン川の河川逆流現象・ポロロッカ同様、決まった日時に発生するものではないかと仮定。南が逆流現象「海嘯」を描いた可能性を、写生地、写生時期などと合わせ、日本でも知名度の高かった中国、銭塘江の「銭塘江大潮」に焦点を絞りつつ、その可能性について検証した。

2月

鈴木松年《日本武尊・素戔鳴尊図屏風》 一右隻主題の再検討 石上充代

標題作（六曲一双屏風、明治22年、個人蔵）は、平成8年（1996）の画集への掲載を機に、現タイトルによって広く知られるようになった松年の代表作である。右隻の主題は日本武尊とされてきたが、画面左上へ飛び去る

黒い鳥の存在を重視すれば神武東征とするのが妥当であり、大和へ到る山中で険路に阻まれた神武天皇一行を、八咫鳥が導く場面と考えられる。図像については、明治20年代の歴史画流行に多大な貢献をした菊池容斎『前賢故実』からの借用が指摘できる。巻一 神武天皇の項目に挙がる「道臣命」は、八咫鳥の後を追って道を開いた功績により天皇からその名を賜っており、主題との関わりも深い人物である。『前賢故実』に示されるこの道臣命の図像と、装束や姿勢など多くの共通点を持つ人物を画中找到することができるのである。主題の成立については錦絵との関連も検討課題であり、この時代特有の問題を是らむ重要作として今後研究を進めたい。

3月

二見彰一について

新田建史

二見彰一は、戦後日本の銅版画界を切り開いた作家の一人でありながら、受賞歴は少なく、その活動を跡付けた研究や文献なども、非常に少ない。この現状を、1970年代の、主に日本の版画や現代美術の動向と関連させながら考察することで、「美術史」文脈を強く意識する「現代美術」の在り方と、二見彰一の活動とを、対比的に示した。

教育普及事業の課題

神谷洋介

平成25年度より実技室の運営が教員一名体制となったことで様々な問題点が浮き彫りとなった。

これまでに県立美術館では、教育普及事業に力を入れ、粘土・絵の具、ロダン館デッサン、実技講座等の体験系講座から、ボランティアとの鑑賞、美術館の秘密をさぐれ、ななふしぎ等、鑑賞系まで幅広く行っている。また、学校の要望にあわせて、職場体験や粘土やレプリカの貸し出し、先生向け粘土・絵の具教室、出張美術講座まで幅広く事業を行っている一方、実技室スタッフの負担の増加、またプログラムの内容を向上するという点から改めて実技室の在り方が見直されることとなった。

そこで外部エデュケーターの導入が検討事項の一つとして挙がり、研修の必要性を考えるとともに外部エデュケーターとの連携研究のため視察・調査を行った。本発表では県内外の他美術館における視察調査の結果を報告、また今後の教育普及事業が事業のスリム化に合わせて将来的にどのような人材活用や養成を目指すべきなのかを課題とした。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による写真撮影を行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順フォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

(2) 館蔵品のデジタル画像

平成16年度からは、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影も行なっている。作成または撮影されたデジタル画像は、DVDなどで納品される。また課内PCにも保存され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの適及撮影も懸案となっている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループに整理を行なっていただいております、学芸員の研究などに活用されている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、各企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には市販のデー

タベースソフト「桐」を使用している。

(1) 館蔵品

館蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

履歴データは伝来、修復歴、展覧会出品歴、収蔵品展展示歴、文献掲載歴の5種のファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、デジタル画像とリンクしている。新たに発生する履歴データは日常業務と連携し、蓄積することを目指しているが、見落とし等によるデータの濃淡が散見され、問題となっている。

館蔵品データのバックアップを、館内だけではなく、館外の適切な場所に保管することも、防災対策上考えていかねばならない。

(2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索も閲覧室に設置されたPC上で行うことができる。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行われている。

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受け入れには、次の3つを条件とし、本年度は7大学11名の実習生を受け入れた。

- (1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を身につけてもらうことを目指している。カリキュラムは実習、講義、演習、見学からなり、それぞれを当館学芸課及び総務課の職員が担当した。

本年度は「美術館は社会に必要か？」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を、実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、事前レポートの提出、発表、および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

*以下()内は当館担当者名

■実習内容

・実習

作品取扱実習(南、三谷、福土、石上、浦澤)

収蔵庫内実習(新田、浦澤)

「美術館教室」補助体験(神谷)

・講義

県立美術館の概要(小針)

コレクション形成とその活用の工夫(小針)

展覧会ができるまで①:国際巡回展(小針)

展覧会ができるまで②:日本洋画展(角田)

展覧会ができるまで③:日本画展(福土)

展覧会ができるまで④:現代美術展(川谷)

文化財の管理・保全(新田)

学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動(石上)

実技外イベントについて(角田)

博物館評価と文化政策の基礎(村上)

美術館と学校教育連携(三谷)

・演習

事前課題発表(村上)

・見学

施設見学①:裏方(岡村、南)

施設見学②:表方(小針)

■カリキュラム

(1) 10:00~10:50

(2) 11:00~11:50

(3) 13:00~13:50

(4) 14:00~14:50

(5) 15:00~15:50

(6) 16:00~16:50

8月5日(月)

(1) オリエンテーション(村上)

(2) 県立美術館の概要(小針)

(3) コレクション形成とその活用の工夫(小針)

(4) 施設見学①:表方(小針)

(5) 施設見学②:裏方(岡村、南)

(6) 事前課題発表、実習ノート整理(村上)

8月6日(火)

(1-2) 事前課題発表(村上)

(3) 展覧会ができるまで①:国際巡回展(小針)

(4) 展覧会ができるまで②:日本洋画展(角田)

(5) 実技外イベントについて(角田)

(6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月7日(水)

(1) 展覧会ができるまで③:日本画展(福土)

(2) 文化財の管理・保全(新田)

(3-5) 収蔵庫内実習(新田、浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月8日(木)

(1) 美術館と学校教育連携(三谷)

(2) 学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動(石上)

(3-5) 作品取扱実習(南、三谷、福土、石上、浦澤)

(6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月9日(金)

(1) 展覧会ができるまで④:現代美術展(川谷)

(2) 博物館評価と文化政策の基礎(村上)

(3-5) 「美術館教室」補助体験(神谷)

(6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

収蔵品展

当館の収蔵品を幅広くご覧いただくため、新収蔵品展のほか、日本画や西洋絵画、日本洋画、現代美術等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館1階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時3点の作品を無料で公開している。そのうち1点は、富士山を描いた作品を展示するようにしている。

本年度の収蔵品展は、以下のとおりである。

■平成25年度収蔵品展

7月13日（土）～8月25日（日）

新収蔵品展

8月27日（火）～10月6日（日）

挿絵・書籍の愉しみ

10月8日（火）～11月24日（日）

佐伯祐三、里見勝蔵と独立の画家たち

11月26日（火）～1月19日（日）

グループ「幻触」と石子順造 プレ企画 前衛の駆け抜けた頃

1月21日（火）～2月23日（日）

大地から－日本画の情景

2月25日（火）～3月30日（日）

没後150年 福田半香とその師友

■出品目録

pp. 112-114 を参照

移動美術展

小山移動美術展

この秋、富士山の麓で静岡ゆかりの作品たちと出逢う

会場：小山町総合文化会館
会期：平成25年9月19日（木）～9月29日（日）
主催：静岡県立美術館、小山町・小山町教育委員会
観覧料：無料

駿東郡小山町の小山町総合文化会館を会場とした移動美術展。

今回の展覧会では会場が富士山の麓ということもあり、富士山を描いた作品やロダンの《考える人》（小型像）など美術館の名品を展示。これらの作品を通して明治から現代まで、時代の流れと共に表現が多様化し、様々な作品へと発展していく過程を見て取れる展示とした。こうしたストーリーの中心に「富士山」という解りやすいテーマをおいたことで、多くの来館者から、良く判ると好評を博した。これらの出品作の中には中村岳陵など小山町ゆかりの作家の作品や、「グループ幻蝕」なども交え、静岡ゆかりの作家の作品紹介にも努めた。静岡県立美術館にたびたび来館することは難しい地域の鑑賞者に、静岡県立美術館収蔵品の特色を堪能していただける展覧会となった。

■会期中イベント

[静岡県立美術館によるもの]

- ・学芸員によるギャラリー・トーク
9月21日(土)14:00～

[小山町総合文化会館によるもの]

- ・山本裕康チェロリサイタル
9月22日（日）15:30～

■出品目録

p. 115 を参照



▲チラシ

ふくろい移動美術展

この秋、歴史と自然の郷で静岡ゆかりの作品たちと出逢う

会場：袋井市月見の里学遊館
会期：平成25年10月18日（金）～10月30日（水）
主催：静岡県立美術館、袋井市月見の里学遊館
後援：袋井市、袋井市教育委員会、袋井市文化協会
観覧料：無料

袋井市月見の里学遊館で開催した移動美術展。

当館の所蔵品に川俣正の「袋井駅前プロジェクト」があることを踏まえ、この作品と響き合う現代美術作品、特に会場に近い浜松出身の前田守一など「グループ幻蝕」に参加した作家の作品を幅広く展示し、明治以降、そうした表現に至るまでの変遷を、日本の油彩画作品を軸にたどれるよう選定した。また本年は富士山が世界文化遺産に選ばれたこともあり、初期油彩画は富士山を描いた作品に絞って展示を行ったが、これにロダンの《考える人》（小型像）なども加わり、まさに「風景とロダンの美術館」を標榜する静岡県立美術館の特徴が良く出た展示をご堪能いただく機会を提供できたと考える。また今回の展示では袋井中央公民館の市民講座など、展示作品を活用しての鑑賞学習会が開催されるなど、周辺地域からも積極的な参加があり有意義な展示となった。

■会期中イベント

[静岡県立美術館によるもの]

- ・学芸員によるギャラリー・トーク
10月19日（土）10:00～

[袋井市月見の里学遊館によるもの]

- ・藤森亮一チェロコンサート
10月19日（土）14:00～
- ・ファミリースポーツフェスティバル、親子映画会
10月20日（日）10:00～、14:00～
- ・食のワークショップ シェフのご自慢レシピ
10月23日（水）10:00～
- ・クラフトフェアin月見の里2013
10月26日（土）、27日（日）10:00～

■出品目録

p. 116 を参照



▲チラシ

平成25年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とした国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとする作品

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
1 黒田清輝	富士之図 (6点組)	1898 (明治31)	板、油彩	25.0×33.0	購入
<p>本作は、日本洋画界をその双肩に担う立場となったフランス帰りの若き黒田が、日本を象徴する画題として富士山に取り組んだ作である。油彩という西洋由来の手法を用いて、日本風景をどう表現すべきか。多くの滞欧画家が帰国後に直面するこの課題に黒田は正面から取り組んだ。本作は6点それぞれに、逗子あるいは鎌倉の海辺から海を隔てて富士山を描いた連作であり、季節と時間によって移り変わる情景を、新鮮な色調で描き出している。</p>					
					
2 岡鹿之助	献花	1958 (昭和33)	キャンヴァス、油彩	65.0×80.0	伊藤恒道氏寄贈
<p>本作は岡鹿之助の花の静物画の代表作の一つ。「中心から放射状に広がる形態とそれによって生じる動きへの関心」(田所夏子氏)を軸として作画された非常に構築的な作品である。第35回春陽会展出品作で、岡の個展でもしばしば紹介されている。</p>					
					

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
3 小林猶治郎	崖	1924 (大正13)	キャンヴァス、 油彩	50.0×60.7	小林敬氏 寄贈	小林猶治郎は現在の静岡市清水区興津に生まれた。猶治郎は財産家の家に生まれ、生涯絵を売らずに過ごせた画家である。その作風を一定の流派に当てはめて考えることは難しいが、あえてひとことで表現するならば、旺玄社で活動とともにした牧野虎雄のように、不透明で強い色彩を用いるフォーヴ風といえる。今回は、当館の収集方針に鑑み、1920年代から50年代にかけて各時代の様式をあらかず風景画の御寄贈をいただいた。
						
4 小林猶治郎	雪溪	1924 (大正13)	板、油彩	24.0×26.0	小林敬氏 寄贈	
5 小林猶治郎	踏付けられた 景物	1925 (大正14)	キャンヴァス、 油彩	53.0×65.5	小林敬氏 寄贈	
6 小林猶治郎	峠	1928 (昭和3)	キャンヴァス、 油彩	46.0×137.0	小林敬氏 寄贈	
7 小林猶治郎	夜櫻	1930 (昭和5)	キャンヴァス、 油彩	91.0×106.0	小林敬氏 寄贈	
8 小林猶治郎	一獻淡味	1930 (昭和5)	キャンヴァス、 油彩	91.0×106.0	小林敬氏 寄贈	
9 小林猶治郎	山峡	1930(昭和5)頃	キャンヴァス、 油彩	90.0×73.0	小林敬氏 寄贈	
10 小林猶治郎	入江 (習作第六〇四)	1941 (昭和16)	キャンヴァス、 油彩	90.0×117.0	小林敬氏 寄贈	
11 小林猶治郎	静物	1954 (昭和29)	キャンヴァス、 油彩	71.0×38.0	小林敬氏 寄贈	

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
12 伝池大雅	林屋洞図	18世紀 (江戸時代)	絹本着色、 軸装	44.3×134.9	山崎大氏 寄贈
<p>掛幅としてはかなり横長の画面に展開された、大胆な構図が魅力的な山水図。やや形式化した岩皴等から、現時点では池大雅（1723～76）の作とは見なし難いと考えられるが、かつて『池大雅作品集』（1960）に掲載された経歴をもつ作品で、大雅研究史上の意義は小さくない。</p>					
					
13 平山郁夫	秋天東寺五重塔	2004（平成16）	紙本着色	116.7×80.3	伊藤恒道氏 寄贈
<p>京都をテーマとして制作・発表された晩年を代表する作品群のうちの1点。秋の東寺は、浄土の美しさを実感させるとして画家が愛した代表的な京名所で、紅葉と夕映えに彩られる五重塔の壮観を画面中央に堂々と描く。厚塗りで発色と質感を生かす岩絵具の使い方が、現代日本画の特徴を端的に示す。</p>					
					
14 グレン・アーモンド	Civil Dawn@ Mt.Hiei.7	2008	アクリル、 Cプリント	186×186×5	太田正樹氏 寄贈
<p>ダレン・アーモンドは、映像、インスタレーション、彫刻、写真などを組み合わせて、個人あるいは歴史上の記憶、時間、連続性をテーマに、鑑賞者を内的な旅へと誘う作品を制作している。本作は、満月の夜の月明かりの下で、15分以上もの長時間露光を行い自然の風景を撮影した「フルムーン」シリーズの2点。</p>					
					
<p>Courtesy the Artist and SCAI THE BATHHOUSE</p>					
15 グレン・アーモンド	Civil Dawn@ Mt.Hiei.8	2008	アクリル、 Cプリント	186×186×5	太田正樹氏 寄贈
					
<p>Courtesy the Artist and SCAI THE BATHHOUSE</p>					

■収蔵点数一覧 (平成25年度末現在)

購入作品数

(百万円)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
25											0	0
合計	点数	122	121	32	12	1014	7	75	1	46	20	1,450
	金額	1,681	2,831	311	68	361	80	2,811	3	8	142	8,297

寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5					0						0
6					1						1
7					0						0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
計	208	111	19	93	281	340	10	8	11	55	1,138

※管理換作品（9）、基金保有作品（6）を除く

図書資料の収集・整理

■収集

平成25年度の新たな受入により、当館蔵書は88,784冊となった。その累計内訳は、刊行図書39,983冊、美術雑誌21,591冊、美術館等刊行物27,210冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成25年度に行なった作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行った。

③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成25年度の利用者は2,086人で、昨年度より170人増加した。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	須田国太郎	筆石村	神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」	島根県立美術館 (2/15-4/1)	2012/3/28-2013/4/11
2	松岡映丘	今昔ものがたり 伊勢図	独立行政法人国際交流基金、京都国立近代美術館、ローマ国立近代美術館、ローマ日本文化会館	「近代日本画と工芸の流れ 1968~1945」展	ローマ国立近代美術館 (2/26-5/5)	2013/2/16-2013/5/15
3	狩野永岳	三十六歌仙歌意図 屏風	島根県立石見美術館	「和歌と美術」展	島根県立石見美術館 (4/20-6/3)	2013/4/10-2013/6/13
4	狩野探信	井手玉川・佐野渡 図屏風	島根県立石見美術館	「和歌と美術」展	島根県立石見美術館 (4/20-6/3)	2013/4/10-2013/6/13
5	円山応挙	木賊兎図	愛知県美術館、中日新聞社	「応挙」展	愛知県美術館 (3/1-4/14)	2013/2/19-2013/4/24
6	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	ソウル市立近代美術館、韓国日報	「ゴーギャン：神話への旅」展	ソウル市立近代美術館 (6/14-9/29)	2013/6/4-2013/10/9
7	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《空間の鳥》	公益財団法人ひろしま美術館	「イサム・ノグチ～その創造の源流」展	公益財団法人ひろしま美術館 (7/20-10/14)	2013/7/10-2013/10/24
8	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《無限柱》	公益財団法人ひろしま美術館	「イサム・ノグチ～その創造の源流」展	公益財団法人ひろしま美術館 (7/20-10/14)	2013/7/10-2013/10/24
9	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景	公益財団法人ひろしま美術館	「イサム・ノグチ～その創造の源流」展	公益財団法人ひろしま美術館 (7/20-10/14)	2013/7/10-2013/10/24
10	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《雄鶏》	公益財団法人ひろしま美術館	「イサム・ノグチ～その創造の源流」展	公益財団法人ひろしま美術館 (7/20-10/14)	2013/7/10-2013/10/24
11	浅井忠	雲	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (3/26-5/6)	2013/3/16-2013/9/4
12	中川八郎	松原	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (3/26-5/6)	2013/3/16-2013/9/4
13	サルヴァトーレ・ローザ	川のある山岳風景	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (3/26-5/6)	2013/3/16-2013/9/4
14	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	広島県立美術館 (3/26-5/6)	2013/3/16-2013/9/4
15	浅井忠	雲	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	東京藝術大学美術館 (5/14-7/7)	2013/3/16-2013/9/4
16	中川八郎	松原	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	東京藝術大学美術館 (5/14-7/7)	2013/3/16-2013/9/4
17	サルヴァトーレ・ローザ	川のある山岳風景	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	東京藝術大学美術館 (5/14-7/7)	2013/3/16-2013/9/4
18	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	東京藝術大学美術館 (5/14-7/7)	2013/3/16-2013/9/4
19	浅井忠	雲	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	静岡県立美術館 (7/13-8/25)	2013/3/16-2013/9/4
20	中川八郎	松原	広島県立美術館、東京藝術大学美術館、静岡県立美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	静岡県立美術館 (7/13-8/25)	2013/3/16-2013/9/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
21	サルヴァ トーレ・ ローザ	川のある山岳風景	広島県立美術館、東京藝 術大学美術館、静岡県立 美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	静岡県立美術館 (7/13-8/25)	2013/3/16- 2013/9/4
22	ジョゼフ・ マロード・ ウィリアム・ ターナー	パッランツァ、マッ ジョーレ湖	広島県立美術館、東京藝 術大学美術館、静岡県立 美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	静岡県立美術館 (7/13-8/25)	2013/3/16- 2013/9/4
23	リチャー ド・ウィ ルソン	リン・ナントルか らスノードンを望 む	広島県立美術館、東京藝 術大学美術館、静岡県立 美術館、東京新聞	「夏目漱石の美術世界」展	静岡県立美術館 (7/13-8/25)	2013/3/16- 2013/9/4
24	狩野山雪	富士三保松原図	京都国立博物館、毎日新 聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
25	狩野山雪	富士三保松原図	京都国立博物館、毎日新 聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
26	狩野山雪	四季花鳥図屏風	京都国立博物館、毎日新 聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
27	狩野山雪	夏冬山水図	京都国立博物館、毎日新 聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
28	狩野山楽	雲門体露金風図	京都国立博物館、毎日新 聞社	「狩野山楽・山雪」展	京都国立博物館 (3/30-5/12)	2013/3/20- 2013/5/22
29	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(3)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
30	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(4)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
31	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(6)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
32	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(7)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
33	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(8)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
34	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(9)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
35	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(11)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
36	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	牢獄第2版(15)	町田市立国際版画美術館	「空想の建築展」	町田市立国際版画美術館 (4/13-6/16)	2013/4/3- 2013/6/26
37		武蔵野図屏風	公益財団法人岡田文化財 団パラミタミュージアム	「富士山と桜」展	パラミタミュージアム (4/4-5/6)	2013/3/25- 2013/5/16
38	東山魁夷	秋富士	公益財団法人岡田文化財 団パラミタミュージアム	「富士山と桜」展	パラミタミュージアム (4/4-5/6)	2013/3/25- 2013/5/16
39	今村紫紅	宇津の山地	公益財団法人三溪園保勝会	「今村紫紅-横浜のいろ」展	三溪記念館 (11/2-12/8)	2013/10/23- 2013/12/18
40	ギュスター ヴ・クー ルベ	ピュイ・ノワールの 渓流	ヤマザキマザック美術館	「フランスの美しい風景ー ロココからバルビゾン派、 印象派へー」展	ヤマザキマザック美術館 (4/27-7/15)	2013/4/17- 2013/7/25
41	テオドル ル・ルソー	ジュラ地方、草葺 き屋根の家	ヤマザキマザック美術館	「フランスの美しい風景ー ロココからバルビゾン派、 印象派へー」展	ヤマザキマザック美術館 (4/27-7/15)	2013/4/17- 2013/7/25
42	ポール・ シニャッ ク	サントトロペ、 グリモアの古城	姫路市立美術館、東京ス テーションギャラリー、 神戸新聞社	「エミール・クラウスと ベルギーの印象派展」	姫路市立美術館 (4/20-5/26)	2013/4/10- 2013/7/25
43	ポール・ シニャッ ク	サントトロペ、 グリモアの古城	姫路市立美術館、東京ス テーションギャラリー、 神戸新聞社	「エミール・クラウスと ベルギーの印象派展」	東京ステーションギャラ リー (6/8-7/15)	2013/4/10- 2013/7/25

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
44	草間彌生	無題	金沢21世紀美術館	「内蔵感覚ー遠くて近い生の声」	金沢21世紀美術館 (4/27-9/1)	2013/6/25- 2013/9/11
45	狩野栄信	百猿図	埼玉県立歴史と民族の博物館	「狩野派と橋本雅邦」	埼玉県立歴史と民族の博物館 (10/12-11/24)	2013/10/2- 2013/12/4
46	狩野栄信	楼閣山水図	埼玉県立歴史と民族の博物館	「狩野派と橋本雅邦」	埼玉県立歴史と民族の博物館 (10/12-11/24)	2013/10/2- 2013/12/4
47	橋本養邦	福祿寿図	埼玉県立歴史と民族の博物館	「狩野派と橋本雅邦」	埼玉県立歴史と民族の博物館 (10/12-11/24)	2013/10/2- 2013/12/4
48	橋本雅邦	三井寺	埼玉県立歴史と民族の博物館	「狩野派と橋本雅邦」	埼玉県立歴史と民族の博物館 (10/12-11/24)	2013/10/2- 2013/12/4
49	秋野不矩	ガンガー (ガンジス河)	浜松市秋野不矩美術館	「秋野不矩ーインドの風」展	浜松市秋野不矩美術館 (9/13-11/17)	2013/9/3- 2013/11/27
50	秋野不矩	たむろするクーリー	浜松市秋野不矩美術館	「秋野不矩ーインドの風」展	浜松市秋野不矩美術館 (9/13-11/17)	2013/9/3- 2013/11/27
51	秋野不矩	ウダヤギリII	浜松市秋野不矩美術館	「秋野不矩ーインドの風」展	浜松市秋野不矩美術館 (9/13-11/17)	2013/9/3- 2013/11/27
52	秋野不矩	廻廊	浜松市秋野不矩美術館	「秋野不矩ーインドの風」展	浜松市秋野不矩美術館 (9/13-11/17)	2013/9/3- 2013/11/27
53	秋野不矩	ブラーミンの家	浜松市秋野不矩美術館	「秋野不矩ーインドの風」展	浜松市秋野不矩美術館 (9/13-11/17)	2013/9/3- 2013/11/27
54	アルベル ト・ジャ コメッティ	横たわる女	武蔵野美術大学美術館・ 図書館	「ET IN ARCADIZ EGO 墓は語るか?ー彫刻 と呼ばれる、隠された場 所」展	武蔵野美術大学美術館 (5/20-8/10)	2013/5/10- 2013/8/20
55	イサム・ ノグチ	クロノス	武蔵野美術大学美術館・ 図書館	「ET IN ARCADIZ EGO 墓は語るか?ー彫刻 と呼ばれる、隠された場 所」展	武蔵野美術大学美術館 (5/20-8/10)	2013/5/10- 2013/8/20
56	ヨーハン・ バルトー ルト・ヨ ンキント	オンフルール近郊 の街道	東京富士美術館、産経新 聞社	「光の賛歌 印象派」展	東京富士美術館 (10/22-2014/1/5)	2013/10/12- 2014/1/15
57	椿椿山	花卉七福図	町田市立国際版画美術館	「縁起もの 版画と絵画 で楽しむ吉祥図像」展	町田市立国際版画美術館 (9/28-11/24)	2013/9/18- 2013/12/4
58	椿椿山	海鶴蟠桃図	町田市立国際版画美術館	「縁起もの 版画と絵画 で楽しむ吉祥図像」展	町田市立国際版画美術館 (9/28-11/24)	2013/9/18- 2013/12/4
59	中山高揚	白梅に錦鶏図	町田市立国際版画美術館	「縁起もの 版画と絵画 で楽しむ吉祥図像」展	町田市立国際版画美術館 (9/28-11/24)	2013/9/18- 2013/12/4
60	楯取魚彦	酒泉猩々図	町田市立国際版画美術館	「縁起もの 版画と絵画 で楽しむ吉祥図像」展	町田市立国際版画美術館 (9/28-11/24)	2013/9/18- 2013/12/4
61		富士曼荼羅図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
62	墨江武禅	芙蓉峯細見之図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
63	原在中	富士三保松原図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
64	狩野永岳	富士山登龍図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
65	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
66	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠 望図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
67	横山大観	群青富士	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
68	木村武山	羽衣	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
69	小松均	赤富士	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
70	狩野探幽	富士山図	MOA美術館	「描かれた富士」展	MOA美術館 (7/26-8/20)	2013/7/16- 2013/8/30
71	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	国立新美術館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞	「印象派を超えて一点描の画家たち～ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」展	国立新美術館 (10/4-12/23)	2013/9/24- 2014/4/16
72	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	広島県立美術館、NHK	「印象派を超えて一点描の画家たち～ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」展	広島県立美術館 (2014/1/2-2/16)	2013/9/24- 2014/4/16
73	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	愛知県美術館、NHK、NHK名古屋放送局、NHKブラネット中部、中日新聞社	「印象派を超えて一点描の画家たち～ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」展	愛知県美術館 (2014/2/25-3/31)	2013/9/24- 2014/4/16
74	谷文晁	富士山図屏風	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
75	谷文晁	連山春色図	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
76	谷文晁	回道土像	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
77	谷文晁	四季山水図	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
78	谷文晁	竹鶴・芙蓉雉子図	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
79	谷文晁	林和靖図	サントリー美術館、朝日新聞社	「生誕250周年 谷文晁」展	サントリー美術館 (7/3-8/25)	2013/6/23- 2013/9/4
80	ファン・グリス	果物皿と新聞	国立西洋美術館	「ル・コルビュジェと20世紀美術」展	国立西洋美術館 (8/6-11/4)	2013/7/27- 2013/11/14
81	近藤浩一路	東山栗田口	南部町教育委員会、近藤浩一路展没後50年実行委員会	「近藤浩一路展 没後50年」	アルカディア文化館 (11/10-12/1)	2013/10/31- 2013/12/11
82	近藤浩一路	冬林双鴨	南部町教育委員会、近藤浩一路展没後50年実行委員会	「近藤浩一路展 没後50年」	アルカディア文化館 (11/10-12/1)	2013/10/31- 2013/12/11
83		嵯峨上皇西園寺詠翫花和歌	和泉市久保惣記念美術館、和泉市教育委員会、和泉市文化振興財団、読売新聞社	「単彩画－ひとつの色の多彩な世界」	和泉市久保惣記念美術館 (10/12-12/1)	2013/10/2- 2013/12/11
84	酒井抱一	月夜楓図	和泉市久保惣記念美術館、和泉市教育委員会、和泉市文化振興財団、読売新聞社	「単彩画－ひとつの色の多彩な世界」	和泉市久保惣記念美術館 (10/12-12/1)	2013/10/2- 2013/12/11
85	伊藤若冲	白象群獣図	和泉市久保惣記念美術館、和泉市教育委員会、和泉市文化振興財団、読売新聞社	「単彩画－ひとつの色の多彩な世界」	和泉市久保惣記念美術館 (10/12-12/1)	2013/10/2- 2013/12/11
86	狩野永良	親子犬図	山種美術館、朝日新聞社	「KAWAII日本美術－伊藤若冲から熊谷守一まで(仮称)」展	山種美術館 (2014/1/3-3/2)	2013/12/23- 2014/3/12
87	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風	山種美術館、朝日新聞社	「KAWAII日本美術－伊藤若冲から熊谷守一まで(仮称)」展	山種美術館 (2014/1/3-3/2)	2013/12/23- 2014/3/12
88	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風	山種美術館、朝日新聞社	「KAWAII日本美術－伊藤若冲から熊谷守一まで(仮称)」展	山種美術館 (2014/1/3-3/2)	2013/12/23- 2014/3/12
89	熊谷守一	ほたるぶくろ	山種美術館、朝日新聞社	「KAWAII日本美術－伊藤若冲から熊谷守一まで(仮称)」展	山種美術館 (2014/1/3-3/2)	2013/12/23- 2014/3/12
90	下村観山・横山大観	日・月蓬菜山図	横浜美術館、朝日新聞社、神奈川新聞社、TVK	「生誕140年記念 下村観山」展	横浜美術館 (12/7-2014/2/11)	2013/11/27- 2014/1/18
91	狩野尚信	西湖図屏風	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	板橋区立美術館 (2014/2/22-3/30)	2014/1/22- 2014/6/11

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
92	狩野探幽	富嶽図巻	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	板橋区立美術館 (2014/2/22-3/30)	2014/1/22- 2014/6/11
93	狩野探幽	天橋立丹後図画冊	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	板橋区立美術館 (2014/2/22-3/30)	2014/1/22- 2014/6/11
94	下村観山	南泉斬猫図	駿府博物館	「KANZAN 第三の男・下村観山」展	駿府博物館 (2014/1/18-3/2)	2014/1/8- 2014/3/12
95	下村観山	日・月蓬萊山図 (右幅)	駿府博物館	「KANZAN 第三の男・下村観山」展	駿府博物館 (2014/1/18-3/2)	2014/1/8- 2014/3/12
96	栗原忠二	セントポール	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
97	栗原忠二	ロンドン郊外	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
98	栗原忠二	田園の秋	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
99	栗原忠二	武蔵野	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
100	石川欽一郎	台湾風景	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
101	石川欽一郎	婦人像	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
102	石川欽一郎	田舎の早春	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
103	石川欽一郎	ムードン風景	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
104	石川欽一郎	震災後の通信省	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
105	石川欽一郎	台湾次高山	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
106	石川欽一郎	駿河湾	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
107	石川欽一郎	岡山の風景	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
108	石川欽一郎	台湾風景農村	公益財団法人静岡県文化財団	「すごいぞ！すごいぞ！静岡の発見王・発明王・創造王」展	グランシップ (8/1-8/18)	2013/7/22- 2013/8/28
109	石田徹也	ピアガーデン発	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
110	石田徹也	居酒屋発	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
111	石田徹也	SLになった人	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
112	石田徹也	(無題1)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
113	石田徹也	飛べなくなった人	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
114	石田徹也	社長の傘の下	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
115	石田徹也	燃料補給のような食事	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
116	石田徹也	トイレへ逃げ込む人	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
117	石田徹也	兵士	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
118	石田徹也	引き出し	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
119	石田徹也	クラゲの夢	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
120	石田徹也	(無題2)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
121	石田徹也	めばえ	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
122	石田徹也	市場	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
123	石田徹也	彼方	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
124	石田徹也	(無題3)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
125	石田徹也	(無題4)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
126	石田徹也	(無題5)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
127	石田徹也	(無題6)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
128	石田徹也	(無題7)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
129	石田徹也	(無題8)	足利市立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	足利市立美術館 (9/7-10/27)	2013/9/1- 2015/3/31
130	松林桂月	松林山水屏風	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	山口県立美術館 (8/8-9/16)	2013/7/29- 2014/6/18
131	松林桂月	春宵花影	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	山口県立美術館 (8/8-9/16)	2013/7/29- 2014/6/18
132	松林桂月	松林山水屏風	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	田原市博物館 (11/30-2014/1/13)	2013/7/29- 2014/6/18
133	松林桂月	春宵花影	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	田原市博物館 (11/30-2014/1/13)	2013/7/29- 2014/6/18
134	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	大分県立歴史博物館、大分合同新聞社	「いきものと生きる - “いのち” の物語 -」展	大分県立歴史博物館 (10/18-11/24)	2013/10/8- 2013/12/4
135	土佐光起	秋草鶉図	大分県立歴史博物館、大分合同新聞社	「いきものと生きる - “いのち” の物語 -」展	大分県立歴史博物館 (10/18-11/24)	2013/10/8- 2013/12/4
136	徳川慶喜	風景	静岡市、静岡市文化振興財団静岡市美術館	「没後100年 徳川慶喜」展	静岡市美術館 (11/2-12/15)	2013/10/23- 2013/12/25
137	狩野探幽	竹林七賢・香山九老図屏風	出光美術館	「江戸の狩野派 - 優美への革新」展	出光美術館 (11/12-12/15)	2013/11/2- 2013/12/25
138	狩野探幽	白鷗図	出光美術館	「江戸の狩野派 - 優美への革新」展	出光美術館 (11/12-12/15)	2013/11/2- 2013/12/25
139	狩野探幽	富士山図	出光美術館	「江戸の狩野派 - 優美への革新」展	出光美術館 (11/12-12/15)	2013/11/2- 2013/12/25

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
140	狩野探幽	富嶽図巻	出光美術館	「江戸の狩野派－優美への革新」展	出光美術館 (11/12-12/15)	2013/11/2- 2013/12/25
141	中村岳陵	婉膩水韻	東京都美術館、日本美術院、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	「世紀の日本画」展	東京都美術館 (2014/1/25-3./31)	2014/1/15- 2014/4/11
142	大久保一丘	富嶽明暁図	常葉美術館、中日新聞東海本社	「大久保一丘」展	常葉美術館 (10/26-11/24)	2013/10/21- 2013/12/4
143	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	常葉美術館、中日新聞東海本社	「大久保一丘」展	常葉美術館 (10/26-11/24)	2013/10/21- 2013/12/4
144	狩野典信	山水図	徳島市立徳島城博物館	「狩野栄川院と徳島藩の画人たち」展	徳島市立徳島城博物館 (10/19-11/24)	2013/10/9- 2013/12/4
145	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ	公益財団法人石橋財団ブリヂストン美術館	「カイユボット展－都市の印象派」(仮称)	ブリヂストン美術館 (10/10-12/29)	2013/9/30- 2014/1/8
146	村上華岳	春峰晴煙図	笠岡市立竹喬美術館	「霊と艶をもとめて 村上華岳展」	笠岡市立竹喬美術館 (2014/2/1-3/16)	2014/1/22- 2014/3/26
147	佐々木秀子	瀑流	立入秀子	「立入秀子 1983～2014 作品展」	たましんギャラリー (2014/3/6-3/31)	2014/2/24- 2014/4/11
148	式部輝忠	富士八景図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
149	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
150	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
151	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
152	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
153	歌川広重	不二三十六景 東都隅田堤	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
154	歌川広重	不二三十六景 東都飛鳥山	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
155	歌川広重	不二三十六景 武蔵小金井堤	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (2014/3/11-5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
156	石川欽一郎	台湾風景	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春－官展にみる近代美術」展	福岡アジア美術館 (2014/2/13-3/18)	2014/2/3- 2014/7/31
157	石川欽一郎	台湾風景農村	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春－官展にみる近代美術」展	福岡アジア美術館 (2014/2/13-3/18)	2014/2/3- 2014/7/31
158	竹内栖鳳	揚州城外	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春－官展にみる近代美術」展	福岡アジア美術館 (2014/2/13-3/18)	2014/2/3- 2014/7/31
159	狩野永岳	富士山登龍図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (2014/3/21-5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
160	横山華山	清見瀉富士図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (2014/3/21-5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
161	菊池容斎	蒙古襲来図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (2014/3/21-5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
162	岡田半江	洋人富士山遠望図 屏風	サントリー美術館、朝日新聞社	「のぞいてびっくり江戸絵画」	サントリー美術館 (2014/3/29-5/11)	2014/3/19- 2014/5/21

美術作品の補修

平成25年度の修復作品

- ・建部綾足《梅鳥図》解体修理、箱作成
- ・岡田為恭《駒迎図》解体修理、箱作成
- ・岡田為恭《玄上撥面絵模写》解体修理、箱作成
- ・王勤《雪中梅図》解体修理、箱作成
- ・中山高陽《白梅錦鶏図》表装金具取り替え
- ・カミーユ・ピサロ《ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ》画面洗浄、額装調整
- ・二見彰一《遠い国》マット装
- ・二見彰一《オウバード》マット装
- ・二見彰一《星の対話》マット装
- ・二見彰一《透明な時間》マット装
- ・二見彰一《海のうた》マット装
- ・二見彰一《夏の終り》マット装
- ・二見彰一《ソナチネ》マット装
- ・二見彰一《マイクロドラマ》マット装
- ・二見彰一《宇宙へのプレリュード》マット装
- ・二見彰一《パントマイム》マット装
- ・二見彰一《ラウンドミッドナイト》マット装
- ・二見彰一《五月の歌》マット装
- ・二見彰一《グリーンポイント(1)》マット装
- ・二見彰一《グリーンポイント(2)》マット装
- ・二見彰一《バルトークの部屋》マット装
- ・二見彰一《贈られた朝》マット装
- ・二見彰一《孤独の祭》マット装
- ・二見彰一《クレーの扉》マット装
- ・二見彰一《時の兆し》マット装
- ・二見彰一《心の部屋》マット装
- ・二見彰一《深海のエピソード》マット装
- ・二見彰一《祈り》マット装
- ・二見彰一《海への道》マット装
- ・二見彰一《夏の朝》マット装
- ・二見彰一《狂えるオフィーリア》マット装
- ・二見彰一《悲しみのオフィーリア》マット装
- ・二見彰一《深夜の羽化》マット装
- ・二見彰一《朝のコラール》マット装
- ・二見彰一《とぎれたフーガ》マット装
- ・二見彰一《遠くを見る眼》マット装
- ・二見彰一《聖堂にて》マット装
- ・二見彰一《風の中のオルフェウス》マット装
- ・二見彰一《青い夏》マット装
- ・二見彰一《予期せぬドラマ》マット装
- ・二見彰一《ユーモラスな告白》マット装
- ・二見彰一《ヘカティの花》マット装
- ・二見彰一《ノクチュルヌ》マット装
- ・二見彰一《リストとともに》マット装
- ・二見彰一《ヴェガから来た花》マット装
- ・二見彰一《海の神話》マット装
- ・二見彰一《ながい夜》マット装
- ・二見彰一《旅の感傷》マット装
- ・二見彰一《かなしいたより》マット装
- ・二見彰一《デネブへの帰還》マット装
- ・二見彰一《不安な夜(2)》マット装
- ・二見彰一《期待と不安への告知(2)》マット装
- ・二見彰一《敬虔な夜への記憶(2)》マット装
- ・二見彰一《秋の手に》マット装
- ・二見彰一《聖なる予感》マット装
- ・二見彰一《青い椅子》マット装
- ・二見彰一《海への回帰》マット装
- ・二見彰一《ひそやかな誕生》マット装
- ・二見彰一《寓話の部屋(1)》マット装
- ・二見彰一《寓話の部屋(2)》マット装
- ・二見彰一《青い夜のモニュメント》マット装
- ・二見彰一《凍ったモニュメント》マット装
- ・二見彰一《風がささやく》マット装
- ・二見彰一《星の道程》マット装
- ・二見彰一《青い飛行》マット装
- ・二見彰一《青い虹》マット装
- ・二見彰一《花のコラール》マット装
- ・二見彰一《青いメヌエット》マット装
- ・二見彰一《あたらしい星》マット装
- ・二見彰一《薔薇と予感》マット装
- ・二見彰一《FIVE POINTS》マット装
- ・二見彰一《青いホルン、夜》マット装
- ・二見彰一《Space Focus(1)》マット装
- ・二見彰一《凍った海(1)》マット装
- ・二見彰一《Space Focus(2)》マット装
- ・二見彰一《凍ったつぼみ》マット装
- ・二見彰一《夜への扉》マット装
- ・二見彰一《舞う音(1)》マット装
- ・二見彰一《もう一度バッハを》マット装
- ・二見彰一《エメラルドの夜(2)》マット装
- ・二見彰一《舞う音(2)》マット装
- ・二見彰一《映る夏》マット装
- ・二見彰一《風のかたみ》マット装
- ・二見彰一《風の対話》マット装
- ・二見彰一《ヴェネツィアの風》マット装
- ・二見彰一《海のホルン》マット装
- ・二見彰一《コンサートへの招待(1)》マット装
- ・二見彰一《薔薇のベクトル》マット装

- ・二見彰一《ホルンのユモレスク》マット装
- ・二見彰一《サウンド・コンビネーション》マット装
- ・二見彰一《バッハとジャズと》マット装
- ・二見彰一《青のトリオ》マット装
- ・二見彰一《ハープのために》マット装
- ・二見彰一《風の城》マット装
- ・二見彰一《弦のアリア》マット装
- ・二見彰一《はばたくロンド》マット装
- ・二見彰一《カデンツァ・メランコリー》マット装
- ・二見彰一《プラネットから(2)》マット装
- ・二見彰一《ふたつのホルンのために(1)》マット装
- ・二見彰一《流れのバラード》マット装
- ・二見彰一《水辺のバラード》マット装
- ・二見彰一《地平へ(1)》マット装
- ・二見彰一《波のフーガ(1)》マット装

■彫刻作品の保守点検業務

彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち。柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行った。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、建設されてから30年近くが経過した当館では、建物の各所に不具合が出始めており、この作品保存という機能への障害がしばしば生じている。

最も大きな要因は老朽化である。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

建物を取り巻く環境が、設計当初の想定とは異なってきたことも看過出来ない。夏季には気候の高温高湿化、冬季であれば急激な冷え込み等の気候変動は、かつては見込まれていなかった空調施設への負荷を、著しいものにしていく。また、生物の生息環境の変化は、これまでに見られなかった虫菌害のリスクを高めている。加えて、電気やガス、水道料金の高騰が、対応の困難に拍車をかけている。

既に施設の大規模修繕ないしリニューアルの検討に入っているが、一朝一夕に成るものではない。計画的な施設改修の推進と、突発的な変調の解決との、二正面に向かい合うことを余儀なくされているのが、当館保存活動の現状である。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンベントリン）炭酸製剤による殺虫処理は例年通り行った。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンベントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけでなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適当かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

虫害に対しては、環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法として、これまでに検討を進めてきた窒素置換法による低酸素濃度殺虫を、今後も必要に応じて実施する見込みである。この手法は、処理時間を長く取る必要があるものの、安全性が高く、メリットは大きい。今後、

手法の洗練と精度を高めていく予定である。条件によってこの方法が取れない場合の殺虫用薬剤としては、主成分がフッ化スルフルルの薬品（商品名ヴァイケーン）が適当かと考えている。

収蔵庫等で大規模な虫菌害が発生した場合にも、当該箇所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行う必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■照明用代替光源検討

作品保全活動に関わる課題の一つ、現状の白熱灯スポットライトや蛍光灯の代替光源については、従来から情報を収集してきたが、蛍光灯を含む水銀を使用した照明への規制が厳しくなることが予想されるため、一層具体的な情報の収集に着手している。

当館の場合、本館展示室で作品照明に主に使用されているハロゲン・ランプと蛍光灯に加え、ロダン館で空間の照明に用いられている水銀灯がある。それらの代替光源として有機EL、LED、プラズマ照明等を検討しているが、候補になり得るのは、現状ではLEDのみかと考えている。

ただしLED導入には、安全性の確認が不可欠である上、色味や演色性の問題も大きい。美術館や博物館用でありながら、従来の蛍光灯やハロゲン・ランプと比較しても演色評価指数（RA）の低い製品が、残念ながら存在する。高い演色性があっても出力の弱い製品もある。

可能な限り実験データも入手し、検討を進めていく予定だが、光源としての歴史自体が新しく、確実な手がかりを得るのは極めて難しい、と言わざるを得ない。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行ってきた。今年度は4回の調査を行った。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けて

いる。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行われている。

昨年度に引き続き、展示室でお客様のご案内や作品の監視に当たる、ミュージズスタッフの防災訓練は重点的に行われた。管理班職員の発案による災害図上訓練（DIG）の導入は、当館の場合効果が高く、結果として実際の行動を伴う訓練の際にも、練度が向上している。これも昨年来と同様、職員による防災訓練も、一層進められなければならない。

■主な保存活動の経過

6月3日（月）～11日（火）

外部業者による環境調査第1回目。

7月4日（木）～6日（土）

ブンガノン殺虫処理実施。

8月12日（月）～19日（月）

外部業者による環境調査第2回目。

8月28日（水）

職員防災図上訓練。

9月9日（月）

ミュージズスタッフによる防災訓練。

10月1日（火）～5日（土）

エキヒュームSによる小規模燻蒸実施。

10月11日（金）

静岡県博物館協会の主催により、講習会「LED照明の現在」が当館講座室、エントランスホールで開催される。

10月19日（土）

静岡県文化財等救済ネットワークのシンポジウム静岡県庁で開催される。

12月10日（火）～19日（木）

外部業者による環境調査第3回目。

1月14日（火）

職員防災図上訓練。

1月27日（月）～3月7日（金）

ロダン館チラー改修工事。

2月3日（月）

ミュージズスタッフによる防災訓練。

2月8日（土）

静岡市およびNPO文化財を守る会主催の、「文化財サポーター入門講座」の1回を、当館講座室で実施。

2月17日（月）～25日（火）

外部業者による環境調査第4回目。

3月4日（火）

プロムナード彫刻メンテナンス。

3月31日（月）

館内の自記式温湿度計を更新。

ギャラリーツアー

展示室グループのギャラリーツアー班に所属する当館ボランティアが、ナビゲーターを務めて、収蔵品展を、参加者とともに対話形式で30分間鑑賞する。開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より行っている。

今年度は、ボランティアの再募集によって、ギャラリーツアー班の人数が6名から11名に増えた。前回から継続して活動しているボランティアは、経験を重ねることによりナビゲーションの技術を一層向上させており、新たに加わったボランティアは、意欲的に館内の美術講座に参加するなど自己研鑽を重ねた。通常は、収蔵品展を対象に行っているが、当館コレクションを活用した企画展「富士山の絵画」展、「二見彰一展」、「グループ『幻触』と石子順造」展でもツアーを実施した。ツアーへの参加者数は、前年度576名であったのに対し、本年度は812名と大幅に増加している。

■「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

■ボランティア 展示室グループ・ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。

一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

■ギャラリーツアー登録ボランティア

11名(26年3月現在)

■勉強会・実施日

実施日：毎月第1土曜日(11:00～、12:00～)

*11:00の回はロダン館

毎月第3土曜日(14:00～、15:00～)

企画展開幕後の最初の休館日：展覧会担当学芸員による研修

■ギャラリーツアー本番までの流れ

①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。

②展覧会開幕後、展示室で実作品を前にボランティア同士でディスカッションを行う。

③学芸員による研修会に参加

④模擬ツアー(予行演習)

⑤本番ツアー

■25年度 ギャラリーツアー実施実績(参加者 計812名)

○収蔵品展

「挿絵・書籍の愉しみ」ギャラリーツアー 9月7日、21日、10月5日(計19名)

「佐伯祐三、里見勝蔵と独立の画家たち」ギャラリーツアー 10月19日、11月2日、16日(計22名)

「前衛の駆け抜けた頃」ギャラリーツアー 12月7日、21日、1月4日、18日(計34名)

「大地から一日本画の情景」ギャラリーツアー 2月1日、15日(計19名)

「没後150年福田半香とその師友」ギャラリーツアー 3月1日、15日(計20名)

○ロダン館

5月4日、18日、6月1日、15日、7月20日、8月3日、17日、9月7日、10月5日、11月2日、12月7日、1月4日、2月1日、3月1日(計261名)

○企画展(収蔵品を活用した企画展)

「富士山の絵画」展ギャラリーツアー 9月14日、15日、28日、29日、10月12日、13日(計254名)

「二見彰一展」ギャラリーツアー 12月8日、15日、1月5日、19日(計104名)

「グループ『幻触』と石子順造」展ギャラリーツアー 2月16日、22日、3月8日、22日(計79名)

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度に実技室廊下にて試験的に行ったイベントを平成23年度から実施し、来館した方にも気軽に参加できるように美術館正面玄関入ってすぐのエントランスにて約15分の創作体験を行っている。

水曜日から土曜日までの4日間を基本とし、本年度は、版画や日本画等の技法体験だけでなく、ロダン館の長期工事休館後のイベントとして、ロダン彫刻を鑑賞しながら、モールを使って彫刻の骨組みを考える体験や、草間彌生の作品を鑑賞して想像力を膨らませる体験など、鑑賞を取り入れた体験も行った。

また、実技室の各講座の募集チラシを配布することで、ちょこっと体験に興味をもった方が再び実技入門講座や創作週間に参加する傾向が見られた。

参加者数：1,608名

実施日	内 容	人 数
4月2 ～5日	ロダン館SPカラーモールを自由に組み合わせて立体物を制作 無料	145
5月8 ～10日	絵画体験（草間展関連イベント） 無料	44
7月24～27 日、7月31日 ～8月2日	ドット若冲マス目描き体験5m×10 mの巨大な作品の一部を体験制作 無料	432
10月5・ 6日	木版画体験摺り体験 無料	133
1月8 ～12日	銅版画体験エンボス体験 無料	132
3月19 ～22日	シルクスクリーン体験ハンカチ へのプリント体験	538
3月26 ～29日	日本画体験簡単な水墨画・金砂 子蒔体験	184
年間29日		1,608



■技法セミナー

技法セミナーは、第一線で活躍するアーティストや芸術分野を支える専門家に実技指導や講座を依頼している。

今年度は1回行い、「立体造形」として、彫刻家を講師に招き、蠟型鑄造の工程の一部を体験して作品づくりを行った。

「立体造形」

日 時：4月6日（土）7日（日）

講 師：大村富彦氏（彫刻家）

場 所：実技室

参加者数：12名



■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会にできるだけ合わせられるように関連づけて実施している。

今年度は、静岡県出身の切り絵作家、福井利佐氏を講師に招き、世界遺産となった富士山をテーマに切り絵制作を行った。また静岡県出身の日本画家による日本画の金箔貼りや砂子蒔きを用いた制作や偶発技法を用いた作品制作などの講座を行った。

参加者数：58名

実施日	内 容	人 数
6月23日	日本色彩研究のワークショップ 「ジャポニズム、ふたたび。～日本 の形～」＜森谷明子氏（日本 画研究家）＞	13
9月14日 ・15日	日本画金箔貼り＜鈴木強氏（日 本画家）＞	25
1月19日	切り絵 線で遊ぼう～富士山編～ ＜福井利佐氏（切り絵作家）＞	20
年間4日間実施		58

■実技入門講座

初心者を対象にして、版画（四種類）と日本画を学ぶ講座を用意し、作品の完成度よりも、技法や道具・溶剤の使用法を学ぶことで、一人で制作できる素地を身に付けることを目的にしている。

四種類の版画制作では、シルクスクリーンによるTシャツ制作、リトグラフ、木版画では多版刷り、銅版画ではエッチング・アクアチントの技法を学び、日本画では、絹本制作による作品づくりを行った。

参加者数：115名

実施日	内 容	人 数
5月11・12日	シルクスクリーン<北川純氏（Tシャツアーティスト）>	20
6月8・9日	リトグラフ<柳本一英氏（版画家・当館インストラクター）>	18
11月3・4日	木版画<藤田泉氏（版画家・当館インストラクター）>	32
11月24日 12月1日	エッチング・アクアチント<柳本一英氏（版画家・当館インストラクター）>	19
2月22・23日	日本画「絹に描く」<藤岡美樹（日本画・当館スタッフ）>	26
年間5講座10日実施		115



■創作週間

創作週間は中学生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合っ

て取り組む場となっている。特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、

相談、助言をお願いした。また、エントランスでの「ちょっと体験」や「実技入門講座」を行うことで、自分でもっと制作をしてみたいと、創作週間を利用し始める参加者が増えてきている。

開室日数：49日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、丸山成美氏（造形作家）

利用者数：534名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。昨年度はロダン館休館のため4月から9月までの実施であったが、今年度は予定通り行った。

実施日数：24日

実施時間：10：00～16：30

インストラクター：藤岡美樹、半田直生（当館実技室担当）

参加者数：489名



実技・体験

■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tを越える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土・絵の具教室で来館した園児・児童に粘土開放日や絵の具開放日等の子ども向けイベントの配布資料をアンケート（教師用）とともに人数分渡しているため、今度は親子で参加しているというケースも多い。園・学校リピーターも増加傾向にあるため、季節に合わせて内容作品に変化をもたせたり、展覧会内容を紹介したりしている。新規の参加者は、口コミで聞いて興味をもつ方が多く、また、HP、チラシを見た方などの数も増え、少しずつ広報効果があがってきている。

月ごとに変化する参加者の行列数（開館10時100～120名）の予測が困難なため、1日3回（午前2回、午後1回）各回80名の定員を設け、多くの参加者に対応できるようにインストラクター、助手、スタッフと、実技室ボランティアの協力が欠かせない。

実施日数：12日（1日3回で36回実施）

実施時間：午前の部① 10：10～11：30

午前の部② 11：30～12：50

午後の部 14：00～15：20

インストラクター：内海健夫氏（美術作家）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏、谷正輝氏

場所：当館実技室

参加者数：2,213名



■絵の具開放日

絵の具開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう今年で8年目のプログラムで、基本は屋外で行い雨天時は室内で行う。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらには手足等へのボディペインティングへと発展していった。

室内のプログラムはビニールクロスに絵を描き、表に描いた後、裏返しにして描くことができる。季節や行事に合わせて描いたり、上に寝て輪郭をなぞり人物を親子で描きあったり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けている。

実施日数：7日（午前・午後で14回）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：屋外展示テラス（雨天時は当館実技室）

参加者数：1,302名



■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは、前年度まで行っていたプログラム、工作アトリエと色彩アトリエを一つに統合した新たなプログラムである。工作アトリエ、色彩アトリエが掲げた「いろんな素材をかたちに！」というテーマはこのわくわくアトリエにも活かしていきたい。今年度は銅版画・木版画・切り絵・シルクスクリーンといった実技室ではおなじみの技法に加え、草木染めに挑戦した。さまざまな素材を用いて制作する面白さを発見、体験するプログラムを心掛けた。

対象は大人から小学生としながらも、親子でも参加できる企画として開催していることもあってか、テーマである、素材に手を加えて形作ること以上に親子による制作を通したコミュニケーションがこのプログラムの主たる特色となった印象である。

午前、午後各1回のプログラム実施や、じっくり1日かけて制作するプログラムとして行うなど、インストラクターは、さまざまな講師を招いて企画展と関連づけた内容とプログラムの進行をめざした。

実施日数：5日

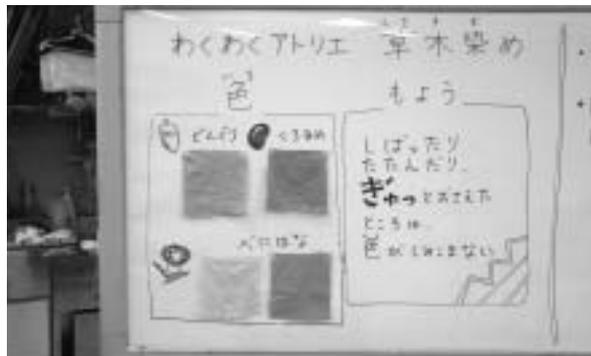
実施時間：10：15～15：50の間で1回または2回開催

助手：吉村友利氏 志村将史氏

場所：当館実技室

参加者数：109名

実施日	内容<インストラクター>	人数
4月13日	銅版画<柳本一英氏(版画家・当館インストラクター)>	14
5月4日	木版画<藤田泉氏(版画家・当館インストラクター)>	19
7月13日	草木染め<半田直生(実技室スタッフ)>	30
1月18日	切り絵でコラージュ<福井利佐氏(切り絵作家)>	22
3月23日	シルクスクリーン<藤岡美樹(実技室スタッフ)>	24
年間5日(計9回実施)		109



■夏休み子どもワークショップ

「ドット若冲SP」

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムである。

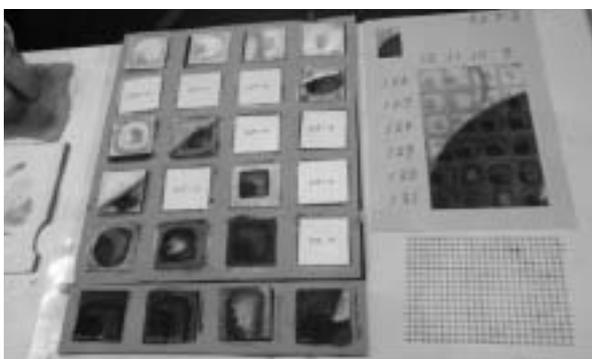
昨年度は色彩アトリエスペシャル、としてプログラムを開催したが、今年度は色彩アトリエと工作アトリエを統合したプログラム「わくわくアトリエ」を新たに企画したため、夏休み子どもワークショップ内に「ドット若冲SP」としてプログラムを組み込んだ。

当館所蔵品《樹花鳥獸図屏風》(伊藤若冲)の屏風が特別展示される時期に行うようにしているワークショップで、8回目を迎えた。

「柘目描き」の一マスを7×7センチの厚紙に置き換え

て着色し、約7倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約10×5メートルの巨大絵（屏風一扇）となる。とはいえ、絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのブレインストーミングが一番の醍醐味かもしれない。

また、エントランスに来館した方にも、一マス描く体験コーナー「ちょこっとドット若冲」を期間限定で設けた。ブログでも完成作品を紹介し、完成した作品を見に再び来館される方も多く見られた。



日 程：8月3日（土）、8月4日（日）

インストラクター：志村将史氏

助 手：岡田友里香氏、吉村友利氏

場 所：当館実技室、エントランス

参加者数：39名

ちょこっとドット若冲（夏休み子どもワークショップ「ドット若冲SP」の体験版）

期 間：7月24～27日、7月31日～8月2日の7日間

場 所：エントランス

参加者数：432名



■ART！

Art Room for Teen's、略してART！は、中学生から大学生までのティーンエイジャーが、夏休みに学校や年代の枠を超えて美術館に集い、創造的な活動に親しむワークショップ形式の普及プログラムである。

平成25年度は、当館のインターンシップとして美術館の在り方を学ぶ見城絵理奈氏をファシリテーターとして迎えた。10代の人間の新鮮な発想と想像力をもって練られたコンセプトを「縁」と題して5日間の講座を実施した。主に関わった中高生の意欲的な活動とサポートスタッフの尽力の甲斐あって無事に期間内に展示まで行うことができ、また美術館に訪れる来館者が最初に目にする作品として注目を集める結果となった。

日 程：8月14日（水）～18日（日）

ファシリテーター：見城絵理奈（当館インターン）

スタッフ：当館普及スタッフ 藤岡美樹、半田直生

助 手：丸山成美氏、志村将史氏、吉村友利氏、岡田友里香氏

場 所：当館実技室、美術館前の池

参加者数：延べ16名（中学生4名、高校生1名）

内 容：

1日目

- ・自己紹介
- ・プロムナード近辺の野外展示作品鑑賞
- ・コンセプト決定
- ・ミニチュアの試作制作

2日目

- ・制作（発泡スチロールの面取り）

3日目

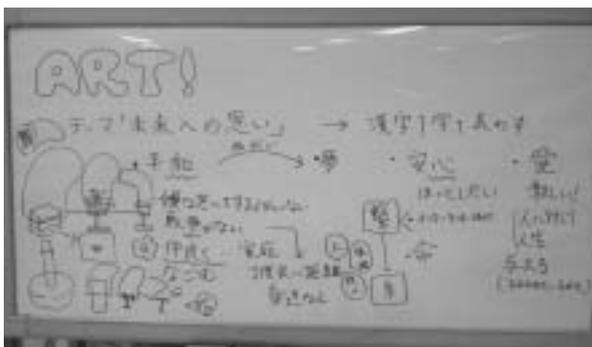
- ・制作（発泡スチロールの形体作成）

4日目

- ・制作（曲面の整形）

5日目

- ・制作（塗装）
- ・展示



を実施した。美術館と縁遠くなりがちな、小さな子どものいる家族にも気兼ねなく美術館に来訪する機会を提供すること、保育士・幼稚園教諭を目指す大学生に事業に携わってもらうことで、未来の子どもたちと美術館との距離を縮めることなどを目的としたものである。内容としては、未就学児とその保護者を対象にしたロダン館鑑賞会と実技室での粘土・絵具遊びを組み合わせるもので、開催時期にあわせてクリスマス为主题として構成した。ロダン館ではお星さま探しをテーマに探索をしたり、実技室での体験ではクリスマスツリー作りを目標にしたりと、子どもにも興味を持ちやすい内容とするよう心掛けた。

学生の参加にあたっては、静岡英和学院大学、永田恵実子先生に多大なご協力をいただいた。ボランティアとして参加してくれた7名の学生は、大学における日頃の実践を通して子どもたちへの働きかけも習熟しており、その落ち着いた対応は保護者にも、また美術館スタッフにも大変心強いものであった。

美術館としては初となる3歳以下の子どもを対象を含むイベントであり、手探りの部分も多かったが、定員を大幅に上回る大勢の方にご応募をいただき、潜在的な美術館への期待を知る機会となった。

実施後のアンケートではほぼ好意的な評価が寄せられ、ロダン館の鑑賞を組み合わせる点や、家庭ではできないダイナミックな活動ができた点について評価する記述が見られた。

日 程：研修・準備 12月21日（土）、22日（日）

実施 12月23日（月・祝）

場 所：ロダン館、実技室

インストラクター：志村将史氏

助 手：岡田友里香氏

スタッフ：当館普及スタッフ 藤岡美樹、半田直生

大学生ボランティア 静岡英和学院大学2～4年 7名

参加者数：午前の部10組34名（大人13名、子ども21名）、

午後の部11組39名（大人24名、子ども15名）

■ARU?

ARU? (Around University) は、大学生・専門学校生を対象に、美術館や実技室を利用して自由にワークショップを企画運営してもらうことを趣旨として平成22年度から始まった事業である。実施回ごとにその内容は様々だが、今年度は保育・幼児教育を学ぶ大学生に協力を呼びかけ、ロダン館と実技室を会場とした家族向けイベント



日 程：8月6日（火）20日（火）
場 所：エスパルスドリームプラザ1階
助 手：志村将史氏、吉村友利氏、岡田友里香氏、
丸山成美氏
参加者数：137名



■美術館活用事業

「エスパルスドリーム夏の工作体験「風鈴も猫である」、レプリカ展示」

平成22年度に初めてエスパルスドリームプラザにて「出張実技講座・ロダン体操・ワークショップ」を行ったことをきっかけに、平成23年度「ヒエログリフ工作体験・ロダン体操・レプリカ展示」、平成24年度「かざぐるま工作体験ーレプリカ展示」と続き、今年度「第三回、夏の工作体験」参加となった。

今回のイベントは会期の重なる企画展「夏目漱石の美術世界」展に関連した内容である。実技室スタッフが企画準備を行い、参加者に風鈴づくりの体験コーナー（有料：風鈴代500円）とスタッフが制作したスタンプを用いたしおりの制作体験コーナー（無料）、ロダン館収蔵品をモチーフにした塗り絵コーナーを実施した。

展覧会のポスター掲示とチラシを置き、広報活動もあわせて行った。

学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土教室、絵の具教室は、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。できるかぎり多くの団体に参加していただくため、学年をほぼ同じくする複数の園や学校の合同実施とした。

また、今後の取り組みとして、出張美術講座や授業協力等、美術館と学校との連携に重点をおいた普及を充実させていきたい。

■粘土教室

粘土教室は、幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

インストラクター：志村将史氏、吉村友利氏

助手：丸山成美氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室

参加者数：4,882名 団体数：107校



月日	団体名：学年	人数
6月19日	興津南小学校 5年	17
	横砂小学校 2年	8
	中田小学校 2年	46
	駒越小学校 2年	58
6月20日	清水船越小学校 2年	121
8月7日	興津児童クラブ1～3年	48
	南部児童クラブ1～2年	38
	三保第2児童クラブ1～6年	26
8月8日	袖師児童クラブ1～3年	64
	服織児童クラブ1～4年	26
8月8日	大里東児童クラブ1～4年	38

8月9日	城北児童クラブ1～4年	90
	杵谷児童クラブ3～4年	22
8月21日	小島児童クラブ1～4年	33
	蒲原東児童クラブ1～3年	28
8月22日	西奈南児童クラブ1～4年	75
	庵原児童クラブ1～3年	46
	三保第1児童クラブ1～4年	37
8月23日	こぐま児童クラブ1～4年	19
	川原児童クラブ1～4年	58
9月11日	番町児童クラブ1～3年	67
	静岡市立清水入江保育園年中	41
9月12日	安部口小学校特別支援学級	15
	若竹幼稚園年少	73
9月13日	ふじみ幼稚園年長	53
	静岡市立大里西小学校 2年	164
9月18日	北安東保育園年中・長	39
	静岡市立広野保育園年長	27
9月19日	静岡市立安部口小学校1年	43
	静岡市立清水庵原小学校6年	76
9月20日	江尻幼稚園年長	51
	静岡市立清水庵原小学校4年	69
9月25日	静岡市立田町保育園年中・長	52
	矢部保育園年長	19
9月26日	静岡県立中央特別支援学校	19
	かえで幼稚園年少・中・長	62
10月23日	静岡市立清水有度第2小学校1年	64
	有度十七夜山保育園	34
10月24日	東海大学付属幼稚園	22
	静岡市立清水有度第2小学校1年	65
10月25日	蛸が丘保育園年中・長	38
	若草保育園年長	32
10月30日	船原幼稚園年長	69
	静岡市立由比幼稚園年長	21
	静岡市立由比保育園年長	15
10月31日	静岡市立由比入山保育園年中	3
	静岡市立東豊田小学校2年	139
11月1日	横内幼稚園年長	53
	あけぼの保育園年長	49
11月6日	静岡市立清水三保保育園年長	29
	静岡市立清水折戸保育園年長	20
	静岡市立清水駒越保育園年長	25
11月7日	静岡市立八幡保育園年長	14
	静岡市立蒲原東部保育園年少中長	45
	こまどり幼稚園年中	43

11月7日	静岡市立清水有度西保育園年長	27
11月8日	静岡市立清水駒形小学1～2年	60
	静岡隣人会保育園年長	32
11月19日	静岡市立清水庵原保育園年長	27
	袖師保育園年長	18
	清水みらい保育園年中長	67
11月20日	静岡市立美和小学校2年	15
	静岡市立蒲原西小学校2年	40
	静岡市立大谷小学校1年特支3～6年	59
11月21日	静岡市立宮竹小学校2年	103
11月26日	横内幼稚園年長	56
	静岡市立蒲原西部保育園年中長	23
11月27日	風の子保育園年中	26
	こぐま保育園年中	22
	たんぼぼ保育園年中	19
11月28日	静岡市立南部小学校1年	94
12月4日	静岡市立東源台小学校2年	90
12月5日	美和保育園年長	23
	静岡市立清水飯田北保育園年長	51
	静岡市立登呂保育園年長	47
12月6日	静岡市立宮竹小学校1年	99
1月15日	静岡市立清水辻保育園年少中	61
	静岡市立長田南小学校1年	63
1月16日	丸子幼稚園年長	34
	静岡市立清水川原幼稚園	34
	静岡市立長田南小学校1年	32
1月17日	静岡市立豊田東幼稚園年長	32
	小百合キナーホーム幼稚園年少～長	39
	矢部保育園年中長	34
1月22日	静岡市立玉川小学校1～2年	14
	常葉大学付属橘小学校1年	55
	静岡市立瀬名川保育園年長	38
1月23日	静岡市立長沼保育園年長	35
	牧之原市立坂部小学校5～6年	34
1月29日	足久保保育園年長	23
	こまどり幼稚園年長	50
	リリー幼稚園年中長	61
1月30日	水落保育園年中長	53
	相生保育園年長	17
1月31日	静岡市立清水和田島小学校1～6年	25
1月31日	静岡市立下川原保育園年長	14
2月12日	静岡市立南部小学校3年	72
	リリー幼稚園年少	44
2月13日	静岡市立東源台小学校4年	34

2月13日	静岡市立上土保育園年長	27
2月19日	静岡市立東源台小学校1年	70
	静岡市立服織保育園年長	24
2月20日	静岡市立清水有度第二小学校2年	65
2月21日	静岡市立清水有度第二小学校2年	61
2月26日	富士市立天間小学校2年	87
2月27日	静岡市立富士見台保育園年長	37
2月28日	静岡精華幼稚園年長	67
合計人数		4,882
団体数		107

■絵の具教室

絵の具教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心にに行い、学年が上がるにつれ少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史氏、吉村友利氏

助 手：丸山成美氏、吉村友利氏、岡田友里香氏

場 所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：1,269名 団体数：21校



月日	団体名：学年	人数
6月5日	清水入江幼稚園年長	39
	新富町保育園年長	30
	リリー幼稚園年長	40
6月6日	一番町保育園年少～年長	37
	静岡サレジオ幼稚園年中	53
6月7日	有度東保育園年中長	64
	さくら幼稚園年長	66
6月12日	南幼稚園年長	92
6月13日	有度第二小学校3年	128
6月14日	常葉大学付属橘小学校	49
	ふじみ幼稚園	52

10月2日	静岡市立大里西小学校特別支援学級	13
	リリー幼稚園年少中	64
10月3日	静岡市立大谷小学校3年	73
	静岡市立東豊田保育園年長	32
10月4日	静岡市立服織第二保育園年中長	55
	ゆりかご保育園年長	18
	静岡市立清水有度北保育園年長	32
10月16日	静岡市立服織小学校1年	170
10月17日	かわはらいづみ幼稚園年長	88
	静岡市立清水折戸保育園年長	74
	静岡市立清水三保保育園年長	
	静岡市立清水駒越保育園年長	
合計人数		1,269
団体数		21

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館收藏品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

昨年度に続き、特別支援学校の利用が多い。車椅子やストレッチャーの児童生徒の安全面と健康管理にも配慮するため、事前の下見来館時の対応や電話FAX等の打ち合わせ、雨天時の入館時の対応（雨天時は屋根のあるロダン館から入館）、トイレや体調管理のための控え室等の確保等様々な準備対応が必要となる。当館独自の鑑賞系ワークショップとして、今後の利用についてどのように行っていくか検討が必要である。

参加者数：157人 団体数：6校



	団体名：学年	人数
5月29日	中央特別支援学校	18
6月19日	中央特別支援学校4年	12
9月26日	中央特別支援学校	19
12月3日	静岡県立南部特別支援学校6年	27
3月4日	富士市立鷹岡小学校・中学校	15

3月7日	静岡市立清水高部小学校2年	66
合計人数		157
団体数		6

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するために7枚のカードを配布し、表に書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら展示作品を見て回り、カード裏の作品解説シートとともに鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目をやる子どもたちの姿が見られた。

参加者数：1,169人 団体数：17校



月日	団体名：学年	人数
5月24日	静岡市立南中学校2年	4
5月26日	静岡県立中央高等学校通信制	144
5月30日	静岡市立美和中学校	1
7月23日	静岡市立清水有度第一小学校	120
9月10日	常葉菊川高校2年	22
9月18日	静岡市立清水興津小学校5年	130
9月19日	静岡市立清水庵原小学校6年	76
10月25日	島田市立島田第五小学校6年	49
10月30日	静岡市立竜南小学校2年	118
10月31日	静岡市立東豊田小学校2年	139
11月27日	静岡市立清水不二見小学校2年	80
1月15日	静岡市立長田東小学校2年	158
1月16日	静岡市立峯山小学校1～5年	13
1月23日	静岡市立由比北小学校5年	8

2月15日	長泉町立長泉中学校1～2年	21
3月12日	静岡市立大里東小学校1年	46
3月13日	静岡市立大里東小学校2年	40
合計人数		1,169
団体数		17

■美術館の秘密をさぐれ

「美術館の秘密をさぐれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる工夫や作品保護についてワークシートを頼りにスタッフが館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。施設見学や職場体験の一つとしての申し込みが多くなってきている。

参加者数：227人 団体数：10校



月日	団体名：学年	人数
5月21日	伊豆の国市韮山中学校2年	9
5月24日	静岡市立南中学校2年	4
5月26日	焼津市立大井川中学校	31
5月30日	静岡市立美和中学校2年	1
6月20日	菊川市立小笠東小学校6年	23
7月17日	静岡県立中央特別支援学校 そよかぜ学級	34
7月25日	静岡市立清水第六中学校美術部	49
10月22日	清水町立清水中学校	35
11月20日	静岡市立安東小学校6年	18
3月7日	藤枝市立瀬戸谷中学校3年	23
合計人数		227
団体数		10

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへ

とつなげている。

芸術科のある高校や中学高校の美術部の利用が多く、スケッチやクロッキーといったイーゼルを用いない傾向が見られた。

参加者数：165人 団体数：6校

月日	団体名：学年	人数
4月27日	静岡県立浜松江之島高校	24
5月26日	焼津市立大井川中学校	31
7月13日	クラーク国際記念高校1～3年	26
7月17日	駿遠学園中学部	14
11月1日	常葉学園菊川高校1年	46
3月8日	Wonderful Art Community	24
合計人数		165
団体数		6

■学校向けギャラリー・ツアー

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実にも力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（展示室ボランティア学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに当日鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気付きに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ。」「また、美術館に来るね。」の声が多く聞かれる。

粘土教室や絵の具教室に参加した園・学校にも観覧を呼びかけ、ギャラリー・ツアーを実施したが、ボランティアへの連絡や、学校の観覧時間や人数にあわせたボランティアの配置の工夫、オリエンテーションや荷物置き場の確保、ミュージズスタッフへの連絡等細かい配慮が必要となっている。

参加者数：2,999人 団体数：31校



月日	団体名：学年	人数
5月9日	菊川市立菊川西中学校	31
5月25日	静岡市立安東中学校	34
5月26日	静岡県立中央高校通信制	144
7月17日	静岡県立中央特別支援学校 そよかぜ学級	34
7月23日	静岡市立清水有度第一小学校	120
10月5日	静岡市立清水第一中学校美術部	12
10月25日	静岡県立川根高等学校	200
10月30日	静岡市立竜南小学校2年	118
10月31日	静岡市立東豊田小学校2年	139
11月8日	静岡市立千代田小学校4年	140
11月14日	適応指導教室「はばたく教室」 小6～中3	17
12月12日	静岡市立大川中学校	14
	伊東市立宇佐美中学校2年	83
	浜松市立細江中学校1年	240
12月13日	学校組合牧之原中学校1年	20
	富士宮市立富士根北中学校	130
	浜松市立中郡中学校2年	165
12月17日	三島市立山田中学校	321
	森町立泉陽中学校1年	17
	熱海市立多賀中学校1, 2年	166
	静岡市立玉川中学校1年	28
	日本大学三島中学校1年	60
	静岡市立井川中学校1～3年	12
12月18日	城南静岡中学校1, 2年	34
	焼津市立焼津中学校1, 2年	270
	富士市立富士川第二中学校2年	56
	富士市立富士南中学校2年	269
2月15日	長泉町立長泉中学校1, 2年	21
3月4日	富士市立鷹岡小学校・中学校	15
3月7日	静岡市立清水高部小学校2年	66
	藤枝市立瀬戸谷中学校3年	23
合計人数		2,999
団体数		31

■職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ロダン館ななふしぎ、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。

参加者数：33人 団体数：10校

月日	団体名	人数
5月22～24日	静岡南中学校2年生	4
5月29～30日	静岡市立美和中学校2年生	1
7月18日	静岡市立東中学校2年生	2
	静岡雙葉中学校2年	3
8月21～23日	静岡雙葉中学校3年	3
	静岡県立清水南中学校2年	1
8月28～30日	静岡市立東中学校2年	2
11月6・7日	静岡市立清水第三中学校2年	1
2月6日	静岡大学教育学部付属静岡中学校1年	3
2月7日	静岡市立東源台小学校	13
合計人数		33
団体数		10

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるとともに、先生方の研究会に参加させていただき講師を務めるなど積極的に取り組んだ。

参加者数：98人 団体数：6

月日	団体名	人数
5月8日	ときわ支部会研修会	56
5月24日	静岡県立横須賀高等学校	1
8月10日	指導者向け講習会	14
8月24日	指導者向け絵の具講習会	13
11月23日	志田地区造形研究会	5
11月30日	指導者向け銅版画講習会	9

合計人数		98
団体数		6

※教員研修会での講師含



■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展示の見どころ解説などを行った。

参加者数：507人 団体数：7校



月日	団体名	人数
6月18日	焼津市立焼津中学校特別支援学級	33
9月24日	富士宮市立上井出小学校	23
11月21日	日本航空高校	9
12月5日	城南静岡中学校	34
12月6日	浜松市立中郡中学校	165
2月4日	富士宮市立岩松北小学校	63
2月27日	富士宮市立富士宮第二中学校	180
合計人数		507
団体数		7

■粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館に来るには、授業の時間数の関係や距離的に障害があるが、当館の普及事業を自らの手で実践したいという教員のために、粘土やレプリカ等の貸し出しを行ったり、授業協力という形で相談に応じたり、資料の提供を行った。

粘土貸出（貸出日、学校名）	
5月1日	グランシップ企画制作課
5月11日	ふじママネット
5月24日	E P O
6月8日	藤枝橋幼稚園
6月11日	沼津特別支援学校
6月14日	エンゼル幼稚園
6月21日	磐田市立青城小学校
6月23日	服織児童館
7月7日	中央特別支援学校小学部
8月5日	富士ふたば幼稚園
9月8日	静岡市立清水庵原小学校
9月20日	富士市立鷹岡小学校
11月5日	常葉学園短期大学付属たちばな幼稚園
11月27日	静岡市立由比保育園
1月29日	静岡サレジオ幼稚園・小学校
	三島市立向山小学校
授業協力・レプリカ貸出等（貸出日・学校名）	
6月1日	西部特別支援学校
7月10日	富士市立鷹岡小学校（粘土教室）
9月6日	富士市立岩松北小学校
9月28日	静岡市立東中学校
10月8日	御前崎市立浜岡中学校
10月20日	伊東市立門野中学校
11月4日	富士市立富士南中学校
11月9日	焼津市立大井川中学校
11月17日	掛川市立北中学校
2月4日	富士市立岩松北小学校
2月21日	静岡市立清水庵原小学校
2月27日	富士宮市立富士宮第二中学校1, 2年

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月27日	草間彌生の世界	建畠哲氏（京都市立芸術大学学長・埼玉県立近代美術館館長）	講堂	116人
7月21日	シンポジウム「夏目漱石の美術世界」	パネリスト：芳賀徹（当館館長）／古田亮氏（東京藝術大学大学美術館准教授）／田中淳氏（東京文化財研究所企画情報部長） 司会：泰井良（広島県立美術館主任学芸員）	講堂	220人
9月15日	世界遺産としての富士山 —外国人の見聞を中心に—	芳賀徹（当館館長）	講堂	140人
9月22日	清水銀行PRESENTS 特別講演会 柴田キャスターが見た「富士山世界遺産登録 ロビー活動の裏側」／福士学芸員が語る「『富士山の絵画』展の裏側」	芝田信晃氏（SBSキャスター）／福士雄也（当館主任学芸員）	講堂	130人
11月23日	二見彰一 自らの作品を語る	二見彰一氏（作家）	展示室	50人
2月28日	映画×宝塚!? 佐伯祐三が憧れた1920年代のバリをもっと知る二つのキーワード	スティーヴ・コルベイ氏（静岡大学大学教育センター専任講師）／三谷理華（当館上席学芸員）	Business Community LINK 1階	50人
3月9日	シンポジウム「石子順造、グループ『幻触』、1960年代」	パネリスト：榎木野衣氏（美術評論家、多摩美術大学教授）／梅津元氏（埼玉県立近代美術館主任学芸員）／加治屋健司氏（広島市立大学准教授） 司会：川谷承子（当館上席学芸員）	県立中央図書館 講堂	119人

美術講座等

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員ほかによる講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
8月4日	夏目漱石「文展と芸術」について	泰井良 (広島県立美術館主任学芸員)	講座室	70人
10月6日	富士山 一信仰と芸術の山一	福士雄也(当館主任学芸員)	講座室	70人

■鑑賞講座

親子やファミリーを対象にした鑑賞講座。要申し込み。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
1月5日 1月11日	前衛美術となかよくなってみよう	世古智子、中村美穂子、曳地真澄、 見城絵理奈、松浦文香(当館インターン)	第7展示室、 実技室	5人 10人

■フロアレクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について解説するもの。企画により解説を行う学芸員が変わり、個性が出ていると好評を博した。

開催日	演題・内容	講師	場所	参加者数
4月28日 5月19日	企画展「草間彌生 永遠の永遠の永遠」	三谷理華(当館上席学芸員)、川谷承子(当館上席学芸員)	展示室	75人 122人
7月27日 8月1日 (友の会 会員対象) 8月3日 8月10日	企画展「夏目漱石の美術世界」	村上敬(当館上席学芸員)、角田新 (当館上席学芸員)、石上充代(当館 主任学芸員)	展示室	40人 70人 40人 32人
9月14日 9月23日 9月29日 10月13日 10月14日	企画展「富士山の絵画」	福士雄也(当館主任学芸員)、石上 充代(当館主任学芸員)、浦澤倫太 郎(当館学芸員)	展示室	27人 30人 30人 30人 26人 22人
9月21日	小山移動美術展	角田新(当館上席学芸員)	小山町総合 文化会館	35人
9月23日	収蔵品展「挿絵・書籍の愉しみ」	南美幸(当館上席学芸員)	展示室	14人
10月18日 10月19日	ふくろい移動美術展	角田新(当館上席学芸員)	袋井市 月見の里学遊館	50人 40人
10月20日	収蔵品展「佐伯祐三、里見勝蔵と独立の 画家たち」	村上敬(当館上席学芸員)	展示室	15人
11月24日 12月4日 12月14日 12月18日 1月2日 1月8日	企画展「二見彰一展」	新田建史(当館上席学芸員)	展示室	30人 5人 10人 2人 10人 8人

1月12日	収蔵品展「前衛の駆け抜けた頃」	三谷理華（当館上席学芸員）	展示室	6人
2月8日	収蔵品展「大地から－日本の情景」	石上充代（当館主任学芸員）	展示室	4人
3月2日 3月16日	企画展「グループ『幻触』と石子順造 1966-1971」	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	20人 10人
3月23日	収蔵品展「福田半香とその師友」	福土雄也（当館主任学芸員）	展示室	2人

■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、教員向けの研修会講師を行うなどした。また、子どもたちのための文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き美術講座を実施した。年間20回、507人。

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

■講演会

小針由紀隆：「アルプスへの賞賛と批判」（ムセイオン、マウントカルチャー講座）
【静岡県立美術館】9月28日

三谷理華：「セザンヌとサント・ヴィクトワールー南フランスの富士山？」
【舞台芸術公園橢円堂】10月26日

神谷洋介：「静岡県立美術館教育普及の取り組み」（駿東地区図工・美術教育研究部主催「夏季研究発表会」）
【静岡県立美術館】8月5日

福士雄也：「「世界遺産登録記念 富士山の絵画」展の裏側」（清水銀行プレゼンツ）
【静岡県立美術館】9月22日
「富士山のトポスとその変遷－富士山をどこから描くか－」（ムセイオン、マウントカルチャー講座）
【静岡県立大学小講堂】11月23日

■講座等

小針由紀隆：ギャラリートーク講師
【ヤマザキマザック美術館】5月3日
出張美術講座
【伊豆市日本航空高等学校】11月21日
静岡県立大学「世界の文化遺産」講義
【静岡県立大学】12月4日

新田建史：静岡市文化財サポーター養成講座
第4回 講師 2月8日

川谷承子：大学連携 比較言語文化各論Ⅰ 講師
「みる」「かたる」1960年代の現代美術批評について
【静岡大学】4月23日
出張美術講座
【長田西中学校 特別支援学級】5月31日

神谷洋介：出張美術講座
【焼津市立焼津中学校特別支援学級】6月18日

【富士宮市立上井出小学校】9月24日

【城南静岡中学校】12月5日

【浜松市立中郡中学校】12月6日

【富士宮市岩松北小学校】2月4日

夏の工作体験

【エスパルスドリームプラザ】8月6日、20日

こどもたちの文化芸術鑑賞事業事前説明会

【県浜松総合庁舎】9月4日

【静岡県庁】9月5日

【県東部総合庁舎】9月9日

石上充代：出張美術講座

【富士宮市立上井出小学校】9月24日

福士雄也：番組出演「日曜美術館 夢の傑作10選－富士山－」（谷文晁<<富士山図屏風>>について）
【NHK】7月28日放送

番組出演「たっぷり静岡」（富士山と三保松原について）

【NHK】8月1日放送

番組出演「視点論点」（「芸術の山 富士山」）

【NHK】9月6日放送

「富士山の美術史」（静岡文化会議）

【センチュリーホテル静岡】1月21日

出張美術講座

【富士宮市立富士宮第二中学校】2月27日

角田新：出張美術講座

【伊豆市日本航空高等学校】11月21日

■美術館友の会事業への協力

小針由紀隆：友の会旅行「国立西洋美術館『ラファエロ展』と上野フリータイム」同行 5月23日

三谷理華：友の会旅行「ヤマザキマザック美術館・ノリタケの森」同行 11月7日

角田新、石上充代：

「夏目漱石の美術世界」展フロアレクチャー
8月1日

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会の開催 5月23日（県立美術館）

2 研修会・講習会の実施

(1) 第1回講習会「LED照明の現在」

日時：10月11日 13：00～17：30

会場：静岡県立美術館、エントランスホール

参加者数：33名

内容：白熱灯の生産終了や、水銀の使用規制など、美術館・博物館で使用される照明器具にも変化が押し寄せている。本講習会では、代替光源の一つであるLEDに着目し、その基礎的な知識と現状、課題を講習した。また照明関連業者5社にご協力頂き、実際の製品を用いたデモンストレーションを行った。

講師：藤原工氏（株式会社灯工舎代表取締役）

協力：CCS(株)、(株)丹青社、タキヤ(株)（エルコライティング(株)）、パナソニック(株)、高槻電器工業(株)

(2) 第2回講習会 「児童がわくわくするミュージアム」

日時：12月18日 13：30～17：30

会場：浜松市博物館講座室

参加者数：40名

内容：資料の価値や意味をより分かり易く伝えるための教育普及事業は、今日のミュージアム活動に欠かせない。本講習会では、3つの館園による事例紹介と、児童教育の場として美術館・博物館にどのようなことが出来るのか、意見交換を行った。

講師：丸毛敏行氏（(株)資生堂企業文化部資生堂企業博物館・アートハウス参事）

芹沢俊一氏（浜松市美術館指導主事）

切畠正雄氏（浜松市美術館指導主事）

展覧会解説：久野正博氏（浜松市博物館学芸員）

(3) 第3回講習会 「博物館のリニューアル工事」

日時：1月21日 13：20～17：00

会場：公益財団法人佐野美術館

参加者数：20名

内容：大規模改修を行った佐野美術館の事例をご紹介頂くことで、リニューアルに際しての注意等を、生き生きと勉強させていただいた。

講師：渡邊妙子氏（佐野美術館館長）

加藤良晴氏（佐野美術館事務局長）

坪井則子氏（佐野美術館学芸グループ長）

3 地域セミナーの開催

- ・平野美術館「どうぶつ絵画展」

開催日：8月17日～10月14日

- ・磐田市旧見付学校附磐田文庫「むかしの授業体験」

開催日：8月1日、8月22日

- ・富士市立博物館「富士山ネットワーク『富士山ぐるりんコンテスト』およびスタンプラリーにともなうPRイベント」

開催日：6月30日（富士山樹空の森）、8月25日（富士山こどもの国）ぐるりんコンテスト表彰式 10月13日

- 4 静岡県博物館協会会報（No. 71、No. 72）の発行

- 5 静岡県博物館協会研究紀要 第37号の刊行

- 6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

- 7 東海地区博物館連絡協議会役員会及び総会への参加

日程：7月18日

場所：名古屋市科学館

- 8 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡調整を図った。

- 9 事業推進グループによる事業の推進

事業推進グループ会合 4回開催

7月17日、10月11日、12月18日、1月21日

- 10 静岡県文化財等救済ネットワークでの活動

静岡県文化財等救済ネットワーク会議

6月18日

■その他

小針由紀隆：富士山世界遺産センター展示実施計画検討委員

静岡市美術館運営協議会委員

ふじのくに子ども芸術大学実行委員

ふじのくに芸術祭2013（第53回静岡県芸術祭）美術部門審査員

国立西洋美術館美術品価格評価員

静岡県舞台芸術センター評議員

富士山世界遺産ポスター選考委員

新田建史：文化財保存修復学会第35回大会 セッション4座長

【東北大学】7月20日

静岡県文化財等救済ネットワーク会議

【静岡県庁】10月19日

川谷承子：「めぐりアート静岡」（静岡大学アートマネジメント育成事業）への協力：平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

「むすびじゅつ」（静岡の芸術文化を掘り起こす共同事業）の企画立案と運営：平成25年度文化庁「地域と協働した美術館・博物館創造活動支援事業」

上野の森美術館「現代美術の展望VOCAL展2014—新しい平面の作家達—」

作家の推薦と推薦文執筆
浜松市美術館美術資料審査委員
富士山世界遺産ポスター選考委員

福士雄也： 世界遺産富士山に係る名勝総合調査検討委
員会委員
三保松原保全活用計画検討委員会委員

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。2009（平成21）年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報平成21年度」p.82～84を参照）、2010（平成22）年4月からは、新体制により再始動した。

任期制導入後最初の活動期間が満了し、改革後初めての再募集と研修を経て、今年度は第2期の活動が始まった。109名の方が登録くださったが、このうち6割が当館でのボランティア経験のある方である。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために、次の3つ活動方針を定めている。

1. 来館者サービス充実
2. 美術館運営支援
3. 地域連携推進

・活動内容、グループ

（1）全ボランティア共通の業務

当館ボランティアは、それぞれの地域、家庭、職場などにおいて当館の情報を提供し、宣伝することに務める。美術館の宣伝活動（口コミ）の一翼を担っていただくとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たす。そのために、企画展ごとにその内容を知るためのボランティア研修を行った。

（2）各グループの活動

以下の6つのグループに分かれて活動した。ご案内グループのみ、他との兼任可としている。

① ご案内グループ 46名

図書閲覧室の受付を中心とする来館者対応が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納を行うと共に、美術館の案内業務を行う。

② 展示室グループ

A 学校班 17名

学校等の団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見聞を引き出す。

B ギャラリーツアー班 11名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行う様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

③ タッチツアーグループ 11名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役を行う。身障者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチ・ツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

④ 実技室グループ 12名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室のイベントは、様々な工作のワークショップなど多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。ボランティアのマンパワーがたいへん有益となっている。

⑤ 資料整理グループ 19名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシ、また作家からの個展のダイレクトメールなど、貴重な美術情報を整理、掲示、閲覧し、一般来館者へ情報提供を行う。その後は分類、保管し、将来的にはデータベース化を行うことにより貴重なアーカイブを形成することも目指している。人手のいる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

⑥ 地域連携・草薙ツアーグループ 9名

“地域と美術館を結ぶ”ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館前庭にある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

・規約、ルールなど

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は今のところ行っておらず、ボランティア会長や代表なども置いていない。

・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（応募基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

・募集、登録、活動期間

より多くの方が美術館ボランティアに参加できるようにするため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、そのつど美術館が定め、募集要項に記載する。

活動期間 平成25年4月～平成28年3月（3年間）

■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（平成25年度末時点「広報サポーター」登録者数94名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

なお、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」の提出を義務付けている。

・「広報サポーター」に登録すると

（1）展覧会ポスターやチラシ、イベント情報等が随

時送られてくる

（2）展覧会のボランティア・プレビューに参加できる

（3）広報サポーター証の発行を受ける

・「広報サポーター」の活動内容

（1）展覧会やイベントの情報をポスター、チラシ、口コミ等で地域や職場に広める

（2）年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

友の会活動

■ 諸会議

- ・理事会
5月11日（土） 静岡県立中央図書館 会議室（中集会室）
（1）役員選任等について
（2）平成24年度事業報告、決算報告
（3）平成25年度事業計画、予算案
- ・評議員会
5月11日（土） 静岡県立中央図書館 会議室（中集会室）
（1）役員選任等について
（2）平成24年度事業報告、決算報告
（3）平成25年度事業計画、予算案
- ・事業委員会
静岡県立美術館 会議室 12回開催
- ・会報委員会
静岡県立美術館 会議室 19回開催

■ 実技講座

- ・実技講座「駿河和染め」
9月23日（月） 9月29日（日） 2日間
静岡県立美術館 実技室
講師 大橋俊之氏（染色家、和染め「城北工房」）
参加人数 9月23日 17名／9月29日 17名
- ・実技講座「甲骨文字で風景を描いてみましょう」
2月11日（火） 2月16日（日） 2日間
静岡県立美術館 実技室
講師 大杉弘子氏（日本美術家連盟・国際美術家連盟会員）
参加人数 2月11日 17名／2月16日 18名

■ 講演会等の開催

- ・「芳賀徹館長 漱石を語る」
8月1日（木）
講師 角田新（当館上席学芸員）
石上充代（当館主任学芸員）
参加人数 33名
※芳賀館長体調不良のため角田上席学芸員と石上主任学芸員が講師に代わる。
※友の会寄贈イヤホンガイドを活用。

■ 親睦旅行

- ・「国立西洋美術館『ラファエロ展』と上野フリータイム」日帰り旅行
5月23日（木）
参加人数 26名 小針由紀隆（当館学芸部長）同行
- ・「ヤマザキマザック美術館・ノリタケの森」日帰り旅行
11月7日（木）
参加人数 25名 三谷理華（当館上席学芸員）同行

■ 友の会美術館支援事業

- ・各種実技支援事業

■ 情報資料の作成と提供

- ・友の会だより「プロムナード」発行（各1000部）
（1）第80号（4月15日発行）アトリエ訪問 現代美術家・持塚三樹氏
（2）第81号（7月15日発行）アトリエ訪問 画家・阪口鶴代氏
（3）第82号（12月15日発行）アトリエ訪問 美術作家・横井山泰氏
- ・情報の提供
（1）美術館ニュース「アマリリス」郵送（年4回）
（2）各種催事の情報提供
（3）美術館内掲示板の有効活用
①入会勧誘ポスター掲示や入会申込用紙設置
②講座や旅行の実施前後に、募集要項・参加者のスナップ写真・作品などを掲示、PR
③友の会だより「プロムナード」の掲示

■ キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパスポート」の作製や事業活動へ協賛。

■ イヤホンガイド寄贈

- ・多様な鑑賞機会の提供を図り、良好な鑑賞環境確保に向けて。

■ その他の事業

- ・会員勧誘キャンペーン
『草間彌生 永遠の永遠の永遠』
4月27日～28日、6月15日～16日、22日、23日
計6日間実施
新規入会会員 一般：14 特別：2
シニア：4（計20名）

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、学生会員・シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 学生(高校生・専門学校生・大学生)は、学生会員とする。
- (4) 会員資格の有効期限内における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

- 2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

- 2 各種講座・見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

- 2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

- 2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

- 2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1人

- (3) 理事（会長及び副会長を含む）10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
 - 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
 - 4 評議員は、理事会において選任する。
 - 5 理事、評議員及び監事は、相互に兼ねることができない。

（役員の職務）

第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

（役員の任期）

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（専門委員会）

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

（事務局）

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

（顧問）

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会議）

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

（会議の権能）

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

（会議の開催）

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めるとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。

2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めるとき。
- (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

（会議の定足数）

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

（会議の議長）

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

（会議の議決）

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（書面の決議等）

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

（賛助会員）

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

- 2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

（会則の変更）

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

（解散）

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

- 2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決によりその用途を定めるものとする。

（雑則）

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。
- 2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類			
	一般会員	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	2枚
2 会員証提示により、収藏品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)	○
3 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリス」(年3回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○
5 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)	○
6 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲料料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○
7 会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○	○
8 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待			○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	申し出のあった額

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、ホームページの運営について記載する。

■広報活動

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、K-mix）
- ・ 広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・ 展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海、鈴与グループ）との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

■ホームページ

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で17年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6,000		
平成10年度（1998）	12,000	累計	18,000
平成11年度（1999）	21,000	累計	39,000
平成12年度（2000）	40,000	累計	79,000
平成13年度（2001）	70,200	累計	149,200
平成14年度（2002）	87,300	累計	236,500
平成15年度（2003）	85,000	累計	321,500
平成16年度（2004）	98,000	累計	419,500
平成17年度（2005）	103,500	累計	523,000
平成18年度（2006）	155,400	累計	678,400
平成19年度（2007）	164,500	累計	842,900
平成20年度（2008）	164,000	累計	1,006,900
平成21年度（2009）	147,225	累計	1,154,125
平成22年度（2010）	353,500	累計	1,507,625
平成23年度（2011）	419,000	累計	1,926,625
平成24年度（2012）	370,660	累計	2,297,285
平成25年度（2013）	977,227	累計	3,274,512

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、今年度は前年比2倍強の伸びとなった。情報発信のツールとしてホームページがより一層その重要度を増してきていることは明らかで、今後も引き続き、魅力あるページ作りが必須である。

平成22年度末には、新たにブログを開設した。来館者と美術館をつなぐ新たなコミュニケーションツールと

して、有効に活用されている。特にワークショップ、講演会などの教育普及活動に関する情報をタイムリーに案内するよう努めているほか、混雑が予想されるイベント（絵の具開放日・粘土開放日など）の受付状況を逐次掲載するなど、きめ細やかな情報提供を心がけている。23年度にはコレクションのページに作家名インデックスから全所蔵作品が検索できるコーナーを加え、収蔵品の情報提供サービスの充実を図った。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

- ・ ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールにより回答いただく。

- （1）当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
 - （2）当ホームページの情報内容について
 - （3）当ホームページの更新頻度について
 - （4）当ホームページのデザインについて
 - （5）当ホームページの見やすさについて
 - （6）その他、当ホームページに対するご意見、ご要望
- 各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

美術館ニュース「アマリリス」

デザインと文字のレイアウトを従来の横書きから縦書きに変更した。

また、外部からの応援メッセージコーナーを新設した。
いずれもA4判8ページ、オールカラー

第109(春)号 平成25年4月26日発行

- p. 1 表紙 オーギュスト・ロダン《バルザックの頭部》
／小針由紀隆
- p. 2 バルザックの横顔とともに一新装版発刊にあたって／芳賀徹
- p. 2 美術館への思い／飯田真
- p. 3 実技室だより コラージュ 切り絵 テンペラ画
／伴野潤
- p. 4 草間彌生 永遠の永遠の永遠／三谷理華
- p. 5 夏目漱石の美術世界展／泰井良
- p. 6-7 研究ノート ロダンとコラン ロダン美術館の
文書が物語る芸術家の交友／三谷理華
- p. 7 本の窓 須賀敦子全集〈第1巻〉『ミラノ 霧の
風景』／小針由紀隆
- p. 8 美術館は私の居場所／高橋由利子

第110(夏)号 平成25年6月28日発行

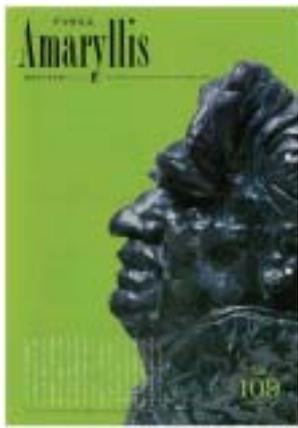
- p. 1 表紙 《武蔵野凶屏風》／福士雄也
- p. 2 漱石と富士山／芳賀徹
- p. 3 世界遺産登録記念(仮) 富士山の絵画／福士雄也
- p. 4-5 平成24年度 新収蔵品・寄贈作品の紹介／石上
充代、泰井良、南美幸、川谷承子
- p. 6 研究ノート 川村清雄《天の石屋戸の図》の発見
／村上敬
- p. 7 本の窓 白川昌生『美術館・動物園・精神科施設』
／川谷承子
- p. 8 これからの美術館によせて／世古智子

第111(秋)号 平成25年10月1日発行

- p. 1 表紙 黒田清輝《富士之図》／村上敬
- p. 2 「見る」と「語る」～美術館と大学との連携を通して／平野雅彦
- p. 3 ロダン館の魅力再発見／川谷承子
- p. 4-5 静岡県立美術館所蔵 二見彰一展／新田建史
- p. 4 本の窓 シャーン・エヴァンス著 村上リコ訳
『メイドと執事の文化誌—英国国家事使用人たちの
日常—』／南美幸
- p. 6-7 研究ノート 大岡雲峰《日金山富嶽眺望図》に
ついて—関東南画の一系譜—／福士雄也
- p. 8 「トッカン」というしごと／浦澤倫太郎

第112(冬)号 平成26年1月2日発行

- p. 1 表紙 《三保松原・巖島凶屏風》／福士雄也
- p. 2 教育・文化・観光のストラテジックな場としての
静岡県立美術館と『ムセイオン静岡』／立田洋司
- p. 3 災害図上訓練(DIG)を実施／石川芳弘
- p. 4 移動美術展報告／角田新
- p. 5 グループ「幻触」と石子順造 1966-1971—時代を
先駆けた冒険者たちの記録—／川谷承子
- p. 6-7 研究ノート クロード・ロランとボローニャ派
の画家たち—《エルミニアと羊飼ひ》から考
える—／小針由紀隆
- p. 7 本の窓 山口晃『ヘンな日本美術史』／新田建史
- p. 8 飯田真さんを偲んで／小針由紀隆



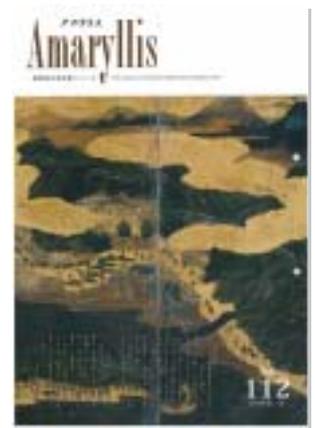
第109(春)号



第110(夏)号



第111(秋)号



第112(冬)号

新たな広報チャンネルの開拓

・草間彌生展において、新静岡セノバと連携して若いターゲットに絞った広報戦略を展開。セノバ館内での作品展示・グッズ販売やレストランでの作品にちなんだメニュー販売や展覧会広報を行ったほか、静鉄グループとして、ラッピングバスの運行や静岡鉄道一日乗車券付鑑賞券の販売を行った。今回のセノバとの広報連携は、平成25年度静岡県庁広報グランプリの広報グランプリ大賞を獲得したほか、「ひとり1改革運動」の年間表彰において優良賞及び会場奨励賞を受賞した。

・ムセイオンのマウントカルチャーにおける講座で当館館長、学芸員が富士山世界遺産登録をテーマとして講演し、当館自体の広報にもつながった。

・夏目漱石展において、サールナート静岡シネギャラリーにて、映画「それから」(1985年)を上映し、幕間に大阪大学大学院教授の講演会を催した。文学と芸術との相互交流をテーマにした漱石展に相応しい内容で約200名の来場者を集め、テレビの取材もあった。

・「ふじのくにしずおか観光大商談会 in 名古屋」及び「ふじのくにしずおか観光大商談会 in 大阪」に、有度山フレンドシップ協定を結んでいる施設とチームを組んで参加。各施設を結んだ観光ルートの周知に努めた。

・「二見彰一展」において大学生の広報サポーターを募り展覧会の感想等をブログ、Facebook、ツイッターなどのSNSで発信。若い世代に美術館とのつながりを持ってもらうきっかけとなった。

・静岡市、草薙商店会、県立大学、自治会等が主催する、草薙駅周辺の賑わいを創出するイベント「つながるくさなぎフェス」において、エンボス版画を体験するブースを出店。二見彰一展や県立美術館のアピールをした。

・グループ「幻触」展において、グループ「幻触」が清水で生まれた美術家集団であることを考慮して、静岡市内の小中学生向けの招待状（同伴者は2名まで割引料金で入館可）を作成し、市内小中学生約53,500人に各学校の美術担当主任教諭を通じて配布した。招待状配布後は、団体を除く小中学生の入館者37.3%が招待券を利用した。

ロダン館展示・イベント

本年は、美術館の職員がアイデアを出し合って企画した、5つのイベントを実施した。

■もっと知ろう ロダン館スペシャル

夏休み期間の来館者でにぎわうロダン館で、鑑賞者が、主要作品の前で待機するギャラリートツアー班ボランティアと、作品について気軽に対話を楽しんだ。

開催日時：8月13日（火）、25日（日）

いずれも10：00～16：00

参加者：281人

静岡県立美術館ボランティア ギャラリートツアー班

「もっと知ろうロダン館スペシャル」

ねえ～、いつ行くの～？
今でしょ～！！

開催日 8月13日（火）・8月25日（日）

実施時刻 10:00 ～ 16:00

参加費 無料（一般の方は、ロダン館の鑑賞料が必要です。大学生以下及び70歳以上の方は無料でロダン館をご鑑賞いただけます。）

静岡県立美術館のギャラリートツアーを担当するボランティアスタッフが、ロダン館の作品の前で、皆さまをお待ちしています。スタッフとの対話を楽しみながら、作品の魅力に触れませんか？見つけよう、深めよう、あなたのロダン。



静岡県立美術館

■夏休みクイズラリー 親子でロダン館を探検！！

解答用紙を持ってロダン館を回り、作品の近くに設置されたロダンに関する10問のクイズに答えて、応募する。全問正解者には、期間終了後に抽選で豪華景品をプレゼントした。

期間：8月13日（火）～8月25日（日）

参加者：770名

全問正解者：386名

厳正なる抽選の結果、エスタ賞「ロダンセット食事券」2名、動物園賞「オリジナルグッズ」5名、美術館賞「富士山の絵画招待券」25名、ダブルチャンス「ロダントオルハンカチ」20名の方が当選した。

夏休みクイズラリー 親子でロダン館を探検！！

きみにロダン館のナゾがとけるかな？



県立美術館の企画展・常設展入口においてある解答用紙をもって、ロダン館に設置されたクイズを回ろう。全問正解者には、期間終了後に抽選で豪華景品をプレゼント！！

期間 8月13日（火）～25日（日）

対象者 どなたでも参加できます

参加料 無料（ロダン館の入館料は必要です）

申込 不要

景品 エスタ賞：県立美術館レストラン「エスタ」ロダン食事券 2組4名
動物園賞：日本平動物園オリジナルグッズ 5名
美術館賞：企画展「富士山の絵画」展 招待券 25組50名

*ダブルチャンスとして、ハズれた方の中から抽選でロダントオルハンカチが20名に当たります。また、期間中にキッズミュージアムバスポートをお持ちの小学生は、参加賞として粗品を差し上げます。（数がなくなり次第終了）

主催：県立美術館
協力：日本平ホテル、日本平動物園、静岡市動物園協会
お問い合わせ：県立美術館総務課 TEL054-263-5755



■ロダン賞受賞記念 午後のひとときコンサート

静岡音楽館AOIが毎年行う「静岡の名手たち」オーディション合格者の中から、静岡県立美術館・ロダン館で演奏するにふさわしい演奏家に「ロダン賞」が贈られている。ロダン館を会場に、本年は、第16回、第17回「ロダン賞」受賞者による演奏会を開催した。

日時：11月3日（日） 14：00開演

出演者：岩瀬 健人 氏（ピアノ）

* 第17回「ロダン賞」受賞者

曲目：F.ショパン：舟歌 嬰へ長調op.60

F.リスト：リゴレット（演奏会用パラフレーズ）

F.メンデルスゾーン：厳格なる変奏曲 ニ短調 op.54 ほか

日時：11月4日（月・祝） 14：00開演

出演者：入川 奨 氏（打楽器）

野田 舞 氏（サクソフォン）、酒井 絢子 氏（ピアノ）

* 第16回「ロダン賞」受賞者

曲目：I.クセナキス：ルボンb

G.ビゼー/F.ボルヌ：歌劇《カルメン》による華麗なるファンタジー

C.コリア：スペイン ほか

参加者：374名（2日間）

ふじのくに文化の丘フェスタ2013

ロダン賞受賞記念 午後のひとときコンサート

第16回、第17回「静岡の名手たち」オーディション合格、ロダン賞受賞者が奏でる、ロダン館66で特別の記念
会場：静岡県立美術館ロダン館

観覧料 300円
大学生以下は
70歳以上の方は無料

11月3日(日) 14:00開演
(第17回受賞者)
出演：若瀬健人氏(ピアノ)
曲目：モショボン / 舟歌 舟歌集
リスト：リゴレット(演奏会用ハバネーズ)
モメンディルグレン：驚愕なる舞曲曲 2008年14.12.9

11月4日(月・祝) 14:00開演
(第16回受賞者)
出演：入川英氏(打楽器)
野田舞氏(サクソフォン)、酒井柊子氏(ピアノ)
曲目：1. ヴィヴァス・パルティ
G.ゼーバルス：歌劇「カルメン」による華麗なるタンゴ
C.コッア：スペインの心

ロダン賞とは
静岡県美術館の特別オーディションで、ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。

レ스토랑エスタ&カフェ・ロダン(静岡県立美術館内)とのコラボ企画!
コンサート観覧と合わせて期間限定レストランメニュー(11:00~14:00)に
ロダンセット(¥1,800)をご用意。ロダンセットは、ロダン賞受賞者の特典として、ロダンセット(¥1,800)をご用意。ロダンセットは、ロダン賞受賞者の特典として、ロダンセット(¥1,800)をご用意。

前日応募券は、ロダン賞受賞者の特典として、ロダンセット(¥1,800)をご用意。ロダンセットは、ロダン賞受賞者の特典として、ロダンセット(¥1,800)をご用意。

コンサート 演奏者プロフィール

若瀬健人 (ピアノ) Kenta IWASE (p.)
静岡県立美術館特別オーディション合格、ロダン賞受賞者。ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。

入川英 (打楽器) Sho FUKAWA (perc.)
静岡県立美術館特別オーディション合格、ロダン賞受賞者。ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。

野田舞 (サクソフォン) Mai NODA (saxo.)
静岡県立美術館特別オーディション合格、ロダン賞受賞者。ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。

酒井柊子 (ピアノ) Aiko SAKAI (p.)
静岡県立美術館特別オーディション合格、ロダン賞受賞者。ロダン賞受賞者として選ばれる。ロダン賞受賞者は、ロダン館66で特別の記念コンサートを開催し、ロダン賞受賞者として選ばれる。

ミュージアム静岡各機関を回って スタンプ3つで参加賞をGET! さらに希望者に抽選で豪華賞品が当たります!!

ミュージアム静岡各機関では、期間中イベントを連携しています。

国立中央図書館	10/26 読書検定アーチ	11/9 静岡県がせネットワーク協議会ほか
県立文化財センター	10/31 総合文化センター	11/9 読書検定音楽会
県立美術館	10/26-27 アート・フェスティバル	11/4 午後のひとときコンサート
県立大学	10/26-27 大学祭(新館)	
グランシップアクトリーナ	10/30-31 日本証書音楽演出部講演(楽屋、白鳥小)	
	11/8 定評ある演劇教室(新山小)	
S.P.A.C	10/26-27/11/2 S.P.A.C.秋のダンスサーカス特別公演	

応募券
A 県立美術館(二見館)スタンプ(10個) 200円
B グランシップ美術館(千手)スタンプ(3個) 600円
C S.P.A.C.公演(新館)観覧券(1席) 200円

抽選品
A 県立大学オリジナルTシャツ(サイズ) (5名)
B 読書検定センターおまけセット(20名)
C S.P.A.C.公演(新館)観覧券(1席) 200円

静岡県立美術館

■ブロンズ彫刻を拭いてみよう!

ロダン館のブロンズ像を拭く作業を通じて、参加者がブロンズという素材の持っている特質などを、体感する催しを行った。

日時：12月16日(月) 14:00~
参加者：4名

ブロンズ彫刻を拭いてみよう!

2013年度 静岡県立美術館 ロダン館イベント

12月16日(月) 14:00~

ブロンズは、精造彫刻の素材として、一般的に使われるものです。当館にある(特定の)や(特定の)もブロンズ製です。今回の講座では、ロダン館のブロンズ像を拭いてみる作業を通じて、この素材の持っている特質などを、体感していただきます。

参加費：県立以上の個人
申し込み：持ち物も特になし、動きやすい服装
集合場所：県立美術館/大講堂前(電車の駅ではなく、美術館に隣接するバス停です)
持ち物：なし

申込締切(必着) 12月7日(土)

無料・要申込
下記にご記入のうえ、ファックスにてお送りいただくか、郵送またはご持参下さい。

お問い合わせ、申し込み先
静岡県立美術館 学芸課 「ブロンズ彫刻を拭いてみよう!」係
〒422-8002 静岡県駿河区台田5-2 TEL. 054-263-5857 FAX 054-263-5742

■ロダン館写真ワークショップ「あなたのロダンを探そう！」

「光の種類」をテーマに、写真のワークショップを開催した。講師から、光の種類（硬い光と柔らかい光）による作品の見え方の違いについてのレクチャーを受けた後、参加者がそれぞれ好きな光を使って自分のイメージしたロダン彫刻作品を自由に撮影した。後日、受講者の作品は、当館ホームページでも公開された。

開催日：2月9日（日） 10：00～16：00

参加者：16名

講師：齋藤久夫氏（有限会社ケイフォトサービス 代表取締役）



【静岡県立美術館ロダン館にて写真ワークショップを開催します！】

静岡県立美術館では、平成 25 年度ロダン館イベントの一環として、写真ワークショップ「あなたのロダンを探そう！」を開催します。今回のテーマは光の種類。はじめに光の種類（硬い光と柔らかい光）による作品の見え方の違いを理解していただき、それを元に参加者の皆さんがそれぞれ好きな光を使って自分のイメージしたロダン彫刻作品を自由に撮影していただきます。開催要項は下記のとおりです。皆様の参加をお待ちしています。

※以下の写真は講師の作品です。

～ 講師プロフィール ～

齋藤久夫 Hisao Saito

有限会社ケイフォトサービス代表取締役

特定非営利活動法人 THE DARKROOM INTERNATIONAL 理事

一般社団法人 AGORA 代表

日本写真協会 国際交流員

東京写真専門学校 ケイフォトプロデューサー

東京写真専門学校 学生会プロデューサー

横浜写真専門学校 実行委員

フォト倶楽部の実行委員 監事

《代表的な活動事業》

2004 年 横浜市美術館「写真キラーコレクション」特別公開「カメラや書物類」プロデュース

2005 年 「日本写真協会主催」ついでにの展「ついでに vol.1」

2005 年 「イランの写実家たち」マツダのワークショッププロデュース

2006 年 すみだ写真博覧会 2006「Tokyo East Perspective」展

写真」展協賛人、特別プロデュース

2007 年 ビンセント・ヴァン・ゴッホの展「ゴッホ展」

アサヒビル館の協力で開催された展覧会にて写真制作した展示を行うことによる写真展、プロデュース

2009 年～2011 年 東京フォトフェスティバルプロデュース

その他、テレビ番組の制作協力、小・中・高等学校、行政や企業からの要請でワークショップの企画運営などを数多く行っている。

開催要項

- 開催日 平成 26 年 2 月 9 日（日） 10:00～16:00
- 集合場所 静岡県立美術館（講座室）
- 応募資格 中学生以上の方（ビギナーの方でも OK です。）
- 募集人数 15 名（※定員を超えた場合は抽選とさせていただきます）
- 持ち物 デジタル一眼レフカメラ
- 講師 齋藤久夫（有限会社ケイフォトサービス 代表取締役）
- 参加費 収蔵品観覧料 300 円（※大学生以下と 70 歳以上の方は無料です。）
- 応募方法 任意ハガキに ①氏名、②住所、③年齢、④性別、⑤電話番号 を記入の上、下記の宛先までお送りください。
- 応募締切 平成 26 年 1 月 31 日（金）※必着※
- 当選通知 平成 26 年 2 月 7 日（金）までに当選（又は落選）の結果を通知します。

★ お問い合わせ・申し込み先 ★

静岡県立美術館 総務課「あなたのロダンを探そう！」係

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL:054-263-5858 FAX:054-263-5767

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,700	4,904	289	
18	81,657	10,700	5,090	8,891	499	
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365	
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319	
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183	
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344	
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238	
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182	
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188	
合計	2,215,761	305,892	185,190	133,704	4,439	
25年度 月別 内訳	4	3,188	781	117	164	15
	5	3,664	1,024	238	218	39
	6	6,085	280	152	188	35
	7	1,948	420	146	145	12
	8	6,135	663	305	395	15
	9	4,699	760	222	120	17
	10	3,246	401	246	127	11
	11	4,646	1,010	158	115	7
	12	5,060	585	89	47	7
	1	1,896	365	165	125	9
	2	4,042	1,013	129	96	9
	3	3,874	1,461	179	168	12

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/2(火)	4/7(日)	6	AB	無	13 現代書作家展しずおか	現代書作家展しずおか運営委員会	742
2	4/9(火)	4/14(日)	6	A	無	杉浦カメラユーザー写真展	杉浦立芳	729
3	4/16(火)	4/21(日)	6	A	無	第24回 パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	660
4	4/16(火)	4/29(月)	13	B	無	渡辺憲二彫刻展2013	渡辺憲二	1,057
5	5/8(水)	5/12(日)	5	AB	無	第10回 アトリエ・ニケ子ども造形・デザイン・絵画教室 展覧会	大森 恵	821
6	5/14(火)	5/26(日)	12	AB	無	第50回 静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,843
7	5/28(火)	6/9(日)	12	AB	無	第40回 二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	2,066
8	6/11(火)	6/16(日)	6	AB	無	第13回 パッチワーク・パフキルト展	滝下千鶴子	2,591
9	6/18(火)	6/23(日)	6	AB	無	第78回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,428
10	7/17(水)	7/28(日)	11	AB	無	第41回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,749
11	7/30(火)	8/4(日)	6	A	無	おもしろ・なんでも額装展	小長谷正明	671
12	8/6(火)	8/11(日)	6	AB	無	第25回 静岡独立展	佐藤信夫	1,065
13	8/13(火)	8/18(日)	6	AB	無	静岡県写真愛好者秀作展	沖田完治	1,365
14	8/27(火)	9/1(日)	6	A	無	飾り帯結び展	三輪民庫	855
15	8/20(火)	9/1(日)	11	B	無	高度4000メートルの世界「空撮富士山写真展」	静岡新聞社	2,816
16	9/3(火)	9/8(日)	6	A	無	静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	700
17	9/3(火)	9/8(日)	6	B	無	第25回 パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	718
18	9/10(火)	9/16(月)	7	AB	無	第39回千世の会書展	千世の会	865
19	9/18(水)	9/23(月)	6	AB	無	日本酔墨会20周年記念展	大内雅之	1,145
20	9/25(水)	9/29(日)	5	AB	無	第31回一基書展	一基会	833
21	10/1(火)	10/6(日)	6	A B	無	第44回 静岡独立書展	静岡県独立書人団	679
22	10/8(火)	10/13(日)	6	A B	無	静岡県日本画連盟展	静岡県日本画連盟展	896
23	10/16(水)	10/20(日)	5	A B	無	第39回 静岡県フレミッシュ織展	静岡県フレミッシュ織教室	1,007
24	10/29(火)	11/15(日)	13	A B	無	ふじのくに芸術祭2013	静岡県文化・観光部	3,399
25	11/21(木)	11/24(日)	4	A B	無	第29回静岡県高等学校美術・工芸展 中部支部展	静岡県教育委員会・静岡県高文連	1,253
26	11/27(水)	12/1(日)	5	A	無	第61回静岡県高等学校美術・工芸展	静岡県教育委員会・静岡県高文連	1,167
27	12/3(火)	12/8(日)	6	A B	無	第31回 静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社	3,257
28	12/11(水)	12/15(日)	5	A B	無	第39回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	883
29	12/19(木)	12/23(月)	5	A B	無	ふじのくに芸術祭2013 (学生アートフェスティバル)	静岡県文化・観光部	411
30	1/17(金)	1/26(日)	9	A B	無	第17回静岡県すこやか長寿美術展	(財)しずおか健康長寿財団	1,607
31	1/28(火)	2/2(日)	6	B	無	第8回クレイライフ展	クレイ・ライフ	713
32	2/4(火)	2/9(日)	6	A B	無	第35回ジュニア県展	静岡新聞社	1,950
33	2/11(火)	2/16(日)	6	A B	無	第26回特別支援学校高等部合同作品	静岡県教育委員会・静岡県高文連	757
34	2/18(火)	3/2(日)	12	A B	無	秀景ふるさと富士写真展	静岡県文化・観光部	1,108
35	3/4(火)	3/16(日)	18	A	無	めぐりアート静岡	静岡県文化・観光部	1,756
36	3/18(火)	3/23(日)	6	A	無	第34回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	1,353
37	3/25(火)	3/30(日)	6	AB	無	現代書作家展 しずおか	毎日新聞静岡支局	568
合 計								48,483

アクセス環境の向上

平成25年度のアクセス環境の満足度に対するアンケート集計の結果は、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は85.0%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は75.5%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

このことについて、まず自家用車利用者についての要因だが、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られているために、週末などに来館者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり駐車できるまでに時間がかかってしまうという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学や県埋蔵文化財センターの職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てていきたい。

次に公共交通機関の利用者についてであるが、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、このあたりがアクセスに満足してもらえない要因でないかと思われる。路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができるので、このことを電話等で照会があった際にはPRしていきたいが平成25年度から日曜、祝日が20分間隔から30分間隔で運転するようになったため今後はバス会社との調整が必要である。

また、美術館案内表示等周辺環境整備についても、美術館中長期計画に基づき計画的に整備していく予定である。

平成25年度主要記事

4月2日	有度山フレンドシップ協定締結		
13日	企画展「草間彌生」開幕（～6月23日）	22日	企画展「二見彰一展」開幕（～1月19日）
27日	草間彌生特別講演会「草間彌生の世界」建 島哲氏（京都市立芸術大学長・埼玉県立近 代美術館館長）	23日	二見彰一展特別講演会「二見彰一—自らの 作品を語る」
28日	草間彌生フロアレクチャー（4月28日、5 月19日）	24日	二見彰一展フロアレクチャー（11月24日、 12月4日、14日、18日、1月2日、8日）
5月11日	草間彌生映画上映会「≡草間彌生 わたし大 好き」（5月11日、18日）	26日	収藏品展「グループ『幻触』と石子順造ブ レ企画前衛の駆け抜けた頃」（～1月19日）
24日	美術館研究活動評価委員会	12月14日	つながる草薙フェス
6月24日	展示室整備などのための休館（～7月12日）	16日	ロダン館イベント「ブロンズ彫刻を拭いて みよう」
7月13日	企画展「夏目漱石の美術世界」開幕（～8 月25日）	19日	ARU?（～23日）
	収藏品展「新収藏品展」（～8月25日）	1月12日	二見彰一展 音楽と美術と（1月12日、13日）
21日	夏目漱石の美術世界シンポジウム「夏目漱 石の美術世界」パネリスト：芳賀徹（当館 館長）、古田亮氏（東京藝術大学大学美術館 准教授）、田中淳氏（東京文化財研究所企画 情報部長）、司会：泰井良（広島県立美術館 主任学芸員）	13日	二見彰一展銅版画講座「アクアチント講座 構成の愉しみ」
	夏目漱石の美術世界フロアレクチャー（7 月27日、8月3日、10日）	21日	収藏品展「大地から—日本画の情景」（～2 月23日）
31日	第1回美術館協議会	2月1日	企画展「グループ『幻触』と石子順造1966— 1971」開幕（～3月23日）
8月3日	夏休み子どもワークショップ「ドット若冲SP」 （8月3日、4日）	9日	ロダン館イベント「ロダン館写真ワークショッ プ」
4日	夏目漱石の美術世界美術講座「夏目漱石 「文展と芸術」について」泰井良（広島県立 美術館主任学芸員）	18日	第2回美術館協議会
13日	第三者評価委員会	19日	第三者評価委員会中間報告会
	ロダン館イベント「親子でロダン館を探検！」 （～25日）	25日	収藏品展「没後150年福田半香とその師友」 （～3月30日）
	「もっと知ろうロダン館スペシャル」（8月 13日、25日）	28日	トークセッション 佐伯祐三とパリ「映画 ×宝塚!? 佐伯祐三が憧れた1920年代のパ リをもっと知る二つのキーワード」
14日	ART!（～18日）		スティーヴ・コルベイ氏（静岡大学教育セ ンター専任講師）、三谷理華（当館上席学芸 員）
15日	中長期計画職員ワークショップ	3月2日	グループ「幻触」と石子順造フロアレクチャー （3月2日、16日）
18日	夏目漱石の美術世界「映画『それから』レ クチャー付き上映会」上倉庸敬氏（大阪大 学教授）	9日	グループ「幻触」と石子順造シンポジウム 「石子順造、グループ『幻触』、1960年代」
27日	収藏品展「挿絵・書籍の愉しみ」（～10月6 日）		パネリスト：榎木野衣氏（美術評論家、多 摩美術大学教授）、梅津元氏（埼玉県立近代 美術館）、加治屋健司氏（広島市立大学芸術 学部准教授）、司会：川谷承子（当館上席学 芸員）
9月7日	企画展「富士山の絵画」開幕（～10月20日）	31日	中長期計画 策定
10日	中長期計画専門チーム発表会		
14日	富士山の絵画フロアレクチャー（9月14日、 23日、29日、10月13日）	通年	創作週間（通算49日） 実技入門講座（通算10日） 実技講座（通算4日） 技法セミナー（通算2日） ロダン館デッサン会（通算24日） ちょこっと体験（通算29日） わくわくアトリエ（通算5日） 粘土開放日（通算12日、36回） 絵の具開放日（通算7日、14回） 美術館教室（通算63日）
15日	富士山の絵画特別講演会「世界遺産として の富士山—外国人の見聞を中心に—」芳賀 徹（当館館長）		
19日	移動美術展（～29日：小山町総合文化会館）		
10月6日	富士山の絵画美術講座「富士山—信仰と芸 術の山—」福士雄也（当館主任学芸員）		
8日	収藏品展「佐伯祐三、里見勝蔵と独立の画 家たち」（～11月24日）		
18日	移動美術展（～30日：袋井市月見の里学遊 館）		
29日	ふじのくに芸術祭2013開幕（～11月15日）		
11月3日	ロダン館イベント「午後のひとときコンサー ト」（11月3日、4日）		

草間彌生 永遠の永遠の永遠

・所蔵はすべて作家蔵（展覧会開催時）

4月13日（土）～6月23日（日）

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	
			平面：タテ×ヨコ	材質・形状
			立体：高さ×幅×奥行き	
愛はとこしえ				
001	春のめざめ [TWSHON]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
002	うるわしき夜 [ABCTW]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
003	恋人たち	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
004	花片 [AWSHTS]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
005	真夜中のねむり [OPESSA]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
006	宴のあと [SOXTE]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
007	1000の目 [TWOXZ]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
008	波に浮く唇 [TOWHC]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
009	朝の波 [TEXHT]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
010	夢の中の女たち [TWZSA]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
011	初恋 [SWTUE]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
012	女の残像 [FAOWE]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
013	WOMEN [TTWOP]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
014	夜のさざなみ [TOWSS]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
015	夏の午後 [FTOPK]	2005年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
016	群衆 [TWXOZ]	2005年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
017	愛はとこしえ [OPXTWE]	2005年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
018	女の園 [OEWST]	2005年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
019	河のながれ	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
020	女たちのつどい	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
021	夜明けの波	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
022	きのう見た夢	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
023	愛のおわり	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
024	初夏 [TWPOX]	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
025	生命讃歌 [BOZA]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
026	愛はとこしえ [TAOW]	2004年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
027	朝が来た。[TWST]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
028	春来る [QA.B.Z]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
029	春を待つ女たち [TZW]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	
			平面：タテ×ヨコ	材質・形状
			立体：高さ×幅×奥行き	
030	真夜中の女たち	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
031	献花 (チューリップ)	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
032	野に出でる	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
033	我が心の中の旗 [TXOZT]	2006年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
034	花咲けるニューヨーク [OPRT]	2005年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
035	早春の芽生え [T.A.A.Z]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
036	女の一生 [T.WXO]	2005年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
037	星の住処 [TWXSS]	2007年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
038	生老病死 [QXPAT]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
039	春のきざし [WQZY]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
040	青春への道標 [HOTWOX]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
041	芽ぶき [TOXZS]	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
042	波 [TWXZO]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
043	宇宙への旅 [TZQMN]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
044	青春の日々 [YOZMTO]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
045	朝のかがやき [TWHIOW]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
046	女たちのニューヨーク [SSAAWA]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
047	朝のめざめ [TQSTW]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
048	私だいすき [TOWHSQ]	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
049	天国の入口 [TQWFFV]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
050	無限の宇宙 [TOWEY]	2007年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
048	私だいすき [TOWHSQ]	2006年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
049	天国の入口 [TQWFFV]	2007年	130.3×162.0	シルクスクリーン・カンヴァス
050	無限の宇宙 [TOWEY]	2007年	162.0×130.3	シルクスクリーン・カンヴァス
わが永遠の魂				
051	心が傷んだときの自画像	2009年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
052	心から生命の賛美をうたい上げたい	2009年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
053	青春は死と生を共にたずさえて、あなたの背後から音もなくしのびよってくる	2009年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
054	花園にうずもれた心	2009年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
055	いまこそ生命の輝きを見てほしい	2009年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
056	失恋の痛み、そして自殺したい	2009年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
057	果てしない人間の一生	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	
			平面：タテ×ヨコ	材質・形状
			立体：高さ×幅×奥行き	
058	人間の一生	2010年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
059	私大好き、とても好き	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
060	燃え上がる恋の記録	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
061	私たちのパーティ	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
062	星	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
063	静かな朝のめざま	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
064	さざなみ	2010年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
065	月の夜の河	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
066	愛のものがたり	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
067	心の中の詩	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
068	思い出の中にしずんだ私の夢	2010年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
069	無限の未来	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
070	地球の中で	2011年	194.0×194.0	アクリル・カンヴァス
071	命の消滅	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
072	いつかは死をむかえる	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
073	自分の死のあと宇宙は 何ごともなく進んでいる	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
074	朝のめざま	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
075	太平洋	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
076	女の一生	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
077	心	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
078	黒い太陽	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
079	旗のひらめき	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
080	愛の旅路	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
081	河のさざ波	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
082	地の果てにて	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
083	夕映えの海	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
084	青い風	2011年	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
085	思い出	2011年	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
086	野の花たち	2011年	130.3×162.0	アクリル・カンヴァス
087	沈みゆく太陽	2011年	162.0×130.3	アクリル・カンヴァス
088	星のささやき	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス
089	青い星くず	2011年	162.0×162.0	アクリル・カンヴァス

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)		材質・形状
			平面：タテ×ヨコ	立体：高さ×幅×奥行き	
090	強迫	2011年	162.0×130.3		アクリル・カンヴァス
091	月の出を待っている	2011年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
092	朝が来た	2011年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
093	人間の生命は無に帰す	2011年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
094	私の命の消滅	2011年	130.3×162.0		アクリル・カンヴァス
095	すべてが永遠に回帰する	2011年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
096	美を記憶する	2011年	130.3×162.0		アクリル・カンヴァス
097	死をおそれる事はない	2011年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
098	星たちの消滅 (金)	2010年	259.0×194.0		アクリル・カンヴァス
099	星たちの消滅 (銀)	2010年	259.0×194.0		アクリル・カンヴァス
100	青春を前にした我が自画像	2011年	227.3×181.8		アクリル・カンヴァス・鏡
101	青い目の異国で	2011年	227.3×181.8		アクリル・カンヴァス
102	神をみつめていたわたし	2011年	227.3×181.8		アクリル・カンヴァス
幸福の彫刻たち					
103	大いなる巨大な南瓜	2011年	H 245.0 直径260.0		FRP、ウレタン塗装
104	チューリップに愛を込めて、永遠に祈る	2011年	H 295.0×207.0×170.0 H 235.0×181.0×170.0 H 229.5×210.0×170.0		FRP、ウレタン塗装
106	魂の灯	2008年	H 287.4×415.0×415.0		ミクストメディア
わが永遠の魂 最新作					
107	朝のめざめ	2012年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
108	空に飛ぶ目	2012年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
109	宇宙旅行	2012年	194.0×194.0		アクリル・カンヴァス
110	宇宙の中	2012年	194.0×194.0		アクリル・カンヴァス
111	わが星たち	2012年	162.0×162.0		アクリル・カンヴァス
112	ねむれる星	2013年	194.0×194.0		アクリル・カンヴァス
113	夢をみていたわたし	2013年	194.0×194.0		アクリル・カンヴァス

夏目漱石の美術世界

7月13日（土）～8月25日（日）

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13～ 7/28	7/30～ 8/4	8/6～ 8/11	8/13～ 8/25
序章 「吾輩」が見た漱石と美術									
1	岡本一平	漱石先生		紙、水彩	東北大学附属図書館				
2	橋口五葉 [装幀]	『吾輩ハ猫デアル』上編	1905(明治38)年	紙、木版、箔押し、 空押し					
3	橋口五葉 [装幀]	『吾輩ハ猫デアル』中編	1906(明治39)年	紙、木版、箔押し、 空押し					
4	橋口五葉 [装幀]	『吾輩ハ猫デアル』下編	1907(明治40)年	紙、木版、箔押し、 空押し					
5	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』上編 ケット画稿	ジャ 1905(明治38)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
6	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』上編 ケット画稿	ジャ 1905(明治38)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
7	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』下編 表紙 画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
8	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』下編 ケット画稿	ジャ 1907(明治40)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
9	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』後編 『鶉籠』ほか装幀画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
10	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』後編 装幀 画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
11	橋口五葉 [装幀]	『吾輩ハ猫デアル』(縮刷本)	1911(明治44)年 7月	擬革紙、紙、木版、 箔押し	千葉市美術館寄託				
12	朝倉文夫	つるされた猫	1909(明治42)年	ブロンズ	東京藝術大学				
第一章 漱石文学と西洋美術									
I-01	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	金枝	1834年	カンヴァス、油彩	テイト、ロンドン				
I-02	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	チャイルド・ハロルドの巡礼	1832年 (1859-61年版行)	紙、エングレーヴィ ング	テイト、ロンドン				
I-03	ジョゼフ・マロード・ ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖	1846-48年頃	紙、水彩	静岡県立美術館				
I-04	ジョン・ウィリアム・ ウォーターハウス	シャロットの女	1894年	カンヴァス、油彩	リーズ市立美術館				
I-05	ウィリアム・ホ ルマン・ハント	シャロットの女 (モクソン版 『テニス詩集』第2版)	1859年 (初版 1857年)	書籍	郡山市立美術館				
I-07	ダンテ・ガブリ エル・ロセッティ	レディ・リリス	1867年	紙、水彩					
I-08	ジョン・エヴァ レット・ミレイ	ロンドン塔幽閉の王子	1878年	カンヴァス、油彩	ロンドン大学 ロイヤル・ホ ロウェイ絵画コレクション				
I-09	プリトン・リヴィ エアー	ガダラの豚の奇跡	1883年	カンヴァス、油彩	テイト、ロンドン				
I-10	リチャード・ウィ ルソン	リン・ナントルからスノードン を望む	1765-67年頃	カンヴァス、油彩	静岡県立美術館				
I-11	サルヴァトーレ・ ローザ	川のある山岳風景	1650年代後半	カンヴァス、油彩	静岡県立美術館				
I-12	ウィリアム・ホ ガース	「選挙」第1図 「候補者の饗応」	1755-58年	紙、エッチング					
I-13	ウィリアム・ホ ガース	「当世風の結婚」第6図	1745年	紙、エッチング					
I-14		簡易版 ナショナル・ギャラリー絵 画カタログ 海外諸派 (1898年版)	1900年発行	書籍	東北大学附属図書館				
I-15		テイト・ギャラリー カタログ		書籍	東北大学附属図書館				
I-16		王立芸術院展覧会カタログ134	1902年	書籍	東北大学附属図書館				
I-17		「昔日の巨匠展」カタログ (王立芸術院)	1902年	書籍	東北大学附属図書館				

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
I-18		『ステューディオ』 特別号冬	1898-99	書籍	Kコレクション				
I-19		『ステューディオ』 NO.135	VOL.32, 1904年6月	書籍	東北大学附属図書館				
I-20	サー・ワイク・ ベイリス	『ヴィクトリア時代の五大画家』	1902年	書籍	東北大学附属図書館				
I-21	G・ボルドウィン・ ブラウン	『美術』(大学公開講座シリーズ)	1891年	書籍	東北大学附属図書館				
第二章 漱石文学と古美術									
II-01		売立目録「後藤墨泉 両氏遺愛品入札」	夏目漱石 1934(昭和9)年	書籍					
II-02	伝秋月等観	達磨図	16世紀(室町)	紙、墨	東京藝術大学				
II-03	伝狩野元信	楼閣山水図	16世紀(室町)	紙、墨	東京藝術大学				
II-04	狩野探幽	詩仙図巻	17世紀(江戸)	絹、彩色					
II-05	狩野常信	昇龍・妙音菩薩・降龍	17-18世紀(江戸)	絹、墨・彩色					
II-06	俵屋宗達	龍図	17世紀(江戸)	紙、墨	東京国立博物館				
II-08	伊年	四季花卉図屏風	17世紀(江戸)	紙、彩色	東京国立博物館				
II-10	与謝蕪村	漁父臨雨行	18世紀(江戸)	紙、彩色					
II-11	岡本豊彦	苦船図	19世紀(江戸)	絹、墨・彩色	京都国立博物館				
II-12	浦上春琴	墨菊	18世紀(江戸)	紙、墨					
II-14	森一鳳	藻刈舟図	19世紀(江戸)	絹、墨・彩色	大阪歴史博物館				
II-15	谷文晁	富士山群鷺之図	19世紀(江戸)	絹、墨・彩色					
II-17	川端玉章	日の出に浪	19世紀(明治)	絹、彩色	東京藝術大学				
II-18	橋本雅邦	竹林雀猫図(竹下猫)	1896(明治29)年	絹、墨・彩色	東京国立博物館				
II-19	瀧和亭	修竹双鶴	1890(明治23)年	紙、彩色	東京藝術大学				
II-20	謝時臣	鞆川積雨図	16世紀(明)	紙、墨	東京国立博物館				
II-21	伝王淵	蜻蜓図(唐絵手鑑「筆耕園」の うち)[重要文化財]	13世紀(南宋)	絹、墨・彩色	東京国立博物館				
II-22	伝王淵	蓮鶴図(唐絵手鑑「筆耕園」 のうち)[重要文化財]	13世紀(南宋)	絹、墨・彩色	東京国立博物館				
II-23		『京都帝室博物館図録』	1910(明治43)年	書籍	東北大学附属図書館				
II-24	瀧精一	『東洋美術図譜』	1909(明治42)年	書籍	東北大学附属図書館				
II-25	荒井経	酒井抱一作《虞美人草図屏風》 (推定試作)	2013(平成25)年	紙、彩色					
第三章 文学作品と美術 『草枕』『三四郎』『それから』『門』									
III-01	与謝蕪村	竹溪訪隠図 [重要文化財]	18世紀(江戸)	絹、彩色	京都国立博物館寄託				
III-03	小林萬吾 [口絵]	草まくら(雑誌『新小説』)	1906(明治39)年 9月	紙、印刷					
III-04	平福百穂	田舎嫁入	1899(明治32)年	絹、彩色	東京藝術大学				
III-05-1	古元休(越前出目 家四代 出目満永)	姥	1640(寛永17)年頃	木、彩色	宝生流辰巳家				
III-05-2		萌葱葡萄蔓草帯	18-19世紀(江戸)	裂	宝生流辰巳家				
III-08	伊藤若冲	梅と鶴	18世紀(江戸)	紙、墨					

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
Ⅲ-09	伊藤若冲	鶴図	1793(寛政5)年	紙、墨					
Ⅲ-10	伊藤若冲	梅鶴図	18世紀(江戸)	紙、墨	ヤング開発株式会社				
Ⅲ-11	伊藤若冲	鶴図	18世紀(江戸)	紙、墨					
Ⅲ-12-1	池大雅	富士十二景図(一月)	18世紀(江戸)	絹、彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-12-2	池大雅	富士十二景図(八月)	18世紀(江戸)	絹、彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-13	高泉性敦	一行書「松吟没字詩」	17世紀(江戸)	紙、墨					
Ⅲ-14	高泉性敦	墨書「福」	17世紀(江戸)	紙、墨					
Ⅲ-15	松岡映丘ほか	草枕絵巻	1926(大正15)年	絹、彩色	奈良国立博物館				
Ⅲ-16	松岡映丘	湯煙(草枕)	1928(昭和3)年	絹、彩色	練馬区立美術館寄託				
Ⅲ-17	藤島武二	池畔納涼	1898(明治31)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
Ⅲ-19	ジャンニバティスト・グルーズ	少女の頭部像	18世紀後半	カンヴァス、油彩	ヤマザキマザック美術館				
Ⅲ-20	グルーズ原作 和田英作模写	少女	19-20世紀 (明治-大正)	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
Ⅲ-21	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	人魚	1900年	カンヴァス、油彩	王立芸術院、ロンドン				
Ⅲ-23	浅井忠	ベネツィア	1902(明治35)年	紙、水彩	石橋財団石橋美術館				
Ⅲ-24	浅井忠	雲	1903(明治36)年頃	紙、水彩	静岡県立美術館				
Ⅲ-25	吉田博	ヴェニス運河	1906(明治39)年	カンヴァス、油彩					
Ⅲ-26	吉田博	ヴェニス運河	1909(明治42)年	カンヴァス、油彩					
Ⅲ-27	吉田ふじを	ヴェニス	1906(明治39)年	紙、水彩					
Ⅲ-28	黒田清輝	婦人図(厨房)	1892(明治25)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
Ⅲ-29	ベラスケス原作 和田英作模写	マリアナ公女	1903(明治36)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
Ⅲ-30	佐藤央育	原口画伯作《森の女》(推定試作)	2013(平成25)年	カンヴァス、油彩					
Ⅲ-31	橋口五葉 [装幀]	『それから』	1909(明治42)年	紙、木版	千葉市美術館寄託				
Ⅲ-32	フランク・ウィリアム・ブラングイン	蹄鉄工	1904(明治37)年頃 /1905(明治38)年	カンヴァス、油彩	リーズ市立美術館				
参考 出品		フランク・ウィリアム・ブラングイン《近代の貿易》『ステューディオ』(1904年10月号、VOL 33, NO.139)掲載		書籍	東京藝術大学				
Ⅲ-34	青木繁	《わだつみのいろこの宮》下図	1907(明治40)年	紙、鉛筆					
Ⅲ-35	青木繁	《わだつみのいろこの宮》下図	1907(明治40)年	紙、鉛筆					
Ⅲ-36	青木繁	わだつみのいろこの宮 [重要文化財]	1907(明治40)年	カンヴァス、油彩	石橋財団石橋美術館				
Ⅲ-37	仇英原作 巨勢 小石模本制作	笛持美人図	19世紀	紙、彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-38	仇英原作 模本 制作者不詳	王昭君	19世紀	紙、彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-39	円山応挙	花卉鳥獣人物図(牡丹花図)	1773(安永2)年	紙、墨・彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-39	円山応挙	花卉鳥獣人物図(山中乗馬図)	1773(安永2)年	紙、墨・彩色	東京藝術大学				
Ⅲ-40	酒井抱一	月に秋草図屏風 [重要文化財]	19世紀(江戸)	紙、彩色	東京国立博物館寄託				
Ⅲ-41	岸駒	虎図(《龍虎図》双幅のうち左幅)	19世紀(江戸)	絹、墨	東京藝術大学				

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
III-42	渡辺崋山	驟雨図扇面	19世紀(江戸)	紙、彩色	東京藝術大学				
第四章 漱石と同時代美術									
IV-01	夏目漱石	『文展と芸術』原稿	1912(大正元)年	紙、ペン	岩波書店				
IV-02	平田松堂	木々の秋	1912(大正元)年	絹、彩色	東京国立近代美術館				
IV-03	佐野一星	ゆきぞら	1912(大正元)年	紙、彩色	京都市立芸術大学 芸術資料館				
IV-04	今尾景年	躍鯉図	1912(大正元)年	絹、彩色	京都市美術館				
IV-06	木島桜谷	寒月	1912(大正元)年	絹、彩色	京都市美術館				
IV-07	松岡映丘	宇治の宮の姫君たち	1912(大正元)年	絹、彩色	姫路市立美術館				
IV-09	寺崎広業	瀟湘八景 より	1912(大正元)年	紙、彩色	秋田県立近代美術館				
IV-10	横山大観	瀟湘八景 [重要文化財] (遠浦雲帆)	1912(大正元)年	絹、彩色	東京国立博物館				
IV-10	横山大観	瀟湘八景 [重要文化財] (瀟湘夜雨)	1912(大正元)年	絹、彩色	東京国立博物館				
IV-10	横山大観	瀟湘八景 [重要文化財] (烟寺晚鐘)	1912(大正元)年	絹、彩色	東京国立博物館				
IV-10	横山大観	瀟湘八景 [重要文化財] (山市晴嵐)	1912(大正元)年	絹、彩色	東京国立博物館				
IV-12	和田英作	H夫人肖像	1911(明治44)年	カンヴァス、油彩	東京国立博物館				
IV-13	小杉未醒	水郷	1911(明治44)年	カンヴァス、油彩	東京国立近代美術館				
IV-15	坂本繁二郎	海岸の牛	1914(大正3)年	カンヴァス、油彩	北九州市立美術館				
IV-16	南薫造	六月の日	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	東京国立近代美術館				
IV-17	南薫造	石割り	1911(明治44)年	カンヴァス、油彩	広島県立美術館				
IV-18	赤城泰舒	白い砂	1912(大正元)年	紙、水彩	東京国立近代美術館				
IV-19	黒田清輝	赤き衣を着たる女	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
IV-20	中村不折	巨人の蹟	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	上伊那広域連合				
IV-21	朝倉文夫	若き日の影	1912(大正元)年	ブロンズ	台東区立朝倉彫塑館				
IV-22	荻原守衛 [碌山]	坑夫	1907(明治40)年	ブロンズ	東京藝術大学				
IV-23	岸田劉生	画家の妻	1915(大正4)年	カンヴァス、油彩	大原美術館				
IV-24	萬鉄五郎	女の顔 (ボアの女)	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	岩手県立美術館				
IV-25	萬鉄五郎	風景・春	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	宮城県美術館				
IV-26	萬鉄五郎	田園風景	1912(大正元)年頃	カンヴァス、油彩	神奈川県立近代美術館				
IV-27	斎藤与里	木陰	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	加須市				
IV-28	斎藤与里	春	1918(大正7)年	カンヴァス、油彩	兵庫県立美術館				
IV-29	青木繁	自画像	1904(明治37)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
IV-30	青木繁	海景	1904(明治37)年	板、油彩	府中市美術館				
IV-31	青木繁	輪転	1903(明治36)年	カンヴァス、油彩	石橋財団石橋美術館				
IV-32	青木繁	運命	1904(明治37)年	板、油彩	東京国立近代美術館				

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
IV-33	藤島武二	夢想	1904(明治37)年	カンヴァス、油彩	横須賀美術館				
IV-34	鹿子木孟郎	某未亡人の肖像	1912(大正元)年	カンヴァス、油彩	京都市美術館				
IV-35	石井柏亭	チョコチャラ	1911(明治44)年	紙、水彩	東京藝術大学				
IV-36	中川八郎	松原	1902(明治35)年頃	紙、水彩	静岡県立美術館				
IV-37	満谷国四郎	車夫の家庭	1908(明治41)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
IV-38	平福百穂	アイヌの子供	1909(明治42)年	紙、彩色	東京藝術大学				
IV-39	平福百穂	罌粟写生図巻	1933(昭和8)年	紙、彩色	東京藝術大学				
IV-40	結城素明	蝦蟆仙人	1907(明治40)年	紙、彩色	東京藝術大学				
IV-41	結城素明	無花果	1907(明治40)年	紙、彩色	東京藝術大学				
IV-42	福井江亭	山水	20世紀(明治-大正)	絹、墨・彩色	東京藝術大学				
第五章 親交の画家たち									
V-01	津田青楓	夏目漱石像	1973(昭和48)年	紙、水彩	笛吹市立青楓美術館				
V-02	浅井忠	収穫 [重要文化財]	1890(明治23)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
V-03	浅井忠	深林	19-20世紀(明治)	紙、ペン	東京藝術大学				
V-04	浅井忠	元禄風俗(男装)	19-20世紀(明治)	紙、パステル	東京藝術大学				
V-05	浅井忠・中沢弘光 [挿画]	『織内見物』(大和之巻、京都之巻)	1911(明治44)年	書籍					
V-06	橋口五葉	自画像	1905(明治38)年	カンヴァス、油彩	東京藝術大学				
V-07	橋口五葉	女の顔	1903-1905(明治36-38)年頃	板、油彩	鹿児島市立美術館				
V-08	橋口五葉	孔雀と印度女	1907(明治40)年	カンヴァス、油彩	鹿児島市立美術館				
V-09	橋口五葉	ペリカン	1913(大正2)年	紙、彩色	鹿児島市立美術館				
V-10	橋口五葉	温泉宿	1914(大正3)年	紙、水彩	鹿児島市立美術館				
V-11	橋口五葉	入浴図	1911-13(明治44-大正2)年頃	紙、水彩	鹿児島県歴史資料センター黎明館				
V-12	橋口五葉 [表紙]	『ホトトギス』第100号	1905(明治38)年	紙、石版					
V-13	橋口五葉 [表紙]	『ホトトギス』第100号表紙画稿	1905(明治38)年	紙、水彩	鹿児島県歴史資料センター黎明館				
V-14	橋口五葉	東見本(『思出草』)	20世紀(明治-大正)	書籍					
V-15	中村不折	風景	1913(大正2)年	板、油彩	東京藝術大学				
V-16-1	中村不折 [表紙]	『ホトトギス』第9巻第4号表紙	1916(大正5)年	書籍	台東区立書道博物館				
V-16-2	中村不折 [表紙]	『ホトトギス』第12巻第4号表紙	1916(大正5)年	書籍	台東区立書道博物館				
V-17	中村不折	『不折俳画』	1910(明治43)年	書籍	台東区立書道博物館				
V-18	中村不折	『不折画集』1-3	1910-11(明治43-44)年	書籍	台東区立書道博物館				
V-19	中村不折	『不折山人 丙辰撥墨』第1集	1916-17(大正5-6)年	書籍	台東区立書道博物館				
V-20	津田青楓	自画像	1911(明治44)年	カンヴァス、油彩	笛吹市立青楓美術館				
V-21	津田青楓	桃源図	1921(大正10)年	絹、彩色	星野画廊				

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
V-22	津田青楓	漱石先生像		紙、墨・彩色	新宿歴史博物館				
V-23	津田青楓	少女（夏目愛子像）	1931(昭和6)年	カンヴァス、油彩	笛吹市立青楓美術館				
V-24	津田青楓	漱石先生読書閑居之図	1921(大正10)年	紙、墨・彩色	新宿歴史博物館				
V-25	津田青楓	青楓戯墨帖	20世紀(大正)	紙、墨・彩色					
V-27	正岡子規	あづま菊	1900(明治33)年	紙、水彩	岩波書店				
第六章 漱石自筆の作品									
VI-04	夏目漱石	山上有山図	1912(大正元年)	紙、水彩	岩波書店				
VI-07	夏目漱石	閑来放鶴図	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VI-08	夏目漱石	一路万松図	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VI-09	夏目漱石	水仙図	1915(大正4)年	紙、彩色	岩波書店				
VI-11	夏目漱石	青嶂紅花図	1915(大正4)年	紙、彩色	岩波書店				
VI-12	夏目漱石	山下隠栖図	1915(大正4)年	紙、彩色	岩波書店				
VI-13	夏目漱石	竹図	1916(大正5)年	紙、墨	岩波書店				
VI-15	夏目漱石	山水図	1916(大正5)年頃	紙、墨	岩波書店				
VI-16	夏目漱石	煙波縹渺図	1914(大正3)年	紙、墨・彩色	岩波書店				
VI-17	夏目漱石	婦去来辞	1916(大正5)年	紙、墨	岩波書店				
VI-18	夏目漱石	人閑桂花落	1916(大正5)年	紙、墨	岩波書店				
VI-19	夏目漱石	閑居偶成	1916(大正5)年	紙、墨	岩波書店				
VI-20	夏目漱石	得健堂先生自寿詩	1914(大正3)年	紙、墨	岩波書店				
VI-21	夏目漱石	『思ひ出す事など』原稿	1910(明治43)年	紙、ペン	岩波書店				
VI-22	夏目漱石	『虞美人草』原稿	1907(明治40)年	紙、ペン	岩波書店				
VI-23	夏目漱石	『彼岸過迄』原稿	1912(明治45)年	紙、ペン	岩波書店				
VI-24	夏目漱石	『こゝろ』原稿	1914(大正3)年	紙、ペン	岩波書店				
第七章 装幀と挿画									
VII-01	橋口五葉	『ホトトギス』第8巻第5号 挿画	1905(明治38)年	書籍					
VII-02	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』上編 表紙 画稿	1905(明治38)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
VII-03	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』下編 装幀 画稿	1907(明治40)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-04	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』中編・下編 装幀画稿	1906(明治39)年頃	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-05	橋口五葉	『I AM A CAT』表紙画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
VII-06	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』続編 装幀 画稿	1906(明治39)年頃	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-07	橋口五葉	『I AM A CAT』、『吾輩ハ猫デア ル』中編・後編その他 装幀画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-08	橋口五葉	『I AM A CAT』表紙カット 画稿	1906(明治39)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
VII-09	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』(縮刷本)表 紙・見返し・扉画稿	1911(明治44)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				

No.	作者名	作品名	制作年	材質	所蔵	展示期間			
						7/13~ 7/28	7/30~ 8/4	8/6~ 8/11	8/13~ 8/25
VII-10	橋口五葉	『吾輩ハ猫デアル』(縮刷本) 装幀画稿	1911(明治44)年	方眼紙、鉛筆	新宿歴史博物館				
VII-11	橋口五葉 [装幀]	『漾虚集』	1906(明治39)年	布・紙、石版	千葉市美術館寄託				
VII-12	橋口五葉 [装幀]	『鶉籠』	1906(明治39)年	紙、空押し、木版	千葉市美術館寄託				
VII-13	橋口五葉 [装幀]	『虞美人草』	1907(明治40)年	紙、木版・石版	千葉市美術館寄託				
VII-14	橋口五葉	『虞美人草』表紙案	1907(明治40)年	紙、墨	鹿児島県歴史資料 センター黎明館				
VII-16	橋口五葉	『虞美人草』表紙画稿	1907(明治40)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-17	橋口五葉	『虞美人草』『女子大学』 装幀画稿	1907(明治40)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-18	橋口五葉 [装幀]	『草合』	1908(明治41)年	紙、木版・漆	千葉市美術館寄託				
VII-19	橋口五葉 [装幀]	『四篇』	1910(明治43)年	紙、彩色	千葉市美術館寄託				
VII-20	橋口五葉	『門』表紙ほか画稿	1910(明治43)年	方眼紙、鉛筆	鹿児島市立美術館				
VII-21	橋口五葉 [装幀]	『彼岸過迄』	1912(大正元)年	紙、木版	千葉市美術館寄託				
VII-22	橋口五葉	『彼岸過迄』表紙画稿	1912(大正元)年	紙、墨	鹿児島市立美術館				
VII-23	橋口五葉	『行人』見返し・扉画稿	1913(大正2)年	方眼紙、鉛筆	鹿児島市立美術館				
VII-24	橋口五葉 [装幀]	『行人』	1914(大正3)年	紙・皮、木版	千葉市美術館寄託				
VII-25	夏目漱石	『こゝろ』装丁画稿(扉一)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-26	夏目漱石	『こゝろ』装丁画稿(扉二)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-27	夏目漱石	『こゝろ』装幀原画(表紙)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-28	夏目漱石	『こゝろ』装幀原画(見返し)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-29	夏目漱石	『こゝろ』装幀原画(函)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-30	夏目漱石	『こゝろ』著者校正刷り(題簽・ 著者名)	1914(大正3)年	紙、彩色	岩波書店				
VII-31	橋口五葉	『道草』『こゝろ』『硝子戸の中』 ポスター	1915(大正4)年	紙、印刷	鹿児島市立美術館				
	新海竹太郎	デスマスク石膏原型	1916(大正5)年	石膏	東京都江戸東京博物館				

9月7日(土)～10月20日(日)

No.	指定	作者名	作品名	材質・形状	制作年(元号)	制作年(西暦)	所蔵	展示期間
1 富士山と信仰								
1	重文	元信印	富士参詣曼荼羅図	絹本着色 一幅	室町時代	16世紀	富士山本宮浅間大社	
2			富士参詣曼荼羅図	絹本着色 一幅	室町時代	16世紀	富士山本宮浅間大社	
3			富士参詣曼荼羅図	紙本墨画淡彩 一幅	江戸時代	17世紀	静岡県立美術館	
4		春木南溟	富士曼荼羅図	絹本着色 一幅	江戸時代	19世紀	個人蔵	
5		墨江武禅	芙蓉峯細見之図	紙本墨画淡彩 一幅	寛政十一年頃	1799頃	静岡県立美術館	
6		谷文晁	二見浦富士図	絹本着色 一幅	江戸時代	18～19世紀	個人蔵	
7		中林竹洞	神洲奇観図	紙本着色 一幅	天保十四年頃	1843頃	静岡県立美術館	
8		横井金谷	田子浦富士図	絹本着色 一幅	天保元年	1830	個人蔵	
9		岸駒	芙蓉峰図	絹本墨画 一幅	江戸時代	19世紀	静岡県立美術館	
10		狩野山雪	富士山図	紙本墨画 一幅	江戸時代	17世紀	個人蔵	
11		狩野永岳	富士山登龍図	絹本墨画 一幅	嘉永五年	1852	静岡県立美術館	
12		英一蝶	富士・育王山・金山寺図	絹本着色 三幅対	江戸時代	18世紀	個人蔵	
13		木村兼葭堂	富士山図	紙本墨画淡彩 一幅	宝暦十二年	1762	個人蔵	
14		谷文晁	富士山図	紙本淡彩 一幅	享和元年	1801	個人蔵	
15		谷文晁	富士山図	紙本墨画淡彩 一幅	江戸時代	18～19世紀	個人蔵	
16		歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	紙本木版多色刷 三枚続	安政四年	1857	静岡県立美術館	
17		歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	紙本木版多色刷 三枚続	万延元年	1860	静岡県立美術館	
2 富士山と三保松原								
18			富士三保松原図屏風	紙本金地着色 六曲一双	室町時代	16世紀	静岡県立美術館	
19			富士三保松原・天橋立図屏風	紙本金地着色 六曲一双	室町時代	16世紀	個人蔵	
20			三保松原・巖島図屏風	紙本着色 六曲一双	江戸時代	17世紀	静岡県立美術館	
21			東海道図屏風	紙本着色 四曲一隻	江戸時代	17世紀	個人蔵	
22			富士三保松原図屏風	紙本着色 六曲一双	江戸時代	17世紀	個人蔵	
23		狩野栄信	富士三保清見寺図	絹本墨画 一幅	江戸時代	19世紀	個人蔵	
24		狩野探幽	富士山図	紙本墨画淡彩 一幅	寛文七年	1667	静岡県立美術館	
25		狩野常信	富士三保松原図	絹本着色 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
26		狩野山雪	富士三保松原図屏風	紙本墨画金泥引 六曲一双	江戸時代	17世紀	静岡県立美術館	前期
27		狩野山雪	富士三保松原図屏風	紙本墨画 六曲一双	江戸時代	17世紀	個人蔵	後期
28		小泉斐	駿州補陀洛山眺望之図	絹本墨画淡彩 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
29		曾我蕭白	富嶽清見寺図	絹本墨画 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	

No.	指定	作者名	作品名	材質・形状	制作年(元号)	制作年(西暦)	所蔵	展示期間
30		曾我蕭白	富士三保清見寺図	紙本墨画 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
31		岩佐又兵衛	伊勢物語図(東下り)	紙本着色 一幅	江戸時代	17世紀	個人蔵	
32	重文	与謝蕪村	富嶽列松図	紙本墨画淡彩 一幅	江戸時代	18世紀	愛知県美術館	後期
33		円山応挙	富士山図屏風	紙本墨画淡彩 六曲一双	江戸時代	18世紀	個人蔵	
34		原在中	富士三保松原図	絹本着色 一幅	文政五年	1822	静岡県立美術館	
35		狩野永岳	富士三保松原図	絹本着色 一幅	江戸時代	19世紀	静岡県立美術館	
36		司馬江漢	駿河湾富士遠望図	絹本油彩 一面	寛政十一年	1799	静岡県立美術館	
37		司馬江漢	矢部富士図	絹本墨画淡彩 一幅	寛政五年	1793	個人蔵	
38		大久保一丘	富士三保松原図	紙本墨画淡彩 一幅	江戸時代	19世紀	個人蔵	
39		木村武山	羽衣	絹本着色六曲 一双	昭和時代	1920~1930年代	静岡県立美術館	
3 富士山と白糸の滝								
40		池大雅	富士白糸滝図	紙本墨画 一幅	宝暦十二年	1762	個人蔵	
41		池大雅	白糸瀑布真景図	紙本墨画 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
42		河村岷雪	百富士	紙本木版刷 四冊	明和四年	1767	静岡県立中央図書館	
43		青木夙夜	富士白糸滝図	絹本着色 一幅	江戸時代	18~19世紀	個人蔵	
44		野呂介石	富嶽白絲泉図	絹本着色 一幅	文化八年	1811	個人蔵	
45		高倉在孝	岳麓瀑布図	紙本着色 一幅	江戸時代	19世紀	個人蔵	
46		村松以弘	白糸瀑図	紙本着色 一幅	江戸時代	18~19世紀	掛川市二の丸美術館	
47		平井顕斎	白糸瀑布真景図	絹本着色 一幅	天保十四年	1843	浜松市美術館	
48		司馬老泉	白糸瀑布図	絹本着色 一幅	明治三十一年	1898	個人蔵	
4 富士百景—富士見のトボス								
49		式部輝忠	富士八景図	紙本墨画 八幅対	享禄三年頃	1530頃	静岡県立美術館	
50		狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図	紙本墨画淡彩 一幅	室町~江戸時代	16~17世紀	静岡県立美術館	
51		横山華山	清見瀉富士図	絹本墨画 一幅	文政二年	1819	静岡県立美術館	
52		木下逸雲	富士山図	絹本墨画 一幅	安政六年	1859	個人蔵	
53		宋紫石	富嶽図	絹本着色 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
54		司馬江漢	長沼村富士眺望図	絹本墨画淡彩 一幅	文化年間	1804~18	静岡県立美術館	
55		司馬江漢	七里ヶ浜図	絹本淡彩 一幅	寛政十年	1798	個人蔵	
56		合川珉和	七里ヶ浜図	絹本油彩 一面	江戸時代	18~19世紀	個人蔵	
57		中山高陽	八州勝地図	紙本墨画 一幅	安永六年	1777	個人蔵	
58		大岡雲峰	日金山富嶽眺望図	葛布地着色 一幅	天保十年	1839	静岡県立美術館	
59		中林竹洞	浮島清夏図	絹本着色 一幅	享和元年頃	1801頃	個人蔵	
60		田能村竹田	函関富岳図	紙本墨画 一幅	文政十一年	1828	個人蔵	

No.	指定	作者名	作品名	材質・形状	制作年(元号)	制作年(西暦)	所蔵	展示期間
61		谷文晁	東海道図巻	紙本墨画淡彩 一巻	江戸時代	19世紀	個人蔵	
62		谷文晁	富士山図屏風	紙本墨画群青引 六曲一隻	天保年		静岡県立美術館	
63		谷文晁	富士山中真景全図	紙本着色 一巻	寛政七年	1795	個人蔵	
64		上田耕夫	富士山中図巻	紙本着色 一巻	江戸時代	18世紀	個人蔵	
65		原在正	富士山図巻	紙本着色 十四巻	江戸時代	18世紀	個人蔵	
66		椿椿山	山海奇賞図巻	紙本着色 一巻	文政十三年	1830	個人蔵	
67		鍬形蕙斎	江戸一目図	絹本着色 一幅	江戸時代	19世紀	個人蔵	前期
68			武蔵野図屏風	紙本金地着色 六曲一双	江戸時代	17世紀	静岡県立美術館	後期
69			曾我物語図屏風	紙本金地着色 六曲一双	江戸時代	17世紀	静岡県立美術館	前期
70		曾我蕭白	富士山図	紙本墨画 一幅	江戸時代	18世紀	個人蔵	
71		青木夙夜	不尽岳四時風色図	絹本墨画淡彩 三幅対	天明九年	1789	個人蔵	
72		青木夙夜	富嶽寒村図	絹本淡彩 一幅	明和七年	1770	個人蔵	
73		司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図	絹本油彩 一面	文化元年	1804	静岡県立美術館	
74		山口素絢	富嶽図	絹本着色 一幅	江戸時代	18世紀	静岡県立美術館	
75		狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	紙本着色 一巻	天明元～ 寛政六年	1781～94	静岡県立美術館	
76		狩野養信	花見遊楽図屏風	絹本着色 二曲一隻	江戸時代	19世紀	個人蔵	
77		岡田半江	洋人富士山遠望図屏風	紙本墨画 六曲一双	江戸時代	19世紀	個人蔵	
78		大久保一丘	富嶽明暁図	絹本着色 一幅	江戸時代	19世紀	静岡県立美術館	
79		東山魁夷	秋富士	絹本着色 一面	昭和三十年	1955	静岡県立美術館	
80		横山大観	群青富士	絹本金地着色 六曲一双	大正六、 七年頃	1917～18頃	静岡県立美術館	

二見彰一展

- ・版画集、シリーズ名や作品名の（ ）内は展覧会に際し付けた、便宜上の名称。
- ・サイズはイメージサイズ、[]内はシートサイズ。
- ・技法は特に記載の無い場合紙、アクアチント。
- ・所蔵は特に記載の無い場合、静岡県立美術館蔵。

11月22日（金）～1月19日（日）

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
第1章 最初期の努力（1963-68）						
1-1	1962-1964(昭和37-39)年	版画集『The Early Works』	(最初期版画1 果物静物)	9.9×9.5 [17.8×12.5]	針で目立てしたメゾチント	作者蔵
1-2			(最初期版画2)	9.2×12.7 [12.6×17.9]	針で目立てしたメゾチント	作者蔵
1-3			(最初期版画3 折り鶴)	13.8×10.0 [21.0×13.9]	針で目立てしたメゾチント	作者蔵
1-3-2			(最初期版画3 折り鶴) 銅版	13.8×10.0	銅板	作者蔵
1-4			(最初期版画4 レンブラン トの模写)	13.0×9.6 [26.9×18.0]	エッチング	作者蔵
1-5	1964(昭和39)年		(最初期版画5 子供の肖像)	8.7×5.5 [16.5×12.8]	ソフトグラウンドエッチング	作者蔵
1-5-2			(最初期版画5 子供の肖像) 銅版	8.7×5.5	銅板	作者蔵
1-6	1962-1964(昭和37-39)年		(最初期版画6 家族の肖像)	直径12.3 [18.0×16.4]	エッチング	作者蔵
1-7			(最初期版画7)	6.0×18.8 [12.6×25.6]	エンブレイヴィンゲ	作者蔵
1-7-2			(最初期版画7) 銅版	6.0×18.8	銅板	作者蔵
1-8			(最初期版画8)	12.5×17.2 [19.5×26.5]	エンブレイヴィンゲ	作者蔵
1-9			(最初期版画9)	18.2×12.4 [16.9×12.8]	シュガーアクアチント	作者蔵
1-9-2			(最初期版画9) 銅版	18.2×12.4	銅板	作者蔵
1-10			(最初期版画10)	13.1×9.1 [12.4×18.0]	ペーパーアクアチント	作者蔵
1-11			(最初期版画11)	18.0×12.4 [23.1×17.1]	アクアチント	作者蔵
1-12			(最初期版画12)	9.1×12.6 [12.6×16.4]	ペーパーアクアチント、エッチング	作者蔵
1-12-2			(最初期版画12) 銅版	9.1×12.6	銅板	作者蔵
1-13			(最初期版画13)	9.1×12.6 [12.5×17.9]	エッチング、アクアチント	作者蔵
1-14			(最初期版画14)	12.7×11.1 [22.4×17.8]	ペーパーアクアチント	作者蔵
1-15			(最初期版画15)	12.8×12.8 [15.1×20.1]	アクアチント、同じ版を上下向きを変え、2回刷	作者蔵
1-16			(最初期版画16)	12.2×17.0 [19.2×28.2]	アクアチント2版	作者蔵
1-17			(最初期版画17)	11.2×21.9 [19.4×28.5]	アクアチント2版	作者蔵
2	1968(昭和43)年		秋のバラード	13.6×9.9 [28.2×19.0]		作者蔵
3	1968(昭和43)年		ノクターン	7.2×5.9 [15.4×11.7]		作者蔵
4	1968(昭和43)年		異教徒の降誕祭	10.0×8.0 [18.9×13.8]		作者蔵
5	1968(昭和43)年		飛翔	5.7×6.8 [12.7×14.9]		作者蔵
6	1968(昭和43)年		映像	14.3×20.5 [21.0×27.9]		作者蔵
7	1968(昭和43)年		月魄	28.0×19.9 [48.9×36.0]		作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
第2章 アクアチントによる制作と版画集 (1969-)						
8	1969(昭和44)年		遠い国	31.7×22.5 [49.7×36.0]		
9	1969(昭和44)年		オウバード	30.5 x 21.0 [49.0×36.0]		
10	1969(昭和44)年		星の対話	29.9×21.5 [48.9×35.8]		
11	1969(昭和44)年		透明な時間	23.3×30.4 [36.0×50.0]		
12	1969(昭和44)年		海のうた	22.9×15.6 [37.5×28.1]		
13	1969(昭和44)年		夏の終り	21.9×15.0 [37.8×28.0]		
14	1969(昭和44)年		ソナチネ	25.4×18.0 [36.0×26.9]		
15	1969(昭和44)年		マイクロドラマ	23.6×31.5 [35.9×49.7]		
16	1969(昭和44)年		宇宙へのプレリュード	31.7×19.7 [49.0×35.9]	紙、アクアチント、 メゾチント	
17	1969(昭和44)年		時の窓	25.1×17.7 [37.8×28.0]		
18	1969(昭和44)年		パントマイム	22.7×17.1 [37.8×28.0]		
19	1969(昭和44)年		ラウンドミッドナイト	22.8×15.8 [37.6×27.8]		
20	1969(昭和44)年		五月の歌	16.0×22.3 [28.0×37.7]		
21	1969(昭和44)年		グリーンポイント (1)	22.3×15.8 [37.6×28.1]		
22	1970(昭和45)年		グリーンポイント (2)	32.6×19.0 [49.8×36.0]		
23	1970(昭和45)年		バルトークの部屋	24.2×30.0 [36.0×49.6]		
24	1970(昭和45)年		贈られた朝	23.0×29.0 [36.0×49.5]		
25	1970(昭和45)年		アナクレオンの墓	35.7×16.6 [37.6×28.3]		作者蔵
26	1970(昭和45)年		孤独の祭	32.1×22.8 [49.8×36.0]		
27	1970(昭和45)年		クレーの扉	22.7×18.0 [37.8×27.8]		
28	1971(昭和46)年		時の兆し	31.5×17.9 [49.0×36.0]	紙、アクアチント、ソフ トグランドエッチング	
29	1971(昭和46)年		青い子守歌	22.0×15.5 [38.0×28.0]		作者蔵
30	1971(昭和46)年		心の部屋	26.2×26.5 [49.8×36.0]	紙、アクアチント、 デカルコマニー	
31	1971(昭和46)年		深海のエピソード	24.5×30.0 [36.0×49.8]	紙、アクアチント	
32	1971(昭和46)年		祈り	28.7×20.6 [42.0×33.0]	紙、アクアチント、ソフ トグランドエッチング	
33	1971(昭和46)年		海への道	28.8×23.1 [50.0×36.0]	紙、アクアチント	
34	1971(昭和46)年		夏の朝	28.1×22.8 [49.5×36.0]	紙、アクアチント、 デカルコマニー	
35	1971(昭和46)年		夜のかおり	21.9×17.7 [37.5×28.1]		
36	1971(昭和46)年	版画集『マイクロドラマ』				作者蔵
36-1			扉	4.8×3.8 [32.5×25.0]		作者蔵
36-2			ラウンドミッドナイト	15.6×9.8 [32.5×25.0]		作者蔵
36-3			ガラスのとり	13.7×11.3 [32.5×25.0]		作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
36-4			マイクロドラマ	10.0×14.7 [32.5×25.0]		作者蔵
36-5			失われた花	14.5×9.1 [32.5×25.0]		作者蔵
36-6			暗い海	13.0×9.4 [32.5×25.0]		作者蔵
36-7			夜の航海	13.8×9.9 [32.5×25.0]		作者蔵
36-8			星の音	15.7×7.9 [32.5×25.0]		作者蔵
36-9			華やかな終幕	15.5×9.9 [32.5×25.0]		作者蔵
37	1972(昭和47)年		狂えるオフィーリア	24.7×15.3 [37.5×27.9]		
38	1972(昭和47)年		悲しみのオフィーリア	24.8×15.4 [37.8×28.1]		
39	1972(昭和47)年		深夜の羽化	24.9×15.0 [37.8×28.1]		
40	1972(昭和47)年		朝のコラール	31.5×22.5 [50.0×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
41	1972(昭和47)年		とぎれたフーガ	32.0×20.0 [49.3×36.0]		
42	1972(昭和47)年		遠くを見る眼	31.6×22.4 [49.6×36.0]		
43	1972(昭和47)年		聖堂にて	32.5×20.0 [48.5×36.0]		
44	1972(昭和47)年		風の中のオルフェウス	31.5×22.4 [49.6×36.0]		
45	1972(昭和47)年		青い夏	22.9×32.4 [36.0×49.7]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
46	1972(昭和47)年		予期せぬドラマ	29.5×23.8 [49.7×36.0]	紙、アクアチント、デカ ルコマニー	
47	1972(昭和47)年		ユーモラスな告白	26.7×25.9 [45.3×33.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
48	1973(昭和48)年		ヘカティの花	32.3×22.7 [49.7×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
49	1973(昭和48)年		ノクチュルヌ	33.7×20.0 [49.0×35.7]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
50	1973(昭和48)年		凍れる光	31.7×21.8 [49.7×36.0]		
51	1973(昭和48)年		リストとともに	28.1×24.4 [49.0×36.0]		
52	1973(昭和48)年		ヴェガから来た花	31.8×22.4 [49.8×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
53	1973(昭和48)年		海の神話	31.2×22.5 [49.3×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング、リフトグラウンドエッチング	
54	1973(昭和48)年		ながい夜	24.4×28.2 [36.0×49.7]		
55	1973(昭和48)年		旅の感傷	24.0×16.6 [37.8×28.1]		
56	1973(昭和48)年		かなしいたより	24.3×15.9 [37.7×27.9]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング、リフトグラウンドエッチング	
57	1974(昭和49)年		デネブへの帰還	34.6×17.6 [49.6×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
58	1974(昭和49)年		不安な夜(2)	29.4×21.0 [49.7×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
59-1	1974(昭和49)年	版画集『IN THE NIGHT』	夜への扉	6.9×5.5 [36.0×25.8]		作者蔵
59-2			青い花	25.5×17.6 [36.0×25.8]		作者蔵
59-3			小さい教会にて	26.9×16.0 [36.0×25.8]		作者蔵
59-4			豊潤な闇の中から	21.6×19.8 [36.0×25.8]		作者蔵
59-5			ひそやかなレクイエム	23.9×16.9 [36.0×25.8]		作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
59-6			イタリアン・ヴィラ	19.5×22.5 [36.0×25.8]		作者蔵
59-7			孤独のモニュメント	26.6×16.2 [36.0×25.8]		作者蔵
59-8			いたわりあう対話	23.6×18.6 [36.0×25.8]		作者蔵
59-9			まちこがれた朝	25.0×15.3 [36.0×25.8]		作者蔵

第3章 ドイツとの関わり (1975-2005)

60	1975(昭和50)年		期待と不安への告知 (2)	30.0×21.0 [46.0×33.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
61	1975(昭和50)年		敬虔な夜への記憶 (2)	32.4×20.0 [49.7×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
62	1975(昭和50)年		秋の手に	29.6×20.8 [49.7×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
63	1975(昭和50)年		聖なる予感	31.1×21.5 [48.8×35.8]		
64	1975(昭和50)年		青い椅子	31.0×19.6 [49.8×36.0]		
65	1975(昭和50)年	(切り抜き版による構成)	ティー・フォア・ツー	32.5×24.0 [32.5×24.0]		作者蔵
66			アローン・アゲイン	32.5×24.0 [32.5×24.0]		作者蔵
67			コーヒー・タイム	32.5×24.0 [32.5×24.0]		作者蔵
68			(切り抜き版による構成 1)	23.4×37.0 [23.4×37.0]		作者蔵
69			(切り抜き版による構成 2)	23.4×37.0 [23.4×37.0]		作者蔵
70			(切り抜き版) 一式		銅板	作者蔵
71	1976(昭和51)年		海への回帰	30.1×21.2 [50.0×36.0]		
72	1976(昭和51)年		ひそやかな誕生	29.6×21.0 [49.7×36.0]		
73	1976(昭和51)年		寓話の部屋 (1)	41.9×31.0 [50.0×36.0]		
74	1976(昭和51)年		寓話の部屋 (2)	43.1×29.1 [49.5×36.0]		
75	1976(昭和51)年		旅の夜に	9.9×9.9 [18.5×18.5]		作者蔵
75-2	1976(昭和51)年		《旅の夜に》銅版2枚	9.9×9.9	銅板	作者蔵
76-1	1976(昭和51)年	版画集『MAIL FROM EUROPE』	(扉)	5.6×4.2 [24.8×32.6]	エッチング凸版	作者蔵
76-2			(題字)	2.3×8.1 [24.8×32.6]	エッチング	作者蔵
76-3			(目次部分、切手)	3.6×2.8	エッチング	作者蔵
76-4			旅の宿	7.8×4.9 [24.8×32.6]		作者蔵
76-5			アッリヴェデルチローマ	7.6×5.2 [24.8×32.6]		作者蔵
76-6			褐色の町シエナ	7.8×5.8 [24.8×32.6]		作者蔵
76-7			シニョーリア広場	7.6×6.8 [24.8×32.6]		作者蔵
76-8			アルプスの花	10.7×3.9 [24.8×32.6]		作者蔵
76-9			ババリアの館	7.2×5.6 [24.8×32.6]		作者蔵
76-10			モーツァルトの国から	9.0×6.0 [24.8×32.6]		作者蔵
76-11			ウィンナ・ワルツ	7.5×5.4 [24.8×32.6]		作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
76-13			パリの夜	7.9×4.9 [24.8×32.6]		作者蔵
77	1977(昭和52)年		青い夜のモニュメント	31.8×19.8 [49.3×35.5]		
78	1977(昭和52)年		凍ったモニュメント	29.5×21.0 [49.5×36.0]		
79	1977(昭和52)年		風がささやく	24.2×16.7 [38.0×28.2]		
80	1978(昭和53)年		星の道程	32.1×22.5 [49.6×36.0]		
81	1978(昭和53)年		青い飛行	32.2×22.3 [50.0×36.0]	紙、アクアチント、 ラインエッチング	
82	1978(昭和53)年		青い虹	33.6×21.6 [49.7×36.0]		
83	1978(昭和53)年		ふたつの星	25.1×17.0 [38.0×28.0]		作者蔵
83-2	1978(昭和53)年		《ふたつの星》銅版	25.1×17.0	銅板	作者蔵
84	1979(昭和54)年		花のコラル	27.4×33.7 [35.7×49.4]		
85	1979(昭和54)年		青いメヌエット	27.3×33.4 [36.0×49.5]		
86	1979(昭和54)年		あたらしい星	27.3×33.5 [36.0×49.5]		
87-1	1979(昭和54)年	版画集『コーヒー・クインテット』	扉絵	7.1×5.5 [28.8×21.8]	紙、ラインエッチ ング	
87-2			コーヒーを前に	9.5×4.5 [28.8×21.8]		
87-3			ウィーンのカフェ	8.8×7.8 [28.8×21.8]		
87-4			朝のカフェオレ	12.2×10.4 [28.8×21.8]		
87-5			コーヒーブレイク	9.3×14.3 [28.8×21.8]		
87-6			コーヒーミステリー	15.3×11.0 [28.8×21.8]		
88	1980(昭和55)年		薔薇と予感	32.1×19.9 [49.0×35.8]		
89	1980(昭和55)年		FIVE POINTS	28.3×23.0 [49.0×35.6]		
90	1980(昭和55)年		バッハを聞いた後で	21.5×30.4 [36.0×49.0]		
91	1981(昭和56)年		青いホルン、夜	29.6×23.5 [49.0×36.0]		
92	1981(昭和56)年		青い花	9.8×6.9 [21.5×15.8]		作者蔵
92-2	1981(昭和56)年		《青い花》銅版3枚	9.8×6.9	銅板	作者蔵
93	1981(昭和56)年		カクテルタイム	14.3×9.5 [27.2×19.3]		作者蔵
93-2	1981(昭和56)年		《カクテルタイム》銅版2枚	14.3×9.5	銅板	作者蔵
94	1982(昭和57)年		Space Focus (1)	28.4×18.3 [48.8×32.0]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
95	1982(昭和57)年		凍った海(1)	22.5×17.4 [38.0×28.3]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
96	1982(昭和57)年		Space Focus (2)	18.6×27.2 [32.0×48.7]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
97	1982(昭和57)年		凍ったつぼみ	22.3×16.3 [37.9×28.3]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
98	1982(昭和57)年	版画集『北歐幻想』				
98-1			星のメッセージ	10.0×6.1 [34.0×28.0]		
98-2			虹と薔薇	9.6×6.4 [34.0×28.0]		

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
98-3			ひそやかな贈物	8.9×7.3 [34.0×28.0]		
98-4			朝のひかり	10.0×7.0 [34.0×28.0]		
98-5			空のゲーム	8.5×8.4 [34.0×28.0]		
98-6			短い夏	9.6×8.0 [34.0×28.0]		
98-7			きまぐれな季節	9.4×9.5 [34.0×28.0]		
98-8			秋のたより	10.2×6.4 [34.0×28.0]		
98-9			凍ったつぼみ	7.7×7.6 [34.0×28.0]	紙、アクアチント、 デカルコマニー	
98-10			北の国のピラミッド	9.0×8.9 [34.0×28.0]		
99	1983(昭和58)年		夜への扉	31.7×23.3 [48.6×36.0]		
100	1983(昭和58)年		アンダンテ・カンタビレ	24.6×30.7 [36.0×49.0]		
101	1983(昭和58)年		透る音 (1)	25.5×24.9 [49.0×36.0]		
102	1983(昭和58)年		舞う音 (1)	24.7×31.2 [36.0×48.7]		
103	1983(昭和58)年		浮かぶ花 (1)	30.4×23.5 [49.0×36.0]		
104	1983(昭和58)年		もう一度バッハを	23.0×33.7 [36.0×48.6]		
105	1984(昭和59)年		エメラルドの夜 (2)	33.1×25.1 [49.0×36.0]		
106	1984(昭和59)年		舞う音 (2)	25.5×30.4 [36.0×49.0]		
107	1985(昭和60)年		映る夏	24.0×30.3 [36.0×48.8]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
108	1986(昭和61)年		風のかたみ	26.6×34.6 [35.9×48.6]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
109	1986(昭和61)年		風の対話	34.6×24.9 [48.6×36.0]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
110	1986(昭和61)年		ヴェネツィアの風	23.0×31.4 [36.0×49.0]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
111	1986(昭和61)年		海のホルン	23.6×32.7 [35.8×49.0]		
112	1988(昭和63)年		コンサートへの招待 (1)	35.8×18.2 [48.8×36.0]		
113	1988(昭和63)年		薔薇のベクトル	24.0×28.7 [36.0×49.0]		
114	1989(平成元年)年		ホルンのユモレスク	32.0×23.0 [49.0×35.8]		
115	1989(平成元年)年		サウンド・コンビネーション	22.2×31.4 [35.8×48.8]		
116	1989(平成元年)年		バッハとジャズと	23.0×32.3 [35.8×49.0]		
	1989(平成元年)年	版画集『海から』	扉	5.4×4.5 [27.5×26.0]		
			海の音	11.9×11.8 [27.5×26.0]		
			浜辺にて	11.9×11.9 [27.5×26.0]		
			海べのひかり	11.7×11.9 [27.5×26.0]	紙、アクアチント、ディー プエッチング	
			海の生物	11.9×11.7 [27.5×26.0]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	
			深海魚	12.0×12.0 [27.5×26.0]		
			海底の眠り	11.8×12.2 [27.5×26.0]	紙、アクアチント、ソフ トグラウンドエッチング	

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
118	1990(平成2)年		青のトリオ	22.3×29.1 [35.8×48.8]		
119	1990(平成2)年		黄昏の古都物語から	13.5×9.9 [23.2×19.3]		作者蔵
	1990(平成2)年		《黄昏の古都物語から》銅版2枚	13.5×9.9	銅板	作者蔵
120	1990(平成2)年		早春	12.0×8.3 [22.0×16.0]		作者蔵
121	1991(平成3)年		ハーブのために	23.0×30.0 [35.7×49.0]		
122	1991(平成3)年		風の城	28.9×17.8 [48.8×36.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
123	1991(平成3)年		弦のARIA	21.7×33.7 [35.9×48.9]		
124	1992(平成4)年		はばたくロンド	22.0×31.8 [36.0×48.6]	紙、アクアチント、 コラージュ	
125	1993(平成5)年		カデンツァ・メランコリー	22.0×30.1 [35.8×48.8]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
126	1994(平成6)年		プラネットから(2)	26.0×20.0 [37.9×28.1]		
127	1994(平成6)年		ふたつのホルンのために (1)	19.6×29.1 [33.2×48.7]		
	1994(平成6)年	版画集『お茶のひととき』	はじめに	7.9×6.1 [26.5×20.0]	紙、ラインエッチング、 アクアチント	
			茶の本	10.3×7.2 [26.5×20.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
			サイコロジー	9.6×8.0 [26.5×20.0]		
			ティーをめぐるって	11.6×8.1 [26.5×20.0]		
			禅と日本文化	10.5×7.6 [26.5×20.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
			アイルランド日記	12.0×8.6 [26.5×20.0]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング	
129	1994(平成6)年		プレリュード	26.1×17.7 [38.3×28.5]		作者蔵
	1994(平成6)年		《プレリュード》銅版2枚	26.1×17.7	銅板	作者蔵
130	1995(平成7)年		流れのバラード	19.5×24.9 [28.2×37.8]		
131	1995(平成7)年		水辺のバラード	19.3×25.2 [28.0×37.9]		
132	1996(平成8)年		青い帆走	19.5×25.3 [28.3×38.3]		作者蔵
	1996(平成8)年		《青い帆走》銅版2枚	19.5×25.3	銅板	作者蔵
133	1997(平成9)年		地平へ(1)	23.7×29.0 [35.8×48.8]		
134	1997(平成9)年		地平へ(2)	29.7×22.7 [49.5×36.0]		作者蔵
	1997(平成9)年		《地平へ(2)》銅版2枚	29.7×22.7	銅板	作者蔵
135	1998(平成10)年		波のフーガ(1)	22.9×30.6 [35.8×48.7]	紙、アクアチント、ソフト トグラウンドエッチング、コラージュ	
136	1998(平成10)年		神が海を創りフリース ランド人が海辺の地を造った	A4変形		作者蔵
136(1)	1977-1998(昭和 52-平成10)年		フリースランド風景	18.1×27.5 [19.1×28.3]	紙、水彩	作者蔵
136(2)	1977-1998(昭和 52-平成10)年		ヴィルヘルムスハーフェン ／内港ボンテカイ	16.3×22.1 [17.1×24.0]	紙、水彩	作者蔵
136(3)	1977-1998(昭和 52-平成10)年		ホークジュール／シャンティ コール合唱団	20.1×12.9 [26.2×17.4]	紙、水彩	作者蔵
136(4)	1977-1998(昭和 52-平成10)年		ホークジュールのメイン ストリート	16.0×11.4 [26.0×17.5]	紙、水彩	作者蔵
136(5)	1977-1998(昭和 52-平成10)年		ホルマージュール／海水浴	13.6×18.7 [18.2×25.4]	紙、水彩	作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
136(6)	1977-1998(昭和52-平成10)年		エムデン／港の門	22.1×17.4 [28.3×19.1]	紙、水彩	作者蔵
136(7)	1977-1998(昭和52-平成10)年		ブレーマーハーフェン／ 灯台を望む	17.3×24.0 [18.1×24.7]	紙、水彩	作者蔵
137	1999(平成11)年		Gott schuf das Meer, der Friese die K?ste Friesische Reise	A 4変形		作者蔵
137 (1)	1977-1998(昭和52-平成10)年		Statue von Fraeulein Maria / Jever	16.5×11.0 [25.1×17.6]	紙、水彩	作者蔵
138	1999(平成11)年		2000年へのプレリュード	27.6×33.8 [33.0×45.3]		作者蔵
139	2001(平成13)年		往復書簡・2000 二見彰一 ／ペーター・ガイテ	A 4変形		作者蔵
140	2002(平成14)年		エメラルドエコー	6.0×6.0		作者蔵
	2002(平成14)年		《エメラルドエコー》 銅版2枚	6.0×6.0	銅板	作者蔵

第4章 近年の試み 詩画集、ほか(2006-)

141	1996(平成8)年		一葉	16.0×11.3	紙、水彩、別イメージの貼り込み	作者蔵
142	2006(平成18)年		流星のフーガ	10.9×15.3	紙、水彩	作者蔵
143	2006(平成18)年		秋のモノローグ	13.2×9.4	紙、水彩、別イメージの貼り込み	作者蔵
144-0	2011(平成23)年	版画集『詩からの贈物 八木重吉の十一の詩』	素朴な琴	[25.0×16.1]	インクジェットプリント	作者蔵
			白い枝	5.2×9.0 [25.0×16.1]		作者蔵
			《白い枝》銅版	5.2×9.0	銅版	作者蔵
			フェアリの 国	6.5×10.0 [24.9×16.1]		作者蔵
			《フェアリの 国》銅版	6.5×10.0	銅版	作者蔵
			おほぞらの ころ	6.5×10.0 [24.9×16.1]		作者蔵
			《おほぞらの ころ》 銅版	6.5×10.0	銅版	作者蔵
			花になりたい	6.5×6.5 [25.0×16.1]		作者蔵
			《花になりたい》銅版	6.5×6.5	銅版	作者蔵
			剣を持つ者	5.2×4.9、5.2×4.9 [25.0×16.2]		作者蔵
			《剣を持つ者》銅版	5.2×8.9	銅版	作者蔵
			空を指す梢	4.8×9.4 [24.9×16.2]		作者蔵
			《空を指す梢》銅版	4.8×9.4	銅版	作者蔵
			彫られた 空	4.8×9.4 [24.9×16.2]		作者蔵
			《彫られた 空》銅版	4.8×9.4	銅版	作者蔵
			秋の日の ころ	6.1×6.1 [25.0×16.2]		作者蔵
			《秋の日の ころ》銅版	6.1×6.1	銅版	作者蔵
			花が ふってくると思ふ	6.1×10.2 [24.9×16.2]		作者蔵
			《花が ふってくると思ふ》 銅版	6.1×10.2	銅版	作者蔵
			光	5.2×7.0 [24.8×16.2]		作者蔵
			《光》銅版	5.2×7.0	銅版	作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
2013(平成25)年		版画集『詩と版画 立原道造、丸山薫、ジョン・キーツ、エミリ・ディキンソンの詩と二見彰一の銅版画十葉』	立原道造「薄明」	5.7×10.0 [21.0×29.7]		作者蔵
			《立原道造「薄明」》銅版	5.7×10.0		作者蔵
			立原道造「さびしき野邊」	7.3×6.2 [21.0×29.7]		作者蔵
			《立原道造「さびしき野邊」》銅版	7.3×6.2		作者蔵
			立原道造「憩らひ」	5.9×9.0 [21.0×29.7]		作者蔵
			《立原道造「憩らひ」》銅版	5.9×9.0		作者蔵
			立原道造「ひとり林に」	7.8×8.1 [21.0×29.7]		作者蔵
			《立原道造「ひとり林に」》銅版	7.8×8.1		作者蔵
			丸山薫「海の旗」	5.5×10.2 [21.0×29.7]		作者蔵
			《丸山薫「海の旗」》銅版	5.5×10.2		作者蔵
			丸山薫「海の旗・続」	7.6×11.4 [21.0×29.7]		作者蔵
			《丸山薫「海の旗・続」》銅版	7.6×11.4		作者蔵
			丸山薫「自由な海」	8.0×9.0 [21.0×29.7]		作者蔵
			《丸山薫「自由な海」》銅版	8.0×9.0		作者蔵
			丸山薫「ふしぎな木々」	4.6×10.0 [21.0×29.7]		作者蔵
《丸山薫「ふしぎな木々」》銅版	4.6×10.0		作者蔵			
ジョン・キーツ「ギリシャの壺のオード」	5.9×8.7 [21.0×29.7]		作者蔵			
《ジョン・キーツ「ギリシャの壺のオード」》銅版	5.9×8.7		作者蔵			
エミリ・ディキンソン「私はこの花のなかに…」	6.7×7.5 [21.0×29.7]		作者蔵			
《エミリ・ディキンソン「私はこの花のなかに…」》銅版	6.7×7.5		作者蔵			
150	1994(平成6)年		クリスティアン・ローズ(二見彰一の肖像)	30.0×21.7	紙、ガッシュ	作者蔵
151	1968(昭和43)年		長谷川潔《オパリンの花瓶に挿した種子草》	36.0×26.5	紙、メゾチント	作者蔵
152	1975(昭和50)年	二見彰一銅版画展ポスター	1975 Göttingen Kunstmarkt / Kunstkongress	B 2		作者蔵
153	1987(昭和62)年	二見彰一銅版画展ポスター	1987 Lodz	B 2		作者蔵
154	1987(昭和62)年	二見彰一銅版画展ポスター	1987 Celle	B 2		作者蔵
155	1987(昭和62)年	二見彰一銅版画展ポスター	1987 Daberkow	B 2		作者蔵
156	1994(平成6)年	二見彰一銅版画展ポスター	1994 Hooksiel	B 2		作者蔵
資料 (二見彰一の作品カタログ、二見作品が装丁に用いられた書籍、出品番号無し)						
	1973(昭和48)年		SHOICHI FOUTAMI 1968 - 1973 二見彰一版画カタログ			作者蔵
	1981(昭和56)年		二見彰一銅版画カタログ SHOICHI PUTAMI RADIERUNGEN / GRAPHIC WORK 1968 - 1980			作者蔵
	1987(昭和62)年		二見彰一銅版画集 1968-1986			作者蔵
	1967(昭和42)年		海からの贈物	文庫版		作者蔵
	1970(昭和45)年		おおきな小人	四六版		作者蔵

No.	制作年	版画集、シリーズ名	作品名	サイズ	技法	所蔵
	1971(昭和46)年		熊(ひぐま)	四六版		作者蔵
	1971(昭和46)年		針女	20.0×13.8		個人蔵
	1973(昭和48)年		夏の流れ・正午なり	文庫版		作者蔵
	1973(昭和48)年		海の鼠	四六版		作者蔵
	1975(昭和50)年		池坊栄花物語	文庫版		作者蔵
	1976(昭和51)年		水の葬列	文庫版		作者蔵
	1979(昭和54)年		乳母車の記憶	四六版		作者蔵
	1979(昭和54)年		レコードのある部屋	四六版		作者蔵
	1980(昭和55)年		文学の内面	四六版		作者蔵
	1981(昭和56)年		燭台つきのピアノ	文庫版		作者蔵
	1982(昭和57)年		小説小泉八雲	文庫版		作者蔵
	1982(昭和57)年		女声合唱曲集 街路灯	24.6×19.3		作者蔵
	1984(昭和59)年		青い光	文庫版		作者蔵
	1984(昭和59)年		青ほおずき 自選短編集	文庫版		作者蔵
	1984(昭和59)年		暮らしの美・あれこれカタログ	20.5 x 16.0		作者蔵
	1987(昭和62)年		広き迷路	文庫版		作者蔵
	1987(昭和62)年		愛と許しを知る人びと	文庫版		作者蔵
	1987(昭和62)年		冬の優しさ	文庫版		作者蔵
	1988(昭和63)年		八木重吉全詩集(1) 秋の瞳・詩稿	文庫版		作者蔵
	1988(昭和63)年		八木重吉全詩集(2) 貧しき信徒・詩稿	文庫版		作者蔵
	1990(平成2)年		旅の情景 -ドイツとウィーンの美を追って-	四六版		作者蔵
	1990(平成2)年		「死の医学」への序章	文庫版		作者蔵
	1990(平成2)年		黄昏の古都物語	22.7×18.3		個人蔵
	1991(平成3)年		ボリスは来なかった	文庫版		作者蔵
	1993(平成5)年		こだわりのカラオケ上達法	四六版		作者蔵

グループ「幻触」と石子順造1966-1971 時代を先駆けた冒険者たちの記録

2月1日(土)～3月23日(日)

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
第1章						
1	グループ「白」石子順造、 鈴木慶則、伊藤隆史	フェニックス1号	1960年	紙、印刷、一部カラー ジュ	18.7×26.4 (絵画16枚)	28頁 個人蔵 (石子順造旧蔵)
2	グループ「白」石子順 造、鈴木慶則	フェニックス2号	1961年	紙、印刷、一部カラー ジュ、切り込み	18.7×26.4 (絵画19枚)	28頁 個人蔵 (石子順造旧蔵)
3	グループ「白」石子順 造、鈴木慶則	フェニックス2号「国連よ永 遠なれ」原画	1961年	紙、インク、水彩	34.6×45.2	個人蔵 (石子順造旧蔵)
4	伊藤隆史 1933～1997	壁ノ鳥	1958年	合板、油彩	94.5×80.0	個人蔵
5	伊藤隆史	生き物	1958年	合板、油彩	72.0×92.0	個人蔵
6	伊藤隆史	現代人A	1959年	合板、油彩	140.0×91.0	個人蔵
7	伊藤隆史	現代人	1959年	合板、油彩	152.0×91.0	個人蔵
8	伊藤隆史	現代人	1960年	合板、油彩	152.0×91.0	個人蔵
9	伊藤隆史	生き物	1961年	合板、油彩	145.0×68.0	個人蔵
10	伊藤隆史	いきるもの(1)	1963年	合板、油彩	145.0×72.0	個人蔵
11	伊藤隆史	いきるもの(2)	1963年	合板、油彩	145.0×72.0	個人蔵
12	前田守一 1932～2007	作品CB-1「暗愚」	1959年	紙、木版 二曲一隻	177.0×172.0	静岡県立美術館
13	前田守一	作品CB-2「木偶」	1959年	紙、木版 二曲一隻	177.0×173.0	静岡県立美術館
14	前田守一	作品BC-1	1959年	紙、木版 一隻	168.0×82.0	静岡県立美術館
15	前田守一	作品DG-1	1960年	紙、版 一隻	116.0×87.0	静岡県立美術館
16	前田守一	泥梨番	1964年	紙、木版 一隻	170.0×82.0	静岡県立美術館
17	伊藤 勉 1917～1992	積み上げた街	1956年	紙、木版	73.0×50.0	個人蔵
18	伊藤 勉	漫歩者	1957年	紙、木版	72.0×53.0	個人蔵
19	伊藤 勉	年輪	1957年	紙、木版	73.0×52.0	個人蔵
20	伊藤 勉	黒い環境その凝視	1957年	紙、木版	73.0×54.0	個人蔵
21	伊藤 勉	酔うほどに	1960年	紙、木版	73.0×52.0	個人蔵
22	小山田二郎 1914～1991	鳥(年賀状原画)	1956-1957 年頃	紙、インク	13.8×8.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
23	小山田二郎	顔、鳥女	1950年代 後半	紙、インク	8.8×9.2(左)、 9.0×9.0(右)	個人蔵 (石子順造旧蔵)
24	小山田二郎	子供	1950年代 後半	紙、水彩	34.5×25.3	個人蔵 (石子順造旧蔵)
25	小山田二郎	子供	1950年代 後半	キャンヴァス、油彩	91.4×73.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
26	小山田二郎	犬と子供	1950年代 後半	紙、水彩	25.3×34.4	個人蔵 (石子順造旧蔵)
27	桂川 寛 1924～2011	小河内村	1952年	キャンヴァス、油彩	97.2×145.7	板橋区立美術館
28	桂川 寛	ガラス工場	1954年	キャンヴァス、油彩	99.2×72.3	豊島区
29	桂川 寛	おんどりと鉄骨	1957年	キャンヴァス、油彩	96.5×145.1	板橋区立美術館
30	桂川 寛	都市[都市VI]	1959年	キャンヴァス、油彩	103.4×132.2	国立国際美術館

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
31	桂川 寛	それでも彼らは行く	1960年	キャンヴァス、油彩	145.5×97.0	豊島区 (寄託)
32	池田龍雄 1928～	企業	1955年	紙、インク、水彩	37.7×29.0	国立国際美術館
33	池田龍雄	ゴム族	1956年	紙、インク	37.0×29.0	東京都現代美術館
34	池田龍雄	休息	1955年	紙、インク	38.0×29.0	東京都現代美術館
35	河原 温 1933～	印刷絵画No.1「絵画と人間」	1958年	紙、印刷	72.6×51.2	国立国際美術館
36	河原 温	印刷絵画No.2「いれずみ」	1958年	紙、印刷	72.6×51.4	国立国際美術館
37	中村 宏 1932～	パシフィック	1961年	油彩、キャンヴァス	130.0×162.0	栃木県立美術館
38	中村 宏	場所の兆(1)	1961年	油彩、キャンヴァス	130.0×162.0	浜松市美術館
39	中村 宏	血井(1)	1962年	油彩、カシュー、合板	92.0×182.0	板橋区立美術館
第2章						
40	池田龍雄	色紙	年代不詳	色紙、インク	27.2×24.3	個人蔵 (石子順造旧蔵)
41	池田龍雄	色紙	1956年	色紙、インク、水彩	27.1×24.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
42	池田龍雄	タイトル不詳	1957年	紙、インク、水彩	36.4×26.2	個人蔵 (石子順造旧蔵)
43	三木富雄 1938～1978	耳	1962-64年 頃	石膏	29.0×17.0×9.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
44	赤瀬川原平 1937～	タイトル不詳	1962年	紙、インク	19.2×13.6	個人蔵 (石子順造旧蔵)
45	赤瀬川原平	The 2nd Anti-Imperialism International Conference Tokyo (国際反帝会議国際実行委員会)	1969年	紙、オフセット	85.0×59.4	個人蔵 (石子順造旧蔵)
46	赤瀬川原平	『漫画主義』No.6ポスター	1969年	紙、シルクスクリーン	55.2×39.8	個人蔵 (石子順造旧蔵)
47	赤瀬川原平	『漫画主義』No.1-4ポスター /QUA発行	1969年	紙、シルクスクリーン	103.1×73.2	谷川晃一
48	(表紙) 赤瀬川原平	『漫画主義』No.4	1968年	雑誌	21.1×15.0 64頁	個人蔵
49	(表紙) 赤瀬川原平	『漫画主義』No.5	1968年	雑誌	20.9×15.0 64頁	個人蔵
50	(表紙) 赤瀬川原平	『漫画主義』No.6	1969年	雑誌	21.0×15.2 80頁	個人蔵
51	(表紙) 赤瀬川原平	『漫画主義』No.9	1972年	雑誌	20.9×14.9 64頁	個人蔵
52	井上洋介 1931～	タイトル不詳	1966年	キャンヴァス、ペン	21.1×15.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
53	井上洋介	ワクワク学説/QUA発行	1967年	紙、シルクスクリーン	98.7×62.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
54	谷川晃一 1938～	ジャン・リュック・ゴダール監督特集 Film Program:Jean-Luc Godard/QUA発行	1967年	紙、シルクスクリーン	100.9×72.6	作家蔵
55	谷川晃一	敷石の下は	1969年	紙、シルクスクリーン	72.5×49.8	個人蔵 (石子順造旧蔵)
56	田名網敬一 1936～	『美術ジャーナル ART JOURNAL』62ポスター/QUA発行	1967年	紙、シルクスクリーン	99.7×69.1	個人蔵 (石子順造旧蔵)
57	横尾忠則 1936～	A LA MAISON DE M. CIVECAWA/ 暗黒舞踏派ガメラ商会発行	1965年	紙、シルクスクリーン	104.1×74.1	武蔵野美術大学 美術館・図書館
58	横尾忠則	切断された小指にささげるバラード/八九三書房発行	1966年	紙、シルクスクリーン	103.0×73.0	武蔵野美術大学 美術館・図書館
59	横尾忠則	続ジョン・シルバー/劇団状況劇場	1968年	紙、シルクスクリーン	102.6×74.2	武蔵野美術大学 美術館・図書館
60	横尾忠則	新宿泥棒日記/A.T.G発行	1968年	紙、オフセット	71.7×51.5	武蔵野美術大学 美術館・図書館
61	横尾忠則	マリリン・モンロー性の実録/集英社発行	1969年	紙、オフセット	85.1×60.2	武蔵野美術大学 美術館・図書館
62	林 静一 1945～	あがた森魚「赤色エレジー」 レコードジャケット原画	1972年	紙、カラーインク	17.0×17.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
63	林 静一	タイトル不詳	年代不詳	紙、水彩	15.0×10.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
64	林 静一	怨霊血染めの十字架	1970年	紙、シルクスクリーン	76.0×53.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
65	堀川紀夫 1946～	収束	1968年	鏡面ステンレス	56.0×12.2	個人蔵 (石子順造旧蔵)
66	堀川紀夫	The Shinano River Plan-12- 関連資料1	1969年	台紙、写真	20.0×20.0 (台紙)、 12.3×15.7(写真)	作家蔵
67	堀川紀夫	The Shinano River Plan-12- 関連資料4	1969年	台紙、ペン	20.0×20.0 (台紙)	作家蔵
68	堀川紀夫	The Shinano River Plan-12- 関連資料3	1969年	台紙、領収書	20.0×20.0 (台紙)、 10.45×14.8 (領収書)	作家蔵
69	堀川紀夫	The Shinano River Plan-12- 関連資料2	1969年	紙、領収書	20.0×20.0 (台紙)、 10.5×14.6 (領収書)	作家蔵
70	堀川紀夫	零円切手シリーズ (佐藤栄作) 1971年2月11日	1971年	紙、シルクスクリーン	19.3×16.7	個人蔵 (石子順造旧蔵)
71	堀川紀夫	零円切手シリーズ (追悼! 石 子順造氏) 1982年7月21日	1982年	はがき、印刷	14.6×10.0	個人蔵
72	丹羽勝次	《箱》のメールアート	1968年	合板、紐	22.6×15.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
73	石子順造 1928～1977	「中西夏之論」草稿	1965年	自筆原稿	25.4×34.5 原稿用紙 26枚、表紙、背表紙	個人蔵 (石子順造旧蔵)
74		小絵馬 子～亥・諸願 静岡 県丸子		紙、着彩	12.0×15.0 (12枚)	個人蔵 (石子順造旧蔵)
75	小沢克巳	「石子丸」大漁旗	1973年/ 2011年再制作	布、染料	110.0×178.0 (3枚)	府中市美術館
76		食品ラベル、薬品、石鹸、記 念たばこパッケージ		印刷	15点	個人蔵 (石子順造旧蔵)
77		卵形オブジェ	1970年代 後半	メキシコ製石など	幅2.0 - 16.5程度 (28 点)	個人蔵 (石子順造旧蔵)
78		卵形オブジェ	1977年	ポリエステル樹脂	5.0×4.0×4.0 (1点)	個人蔵 (石子順造旧蔵)

第3章

79	視覚伝達研究グループ	公衆便所、電話ボックス、その他 共用個室のためのステッカー	1962年		14.2×9.1	個人蔵
80	ハイレッド・センター	ハイレッド・センター名刺	1963年	名刺	5.4×9.0	個人蔵
81	ハイレッド・センター	目薬特報 (パンフレット)	1964年		17.5×12.8 16項	個人蔵
82	ハイレッド・センター	シェルター計画 インストラ クション	1964年		9.0×14.1	個人蔵
83	中西夏之 1935～	韻' 60	1960年	合板、ペイント、エナ メル、砂	112.5×145.5	千葉市美術館
84	中西夏之	韻' 60	1960年	合板、ペイント、エナ メル、砂	112.5×145.5	千葉市美術館
85	中西夏之	コンパクトオブジェ	1962年	ポリエステル、その他	14.0×23.0×15.0	浅川コレクション (足利市立美術館寄託)
86	中西夏之	コンパクトオブジェ	1962年	ポリエステル、その他	14.0×23.0×15.0	浅川コレクション (足利市立美術館寄託)
87	中西夏之	コンパクトオブジェ	1962年	ポリエステル、その他	14.0×23.0×15.0	浅川コレクション (足利市立美術館寄託)
88	中西夏之	作品	1964年	キャンヴァス、油彩	190.0×240.0	駒形十吉記念美術館蔵 新潟県立近代美術館寄託
89	高松次郎 1936～1998	点	1961年	針金、ラッカー	106.0×78.2×7.1	個人蔵 (石子順造旧蔵)
90	高松次郎	椅子にかけた男の影	1965年	板、油彩	178.0×223.0	駒形十吉記念美術館蔵 新潟県立近代美術館寄託
91	高松次郎	カーテンをあけた女の影	1965年	キャンヴァス、油彩、木、 石膏、カーテン、鏡	176.0×225.0×20.0	駒形十吉記念美術館蔵 新潟県立近代美術館寄託
92	高松次郎	遠近法の椅子とテーブル	1967年	木、ラッカー	110.0×145.0×210.0	東京都現代美術館
93	高松次郎	遠近法の箱	1967年	紙、シルクスクリーン	73.5×49.0	高松市美術館
94	高松次郎	遠近法の人物 No.192	1967年	パネル、ラッカー	38.0×72.0×3.3	高松市美術館

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
95	赤瀬川原平	模型千円札Ⅰ	1963年	紙、活版印刷	7.4×16.1	府中市美術館
96	赤瀬川原平	模型千円札Ⅱ	1963年	紙、活版印刷	7.6×19.3	府中市美術館
97	赤瀬川原平	模型千円札Ⅲ	1963年	紙、活版印刷	29.3×19.3	府中市美術館
98	赤瀬川原平	模型千円札Ⅳ	1963年	紙、活版印刷	7.4×16.1	府中市美術館
99	赤瀬川原平/千円札事件懇談 会事務局(おぎくぼ画廊内)	千円札裁判押収品目録	1967年	ポスター	59.0×43.3	個人蔵 (石子順造旧蔵)
100	赤瀬川原平	大日本零円札	1967年	紙、印刷	14.5×30.8	個人蔵 (石子順造旧蔵)
101	赤瀬川原平	大日本零円札	1967年	紙、印刷	15.0×32.0(札) 27.3×24.5(熨斗袋)	個人蔵 (飯田昭二旧蔵)
102	荒川修作 1936～2010	作品	1965年	油彩、麻布	228.5×158.5	高松市美術館
103	小島信明 1935～	立像	1990年	FRP、ラッカー	163×98×98	高松市美術館
104	中村 宏	観光映画	1966年	油彩、キャンヴァス *一部加筆あり	111.2×161.8	浜松市美術館
105	中村 宏	女学生に関する芸術と国家の 諸問題	1967年	油彩、キャンヴァス *一部加筆あり	111.2×161.8	高松市美術館
106	タイガー立石 1941～1998	汝、多くの他者たち	1964年	油彩、キャンヴァス	112×162	千葉市美術館
107	タイガー立石	東京バロック	1963～ 64年	油彩、麻布	89.4×145.5	高松市美術館
第4章						
108	鈴木慶則 1936～2010	不詳	1963年	紙、リトグラフ、水彩	54.3×38.3	個人蔵 (石子順造旧蔵)
109	丹羽勝次 1931～	かたち 丹	1965年	合板、コンクリート、モ ルタル、アクリル絵の具	184.2×92.5	作家蔵
110	飯田昭二 1927～	Half and Half (ピンポン玉)	1968年	鳥籠、鏡、ピンポン玉	51.5×50.0×50.0	東京画廊
111	飯田昭二	Half and Half	1968年	鳥籠、鏡、靴	48.4×50.0×50.1	静岡県立美術館
112	飯田昭二	Half and Half (ハンドバッ ク)	1968年 (2012年一部加筆)	鳥籠、鏡、ハンドバッ ク	48.4×50.0×50.1	作家蔵
113	鈴木慶則	二つのタンギー	1966年	キャンヴァス、油彩、 封筒	96×122	個人蔵
114	鈴木慶則	封筒	1966年	キャンヴァス、油彩、 ペン	72.9×90.7	個人蔵
115	鈴木慶則	ダリ	1966年頃	キャンヴァス、油彩	45.6×53.1	個人蔵 (石子順造旧蔵)
116	鈴木慶則	ダリ(部分)	1966年頃	キャンヴァス、油彩	45.7×53.1	個人蔵 (石子順造旧蔵)
117	鈴木慶則	高橋由一風蛙	1966年	和紙、合板、油彩	136.0×47.0	千葉市美術館
118	鈴木慶則	本	1967年	ミクスト・メディア(本、 封筒、しおり、紅茶など)	29.0×23.0×1.8(本 のサイズ)	静岡文化芸術大学
119	鈴木慶則	非在のタブロー 梱包された オダリスク	1968年	ミクスト・メディア(キャン ヴァス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5	静岡県立美術館
120	鈴木慶則	非在のタブロー空	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	130.7×162.2	静岡県立美術館
121	鈴木慶則	裏がえしの相貌をおびた非在 のタブロー	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	60.0×67.7	東京画廊
122	鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の相貌をお びた非在のタブロー	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	130.6×130.6	静岡県立美術館
123	鈴木慶則	非在のタブロー(マグリット による)	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	122.0×96.5×4.6	静岡県立美術館
124	鈴木慶則	非在のタブロー(アルチンボ ルトによる)(左)	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	53.7×46.2×6.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
125	鈴木慶則	非在のタブロー(アルチンボ ルトによる)(右)	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	53.7×46.1×6.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
126	鈴木慶則	非在のタブロー(キリコによ る)	1967年	キャンヴァス、油彩、 木	101.8×82.0×8.0 イーゼル251.2×85.4	静岡県立美術館

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
127	前田守一	トム、ベーコンを買ってきて ちょうだい	1967年	合板、塩化ビニールカ バー、ラッカー	86.0×155.0×8.0	鎌倉画廊
128	前田守一	遠近のものさし	1967年	木、塗料	178.5×91.9	静岡県立美術館
129	前田守一	遠近のものさし	1967年	木、塗料	90.0×166.0	静岡県立美術館
130	前田守一	遠近のものさし	1967年	木、塗料	各35.0×78.5×1.0 4枚	静岡県立美術館
131	前田守一	作品 (赤)	1967年	木、塗料	167.0×99.5	静岡県立美術館
132	前田守一	作品 (青)	1967年	木、塗料	91.0×160.5	静岡県立美術館
133	前田守一	作品 (黄色)	1967年	木、塗料	160.0×91.2	静岡県立美術館
134	前田守一	遠近のものさし (折り尺)	1967年	プラスチック、塗料	65.7 × 493.0 × 3.8 (広げた状態)	静岡県立美術館
135	前田守一	遠近のものさし	1967年	プラスチック、塗料	89.0×139.3×2.9	静岡県立美術館
136	丹羽勝次	作品6707-1	1967年	合板、樹脂	120.0×180.0	静岡市
137	丹羽勝次	イメージによる箱	1967年	合板、金具	107.1×161.6×4.8	作家蔵
138	丹羽勝次	作品 箱A	1968年	合板、縄	159.0×91.7×5.2	作家蔵
139	丹羽勝次	作品 箱B	1968年	合板、縄	78.4×83.3	作家蔵
140	丹羽勝次	箱シリーズ'68	1968年	プリント合板、縄	148.5×92.0×5.0	静岡県立美術館
141	丹羽勝次	箱A-68	1968年	合板黄麻布張、樹脂、 ロープ	107.0×123.0	鎌倉画廊
142	丹羽勝次	NO HOOKS	1968年	合板、ラッカー、綿テー プ	138.0×123.0	静岡県立美術館
143	小池一誠 1940~2008	自画像	1966年	キャンヴァス、油彩、 窓枠	73.0×103.0	個人蔵
144	小池一誠	鏡 No.2	1967年	キャンヴァス、油彩	162.3×130	鎌倉画廊
145	鈴木健司 1936~	face&face	1968年	油彩、キャンヴァス	130.6×194.2	作家蔵
146	中森五三九 1922~1984	空気の彫刻	1967年	ポリエステル樹脂	4.0×11.0×1.7	個人蔵
147	中森五三九	空気の彫刻	1967年	ポリエステル樹脂	15.0×25.8×16.3	個人蔵
148	中森五三九	空気の彫刻	1967年	ポリエステル樹脂	10.7×30.3×18.5	個人蔵
149	中森五三九	空気の彫刻	1967年	ポリエステル樹脂	29.0×23.0×6.0	個人蔵
150	中森五三九	空気の彫刻	1967年	ポリエステル樹脂	44.0×14.0×14.0	個人蔵
151	グループ幻触	「グループ『幻触』による ()展」ポスター	1967年		86.8×62.7	静岡文化芸術大学
152	杉浦康平 1932~	「トリックス・アンド・ヴィジ ョン展 盗まれた眼」ポスター	1968年	紙、シルクスクリーン	72.8×51.5	武蔵野美術大学 美術館・図書館
153	杉浦康平	「トリックス・アンド・ヴィジ ョン展 盗まれた眼」ポスター	1968年	紙、シルクスクリーン	72.8×51.5	武蔵野美術大学 美術館・図書館
154	杉浦康平	「日本現代美術展 蛍光菊 (Fluor- escent Chrysanthemum)」ポスター	1968年	紙、オフセット	109.5×79.0	武蔵野美術大学 美術館・図書館
155	杉浦康平	「日本現代美術展 蛍光菊 (Fluor- escent Chrysanthemum)」ポスター	1968年	紙、オフセット	74.0×50.7	武蔵野美術大学 美術館・図書館
第5章						
156	関根伸夫 1942~	位相No.9	1968年	木、ラッカー、ベニヤ	160.0×52.0×65.0	鎌倉画廊
157	関根伸夫	位相-大地	1986年	アルシュ紙、シルクス クリーン	87.0×190.0	静岡県立美術館 寄託
158	関根伸夫	映像版 位相-大地	1968年/ 2005	映像作品		埼玉県立近代美 術館

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
159	李 禹煥 1936～	「事物から存在へ」	1968年	原稿青焼きコピー		作家蔵
160	飯田昭二	トランスマイグレーション	1969年/ 2014年	ヒノキ	可変	本展のために再制作
161	小池一誠	No.1 石	1969年	石	約130.0×約110.0×約40.0 (展示した状態で)	静岡県立美術館
162	高松次郎	布の弛み	1969年	帆布	360.0×360.0	静岡県立美術館
163	成田克彦 1944～1992	SUMI 1	1969年	木	80.0×180.0×50.0	岐阜県美術館
164	吉田克朗 1943～1999	Cut-off 8	1969年	木材、コード、電球	100.0×10.0×10.0	高松市美術館
165	鈴木健司	BASE	1969年/ 2014年	モルタルタイル、ウレタンフォーム	可変	本展のために再制作
166	成田克彦	SUMI 5,6	1970年	木	各80.0×50.0×90.0	岐阜県美術館
167	丹羽勝次	ゴム	1969年/ 2014年	飴ゴム、石、縄	可変	本展のために再制作
168	大辻清司 1923～2001	「第10回日本国際美術展 人間と物質」 小池一誠《石》	1970年/ 再制作2004年	ゼラチンシルバープリント (モダンプリント) 再制作者 三浦和人	19.8×29.8	鎌倉画廊
169	大辻清司	「第10回日本国際美術展 人間と物質」 小池一誠《石》	1970年/ 再制作2013年	ゼラチンシルバープリント (モダンプリント) 再制作者 稲口俊太	16.0×23.9	武蔵野美術大学美術館・図書館
170	大辻清司	「第10回日本国際美術展 人間と物質」 小池一誠《石》	1970年/ 再制作2013年	ゼラチンシルバープリント (モダンプリント) 再制作者 稲口俊太	16.0×23.9	武蔵野美術大学美術館・図書館
171	原榮三郎 1935～2004	「第10回日本国際美術展 人間と物質」 小池一誠《石》	1970年	ゼラチンシルバープリント (オリジナルプリント)	15.8×23.3	個人蔵
172	小池一誠	石	1970年	石	展示した状態で40.0×190.0×39.0	静岡県立美術館
173	高松次郎	These Three Words	1970年頃	紙、シルクスクリーン	78.7×54.4	静岡県立美術館
174	前田守一	バサッ	1969年	木、塗料	157.3×45.7×9.5 2個	静岡県立美術館
175	鈴木慶則	非在のタブロー See Saw Seen	1969年	キャンヴァス、油彩	各116.0×90.4 2点組	鎌倉画廊
176	鈴木慶則	1円切手	1971年	紙、オフセット、カラー ジュ	72.8×51.6	個人蔵
177	鈴木慶則	1円切手	1971年	紙、オフセット、カラー ジュ	51.6×72.7	個人蔵
178	鈴木慶則	1円切手	1971年	紙、オフセット、カラー ジュ	72.6×51.5	個人蔵
179	鈴木慶則	1円切手	1971年	紙、オフセット	28.0×23.0	千葉県美術館 (サトウ画廊コレクション)
180	前田守一	剥がされた言葉	1971年	黒板、塗料、チョーク、 黒板消し	左74.5×92.0×8.2 右73.3×91.1×4.7	静岡県立美術館
181	鈴木慶則	虚構の円空	1973年	板、油彩	66.4×38.7×5.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
182	鈴木慶則	絵画化 モネによる	1973年	写真、油彩	60.0×90.0	個人蔵
183	鈴木慶則	絵画化 ミケランジェロによる [部分]	1973年	石膏像、油彩	72.0×84.0×32.0	個人蔵
184	鈴木慶則	紅梅図白梅図	1974年	紙、シルクスクリーン	38.9×39.8	個人蔵 (石子順造旧蔵)
185	鈴木慶則	紅梅図白梅図	1974年	紙、シルクスクリーン	38.0×39.2	個人蔵 (石子順造旧蔵)
186	鈴木慶則	木目に額縁	1974年	板、油彩	85.9×69.9×4.8	個人蔵
187	小池一誠	丸石	1970～19 80年代	石	38.0×36.0×32.5	個人蔵
188	小池一誠	丸石	1970～19 80年代	石	38.0×36.0×32.5	個人蔵
189	小池一誠	丸石	1970～19 80年代	石	34.0×32.0×32.0	個人蔵
190	小池一誠	丸石	1970～19 80年代	石	34.0×32.0×32.0	個人蔵
191	小池一誠	丸石	1970～19 80年代	石	34.0×32.0×32.0	個人蔵

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
192	小池一誠	丸石	1970～ 1980年代	石	30.0×20.5×21.5	個人蔵
193	小池一誠	ドローイング	年代不詳	和紙、墨	19.0×29.0	個人蔵
194	小池一誠	ドローイング	年代不詳	和紙、墨、印刷物	23.0×34.0	個人蔵

【資料】

資料 番号	資料名	発行者/会場/主催者	発行年/ 制作年	素材、技法 (84,85,97のみ)	サイズ (cm)、頁数	所蔵先
1 章						
資料1	『機関誌グループ「白」 No.1	グループ「白」	1958年		25.3×18.5 31頁	個人蔵 (伊藤勉旧蔵)
資料2	『機関誌グループ「白」 No.2	グループ「白」	1959年		25.7×18.3 1枚	個人蔵 (伊藤勉旧蔵)
資料3	『機関誌グループ「白」 No.3	グループ「白」	1959年		26.0×18.2 50頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料4	グループ「白」事務局 スタンプ				7.8×2.0×6.8	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料5	「アンデパンダン静岡」 展パンフレット (附目録)	アンデパンダン運営委員会	1958年		21.3×15.1 35頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料6	『美術運動』第54号	日本美術会	1957年		30.2×21.0 28頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料7	『美術運動』第55号	日本美術会	1958年		30.4×21.0 28頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料8	『美術運動』第56号	日本美術会	1958年		30.2×21.0 28頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料9	『美術運動』第59号	日本美術会	1960年		20.9×14.9 50頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料10	『批評運動』	中村宏編集発行	1958年		24.6×17.3 42頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料11	機関誌『芸術ノート』 No.3	前衛美術会	1962年		20.9×15.0 34頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料12	グループ「白」 「詩画 展」はがき		1958年		14.0×9.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料13	グループ「白」 会合連 絡はがき		1958年		14.0×9.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料14	「小山田二郎・個展と講演座談 会」リーフレット (コピー)	静岡県民会館	1959年		24.2×40.5	個人蔵
2 章						
資料15	『鈴與文芸』4	鈴与労組図書部	1958年		20.8×14.8 92頁	フェルケール博 物館
資料16	『鈴與文芸』11	鈴与労組文芸部	1961年		21.2×15.0 94頁	フェルケール博 物館
資料17	『鈴與文芸』12	鈴与労組文芸部	1961年		21.0×15.0 84頁	フェルケール博 物館
資料18	『鈴與文芸』13	鈴与労組文芸部	1962年		20.9×15.1 146頁	静岡県立中央図 書館
資料19	『鈴與文芸』14	鈴与労組文芸部	1962年		21.2×15.0 112頁	静岡県立中央図 書館
資料20	『鈴與文芸』16	鈴与労組文芸部	1963年		21.0×15.0 108頁	フェルケール博 物館
資料21	『労働文芸』昭和33年度	静岡県民生労働部労政課	1959年		20.9×15.1 60頁	静岡県立中央図 書館
資料22	『労働文芸』昭和35年度	静岡県民生労働部労政課	1961年		21.0×15.2 112頁	静岡県立中央図 書館
資料23	『労働文芸』昭和36年度	静岡県民生労働部労政課	1962年		21.0×15.1 94頁	静岡県立中央図 書館
資料24	『労働文芸』昭和37年度	静岡県民生労働部労政課	1963年		21.1×15.25 86頁	静岡県立中央図 書館
資料25	『労働文芸』昭和38年度	静岡県民生労働部労政課	1964年		21.1×15.0 68頁	静岡県立中央図 書館
資料26	『県民文芸』1	静岡県教育委員会	1962年		21.1×15.2 277頁	静岡県立中央図 書館

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
資料27	『県民文芸』2	静岡県教育委員会	1963年		21.0×14.7 275頁	静岡県立中央図書館
資料28	『県民文芸』3	静岡県教育委員会	1964年		20.9×15.0 268頁	静岡県立中央図書館
資料29	『クリティカルアート (評画)展』リーフレット	梅花亭ギャラリー	1965年		23.0×17.5	慶應義塾大学 アートセンター
資料30	「今日の自画像展」リー フレット	梅花亭ギャラリー	1966年		19.3×19.3	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料31	「MONOMANIA ものまに あ 物執狂」展リーフレット	ギャラリー創苑	1966年		24.0×23.5	個人蔵
資料32	「50.A.F. (Apres "la Fon- taine")展」リーフレット	ギャラリー新宿	1967年		38.0×25.8	慶應義塾大学 アートセンター
資料33	「反戦と解放展」はが き	主催：反戦と解放展委員会、 後援：ベ平連	1968年		10.4×15.0	慶應義塾大学 アートセンター
資料34	「反戦と解放展」出品 者一覧		1968年		14.9×9.8	慶應義塾大学 アートセンター
資料35	「反戦と解放展」案内 状(資料34裏面)	針生一郎テキスト掲載	1968年		9.8×19.8	慶應義塾大学 アートセンター
資料36	「集会：芸術から遠く 離れて」リーフレット	主催：反戦と解放展委員会、 後援：ベ平連	1968年		25.0×25.0	慶應義塾大学 アートセンター
資料37	「芸術表現にとって國家 とは何か」リーフレット	東京都立大学・大学祭	1968年		35.8×12.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料38	寺山修司、石子順造「現 代芸術講演会」はがき	静岡県民会館ホール	1969年		14.5×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料39	寺山修司、石子順造「現 代芸術講演会」リーフレット	静岡県民会館ホール	1969年2月		21.2×14.3	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料40	「紅のアリス兇状旅第一話『怨霊 血染めの十字架』」リーフレット	発見の会	1970年		26.5×18.6	個人蔵
資料41	石子順造『マンガ芸術論?現代日 本人のセンスとユーモアの功罪』	富士書院(富士新書)	1967年		17.4×11.0 258頁 (付資料13頁)	中山慶子
資料42	石子順造『現代マンガ の思想』	太平出版社	1970年		19.0×13.8 276頁	中山慶子
資料43	石子順造『表現におけ る近代の呪縛』	川島書店	1970年		20.5×14.0 282頁	中山慶子
資料44	石子順造『俗悪の思想? 日本的庶民の美意識』	太平出版社	1971年		19.6×13.5 273頁	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料45	石子順造・上杉義隆・松岡正剛編 『キッチュ?まがいもの時代』	ダイヤモンド社	1971年		20.9×15.0 332頁	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料46	石子順造『小絵馬図譜 封 じ込められた民衆の祈り』	芳賀書店	1972年		21.4×15.2 233頁	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料47	石子順造『マンガ家・イラスト レーターになるには』	ペリかん社(なるには Books)	1972年		18.2×12.2 252頁	個人蔵
資料48	石子順造『キッチュの聖と俗一 統・日本的庶民の美意識』	太平出版社	1974年		19.6×13.5 235頁	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料49	石子順造『戦後マンガ 史ノート』	紀伊国屋書店	1985年		19.4×13.5 202頁	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料50	石子順造『子守唄はなぜ哀 しいか 近代日本の母像』	柏書房	2006年		19.5×13.5 359頁	個人蔵
資料51	石子順造『ガラクタ百科 身 辺のことばとそのイメージ』	平凡社	1978 / 20 00年		25.7×18.5	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料52	石子順造『石子順造著 作品集 I キッチュ論』	喇嘛舎	1986年		19.5×13.5 376頁	個人蔵
資料53	石子順造『石子順造著 作品集 II イメージ論』	喇嘛舎	1987年		19.5×13.5 463頁	個人蔵
資料54	石子順造『石子順造著 作品集 III コミック論』	喇嘛舎	1988年		19.5×13.5 423頁	個人蔵
資料55	浅川マキ「MAKI LIVE」 (レコード)	東芝EMI株式会社	1972年		31.5×31.5	個人蔵
資料56	『アサヒグラフ』浅川 マキ特集	朝日新聞社	1970年1 月23日号		33.5×25.9 82頁	個人蔵
資料57	『美術ジャーナル ART JOURNAL』62	美術ジャーナル社	1967年		21.1×14.9	個人蔵

3章

資料58	『形象』No.7	形象社	1963年		24.7×17.7 41頁	静岡県立美術館
------	----------	-----	-------	--	---------------	---------

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
資料59	『形象』No.8		1963年		24.8×17.5 36頁	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料60	「アンデパンダン' 64展」パンフレット	アンデパンダン' 64展委員会	1964年		19.0×18.0 24頁	個人蔵 (伊藤隆史旧蔵)
資料61	『現代美術』No.8	サン・プロダクション	1966年		25.7×18.1 100頁	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料62	赤瀬川原平	のし袋(「赤瀬川 寿」の書き込みあり)	1967年頃		27.3×24.5	個人蔵 (飯田昭二旧蔵)
資料63	『映画評論』	映画出版社	1968年		20.9×14.9 176頁	個人蔵
4 章						
資料64	「伊藤隆史 鈴木慶則展」はがき	村松画廊	1960年		10.7×14.1	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料65	「8人展」はがき	吉見画廊	1960年		10.3×14.0	個人蔵 (伊藤勉旧蔵)
資料66	「長嶋泰典展」はがき	吉原市民会館	1963年		14.1×10.2	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料67	「丹羽勝次個展」はがき	吉見書店画廊	1962年		15.0×10.5	個人蔵
資料68	「鈴木慶則個展」はがき	純喫茶フレンド	1963年		14.2×9.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料69	「鈴木慶則個展」塔のシリーズリーフレット	椿近代画廊	1965年		21.1×29.4	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料70	「[幻触]展」はがき	ギャラリー創苑	1966年		10.1×14.5	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料71	「『触』グループ展」はがき	小谷画廊	1966年		14.0×10.4	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料72	石子順造、高松次郎「現代美術講演会」案内状	グループ「幻触」主催	1966年		21.6×35.8	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料73	『幻触記』No.1	グループ「幻触」	1967年		25.0×17.9 4頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料74	『幻触器』No.2	グループ「幻触」	1967年		25.2×17.9 2頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料75	『幻触器』No.3	グループ「幻触」	1967年		25.2×17.9 2頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料76	「グループ『幻触』展」はがき	静岡市県民会館	1967年		14.8×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料77	「第11回シェル美術賞展」リーフレット	シェル石油株式会社	1967年		22.4×31.0 4頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料78	『インテリア』No.109	學藝書林	1968年		32.4×25.5 72頁	飯田昭二
資料79	機関誌『眼』No.31	おぎくぼ画廊	1968年		30.8×21.7 10頁	飯田昭二
資料80	「小池一誠『球の表層』展」展リーフレット	おぎくぼ画廊	1968年		11.4×42.5	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料81	「グループ「幻触」展」はがき	静岡吉見書店ギャラリー	1968年		14.8×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料82	「トリックス・アンド・ヴィジョン 盗まれた眼」展リーフレット	東京画廊・村松画廊 テキスト 中原佑介 石子順造	1968年		25.2×17.8 9頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料83	「グループ『幻触』による()展」リーフレット	ギャラリー新宿	1967年		23.0×34.4	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料84	「日本現代美術展 蛍光菊(Fluorescent Chrysanthemum)」展覧会概要・作家略歴	ICA(Institute of Contemporary Arts)、ロンドン	1968年	紙、オフセット	74.0×50.7	武蔵野美術大学 美術館・図書館
資料85	「日本現代美術展 蛍光菊(Fluorescent Chrysanthemum)」出品目録	ICA(Institute of Contemporary Arts)、ロンドン	1968年	紙、オフセット	74.0×50.7	武蔵野美術大学 美術館・図書館
5 章						
資料86	『幻触』No.4	グループ「幻触」	1969年		26.0×18.2 4頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料87	『幻触』No.5	グループ「幻触」	1970年		26.7×18.5 6頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料88	『幻触』No.6	グループ「幻触」	1971年		25.5×18.3 4頁	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料89	「第9回現代日本美術展」チラシ	主催 毎日新聞社・日本国際美術振興会	1969年		26.2×18.7	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)

No.	作家名/グループ名 生没年	作品名	制作年	素材、技法	サイズ (cm)	所蔵
資料90	「第9回現代日本美術展」東京会場チケット	主催 毎日新聞社・日本国際美術振興会	1969年		19.4×6.6	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料91	「第9回現代日本美術展」図録	主催 毎日新聞社・日本国際美術振興会	1969年		24.0×25.5	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料92	「第9回現代日本美術展」記録集	主催 毎日新聞社・日本国際美術振興会	1969年		21.5×22.5	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料93	「今日の静岡展」リーフレット	主催 静岡県民会館	1969年		21.0×43.9	鈴木健司
資料94	「今日の静岡展」ポスター	主催 静岡県民会館	1969年		51.3×36.2	静岡文化芸術大学
資料95	「今日の静岡展」ポスター	主催 静岡県民会館	1969年		51.3×36.2	静岡文化芸術大学
資料96	「第10回日本国際美術展 人間と物質」招待状	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1970年		22.0×21.3	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料97	「第10回日本国際美術展 人間と物質」ポスター	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1970年	紙、シルクスクリーン	103.0×73.0	多摩美術大学図書館 瀧口修造文庫
資料98	「第10回日本国際美術展 人間と物質」チラシ	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1970年		18.7×26.1	個人蔵
資料99	「第10回日本国際美術展 人間と物質」図録	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1970年		23.5×25.2	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料100	今日の静物・展リーフレット	横浜市民ギャラリー	1975年		22.5×22.5	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料101	グループ「幻触」会合通知はがき		1970年		15.0×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料102	グループ「幻触」会合通知はがき		1967?68年		15.0×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料103	グループ「幻触」会合通知はがき		1970年		15.0×10.0	個人蔵 (前田守一旧蔵)
資料104	「第10回現代日本美術展」図録	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1971年		24.0×25.0	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料105	「第10回現代日本美術展」記録集	主催 毎日新聞社、日本国際美術振興会	1971年		20.0×21.0	個人蔵 (鈴木慶則旧蔵)
資料106	李禹煥『出会いを求めて』		1971年		20.4×14.0	個人蔵 (石子順造旧蔵)
資料107	前田守一「李禹煥選定による前田守一展示」案内状	ウォーカー画廊	1970年		18.2×25.7	個人蔵 (前田守一旧蔵)

右	吉仲太造	孤
グループ「幻触」と石子順三 プレ企画 前衛の駆け抜けた頃 11月26日（火）～1月19日（日）		
1	岡田謙三	時
2	難波田龍起	ミクロの世界
3	斎藤義重	作品2
4	菅井汲	Masse Noire
5	桑山忠明	無題（黒）
6	吉原治良	Work
7	嶋本昭三	1961-3
8	元永定正	作品
9	白髪一雄	屋島
10	田中敦子	1985 A
11	向井修二	作品
12	李禹煥	線より
13	関根伸夫	石をつる
14	関根伸夫	円いひも
15	関根伸夫	プロジェクト クレムリン
16	関根伸夫	プロジェクト ローマ
17	関根伸夫	プロジェクト 立ち木
18	篠原有司男	次郎長パー

名品コーナー

左	近藤浩一路	富士山（11月26日～12月23日）
左	高芙蓉	富士川望富嶽図（12月25日～1月19日）◇
中	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
右	香月泰男	冬島

大地からー日本画の情景

1月21日（火）～2月23日（日）

1	伊藤若冲	雛に双鶏図◇
2	岡本豊彦	武陵桃源図
3	貫名海屋	山水図屏風◇
4	狩野永岳	四季耕作図屏風
5	狩野芳崖	江山春色図◇
6	鈴木松年	日本武尊・素戔嗚尊図屏風◇

7	中村大三郎	浄謚◇
8	郷倉千鞠	臥龍梅
9	川合玉堂	田植図

名品コーナー

左	福田平八郎	雪庭
中	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
右	チャールズ・ワグマン	富士

没後150年 福田半香とその師友

2月25日（火）～3月30日（日）

1	渡辺華山	蘇東坡像◇
2	勾田台嶺	富士山図◇
3	渡辺華山	書簡（福田半香宛）◇
4	福田半香	書簡（妻せき宛）
5	福田半香 渡辺如山	書画扇面図◇
6	渡辺如山	水仙図◇
7	椿椿山	蕃殖図
8	椿椿山	花卉図
9	椿椿山	牡丹図
10	福田半香	李白観瀑図
11	福田半香	山水図◇
12	福田半香	溪山真楽図
13	福田半香	夏景山水図
14	福田半香	山水図
15	福田半香	青緑松林山水図◇
16	福田半香	青蓮観瀑図◇
17	福田半香	山水図
18	福田半香	周茂叔愛蓮図
19	福田半香	月夜山水図◇
20	福田半香	青緑山水図◇
21	平井顕斎	山水図
22	平井顕斎	山水図
23	岡本秋暉	花鳥図
24	高久隆古	蕉葉品題図
25	山本葉谷	無逸図

26	鈴木鷺湖	清陰横臥図
27	永村茜山	伊豆七島真景図巻◇
28	渡辺小華	飛燕図
29	鈴木香峰	山水図
30	奥原晴湖	夏景山水図

名品コーナー

左	福田半香	春景山水図◇
中	和田英作	富士
右	ジョゼフ・コスース	タイトルド、雨

◇は個人蔵または寄託品

移動美術展

小山移動美術展

この秋、富士山の麓で静岡ゆかりの作品たちと出逢う

9月19日（木）～9月29日（日）

No.	作者	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
1	中村岳陵	残照	1961(昭和36)年	紙本着色	94.5×120.0
2	中村岳陵	磯	1965(昭和40)年	紙本着色	72.8×100.0
3	横山大観	富士山	1950-1955頃 (昭和25-30頃)	絹本着色	58.7×73.7
4	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	1876以降 (明治9以降)	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2
5	五瀬田義松	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
6	和田英作	富士	1918(大正7)年	キャンヴァス、油彩	66.0×80.2
7	中川一政	風景(池袋の麦畑)	1919-20(大正8-9)	キャンヴァス、油彩	45.5×53.0
8	曾宮一念	毛無連峰	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7
9	梅原龍三郎	暁天(富士山・大仁)	1944-56頃 (昭和19-31頃)	紙本着色	46.3×33.0
10	岡田健三	作品	1961(昭和36)	キャンヴァス、油彩	83.5×57.7
11	元永定正	作品	1963(昭和38)	キャンヴァス、油彩、水性樹脂絵具	125.7×183.1
12	オーギュスト・ロダン	考える人(小型)	1880(1880(铸造1920年以前))	ブロンズ	37.2×28.6×23.6
13	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	1887-89頃	ブロンズ	29.8×59.1×27.0
14	淀井敏夫	波・群	1959(昭和34)	ブロンズ	66.0×94.0×41.0
15	金沢健一	音のかげら1	1987(昭和62)	鉄、ゴム	2.5×220.0×220.0
16	小池一誠	No.1石	1969(昭和44)	石	130.0×110.0×40.0
17	鈴木慶則	非在のタブロー(梱包されたオダリスク)	1968(昭和43)	ミクスト・メディア(キャンバス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5
18	前田守一	遠近の物差(折り尺)	1967(昭和42)	プラスチック、塗料	65.7×493.0×3.8
19	前田守一	遠近の物差	1967(昭和42)	プラスチック、塗料	89.0×139.3×2.9
20	福岡道雄	湯原湖で(2)	1978(昭和53)	黒色強化ポリエステル、木	48.0×110.0×90.0

ふくろい移動美術展

この秋、歴史と自然の郷で静岡ゆかりの作品たちと出逢う

10月18日（金）～10月30日（水）

No.	作者	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
1	横山大観	富士山	1950-1955頃 (昭和25-30頃)	絹本着色	58.7×73.7
2	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	1876以降 (明治9以降)	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2
3	ジョルジュ・ピゴー	富士(沼津江浦)	1885-1887 (明治18-20) 年頃	板・油彩	24.0×58.0
4	川村清雄	風景	1920年代(大正末か ら昭和初)頃	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3
5	五姓田義松	富士	1918(大正7)	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
6	和田英作	富士	1918(大正7) 年	キャンヴァス、油彩	66.0×80.2
7	梅原龍三郎	暁天(富士山・大仁)	1944-56頃(昭和19-31 頃)	紙本着色	46.3×33.0
8	オーギュスト・ロダン	考える人(小型)	1880(1880(鑄造1920 年以前))	ブロンズ	37.2×28.6×23.6
9	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	1887-89頃	ブロンズ	29.8×59.1×27.0
10	金沢健一	音のかけら 2	1987(昭和62)	鉄、ゴム	2.5×220.0×220.0
11	小池一誠	No.1 石	1969(昭和44)	石	130.0×110.0×40.0
12	鈴木慶則	非在のタブロー(梱包されたオダ リスク)	1968(昭和43)	ミクスト・メディア(キャ ンバス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5
13	前田守一	遠近のものさし(折り尺)	1967(昭和42)	プラスチック、塗料	65.7×493.0×3.8
14	前田守一	遠近のものさし	1967(昭和42)	プラスチック、塗料	89.0×139.3×2.9
15	川俣正	袋井駅前プロジェクト1988	1988(昭和63)	ベニヤ板、バルサ材、ア クリル絵の具、鉛筆、紙、 ビニール、ゼラチン・シ ルヴァー・プリントなど	122×190×57他
参考	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風(複製)	原本は18世後半	複製	(右) 137.5×355.6 (左) 137.5×366.2

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号
平成3年3月19日条例第2号
平成4年3月25日条例第14号
平成8年3月28日条例第11号
平成11年3月19日条例第16号
平成13年7月24日条例第45号
平成15年3月12日条例第2号
平成17年7月15日条例第49号
平成22年3月26日条例第23号
平成24年3月23日条例第1号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。
- (一部改正〔平成24年条例1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則（平成元年3月29日条例第43号）

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則（平成17年7月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成22年3月26日条例第23号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

(一部改正〔平成24年3月23日条例1号〕)

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校及、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕)

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使用料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

平成20年3月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長(以下「館長」という。)が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、その翌日以降の最初の休日でない日)

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

(一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕)

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者(以下「使用権利者」という。)は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復)

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しななければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

(損害賠償)

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者(障害者1人につき1人に限る。)が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料(団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料(小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。)をいう。)の2分の1の額(当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額)

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動(これらに準ずるものを含む。)

として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下

「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名		点数	
特別観覧の目的					
区分	模写 模造 撮影 熟覧 原板使用				
日時	年 月 日 時から 時 分	年 月 日 時から 時 分			
内訳	模写	点	日	円	合計 円
	模造	点	日	円	
	撮影	点	回	円	
	熟覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	
備考					

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日時	年 月 日 () 時 分	年 月 日 () 時 分	分から分まで
観覧人員			人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員			人
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等			円
減免申請額			円

様式第2号（第5条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称		
展覧会、講演等の内容		
使用区分	県民ギャラリー（A・B）	講堂
使用期間	年 月 日 () 時 分	年 月 日 () 時 分
入場料等の徴収の有無	有・無	円
主催者名		
連絡責任者及び電話		
後援者名		

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第4号（第11条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

（一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料 還付申請書
使用料

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

印

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関する事。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関する事。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。
- 3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。
- 3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

- 2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

- 2 委員の定数は、15人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、

又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

- 5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

- 2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

- 2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。
- 3 委員会に会長及び副会長を置く。
- 4 会長には生活・文化部長、副会長には、文化振興総室長をもってこれに充てる。
- 5 会長は、会務を総理する。
- 6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門委員会)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

- 2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。
- 3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。
- 4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。
- 5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねる

ことができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

別表

文化・観光部長 部長代理(理事) 文化学術局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人(12人)	20人(21人)
非常勤	1人			3人	4人

■美術館協議会

白柳一弥	静岡県立掛川工業高等学校長
粉奈康夫	静岡市立田町小学校長
鈴木壽美子	静岡県文化協会長
木ノ内惇子	磐田市多文化交流センター「こんにちは！」センター長
立田洋司	静岡県立大学大学院教授
北條博厚	県立美術館友の会会長
田村孝子	グランシップ館長
本保晃	NHK静岡放送局長
坂本雅子	東海大学短期大学部教授
石川たか子	(株)丸伸代表取締役社長
日比野秀男	常葉学園大学造形学部長
今井利昭	静岡県観光協会「しずおかツーリズムコーディネーター」チーフ
岡野晃子	ベルナールビュフェ美術館副館長
北村敏廣	(株)静岡新聞社代表取締役専務

■専門委員

木村重圭	甲南女子大学名誉教授
河野元昭	秋田県立近代美術館長

坂本満	金沢美術工芸大学客員教授
潮江宏三	京都市美術館長
建畠哲	京都市立芸術大学学長
	埼玉県立近代美術館長
山梨絵美子	東京文化財研究所企画情報部副部長

■資料評価委員

下山晃司	静岡県文化・観光部長
宇佐美稔	静岡県文化・観光部部長代理
原田裕司	静岡県文化・観光部文化学術局長
京極仁志	静岡県文化政策課長
坂田芳乃	静岡県立美術館副館長

■職員

館長	芳賀徹
副館長	坂田芳乃
学芸部長兼学芸課長	小針由紀隆
総務課長	田中雅代
総務班長代理	稲葉寿久
主査	横畑朋之
主任	阿形高紘
主事	青木優美
管理班長	岡村昇
主査	石川芳弘
主査	中村美穂
上席学芸員	角田新 (広島県立美術館から派遣)
上席学芸員	南美幸
上席学芸員	三谷理華
上席学芸員	新田建史
上席学芸員	村上敬
上席学芸員	泰井良 (広島県立美術館へ派遣)
上席学芸員	川谷承子
主査	神谷洋介
主任学芸員	石上充代
主任学芸員	福士雄也
学芸員	浦澤倫太郎

■非常勤嘱託員

北村咲美
藤岡美樹
半田直生

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	22,327
共催展収入	32,372
県民ギャラリー等使用料	5,970
財産売払・貸付・運用収入	5,681
助成金等	0
その他	3,154
計	69,504

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	175,644
管理費	263,525
運営費	44,849
施設管理費	218,676
事業費	100,057
企画展事業費	72,833
常設展事業費	6,445
資料・普及事業費	20,779
館藏品取得費	0
施設整備費	71,846
基金積立	531
計	611,603

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所在地 敷地 構造・規模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内(約130,000㎡) 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積:6,624.07㎡ 延床面積:9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、2階建 建築面積:2,391.25㎡ 延床面積:3,024.36㎡
仕 上	外壁:湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根:緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床:花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁:安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁:花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根:カラスステンレス葺、トップライト(アル ミ、複層ガラス) 床:タイルカーペット 壁:大理石、インド砂岩、クロス貼 天井:石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 300 KVA、3φ400 KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800 rpm出力300 KVA 3φ3 W 6, 600 V 太陽光発電設備 10 KW×2台 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電 サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料(ビデオ)、電話、 放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火 報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防 災アンプ(180 W)、ITV監視装置、 地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ28 0 KVA、3φ350 KVA 契約電力700 KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,8 00 rpm出力200 KVA 3φ3 W 220 V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機(150 USRT、 40 USRT)、温水焚吸収冷温水機(30 USRT)、空気熱源回収型スクルー 式ヒートポンプ冷凍機(150 USRT)、 プレート式熱交換機(396,300 Kcal/h) 蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用20 ㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及び パッケージ型1台、ファンコイルユニッ ト46台、他空冷ヒートポンプパッケ ージェアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機(80 USRT) 2基、蒸気ボイラー(250 Kg/h)2 基、空冷チラーユニット(3.77 USRT) プレート式熱交換機(86,000 Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱 交換機(3台)
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30㎡(二槽式)、高架水槽12㎡ (二槽式) 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5㎡ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	身 障 者 用 油圧式11人乗750 kg 荷 物 用 油圧式3,000 kg	身 障 者 用 油圧式23人乗1,500 kg

■建設工事費

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室 (114㎡)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室 (約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン (80席 198㎡) ・カフェ (39席 92.3㎡)

レストラン「エスタ」及びカフェ（ロダン）は、㈱東興が運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室 (7室 1,777㎡)

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるよう

になっている。

県民ギャラリー (2室 490㎡)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂 (262席 305㎡)

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室 (約30席 71㎡)

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室 (15.21㎡)

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日

10:30～15:30 (2時間を限度)

授乳室 開館日全て

10:00～17:30 (夜間開館日は20時まで)

・ロダン館

ロダンフロア (1,461㎡)

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1 (98㎡)、展示室2 (149㎡)

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の铸造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料(CD-ROM)検索システムが設置されている。ま

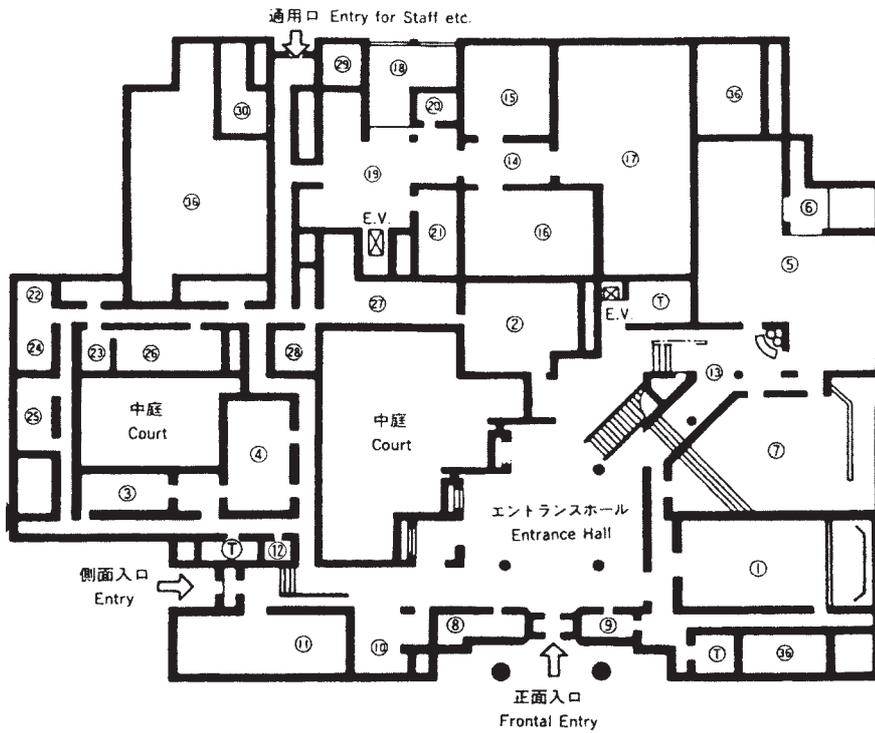
た、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー (276㎡)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図
・本館

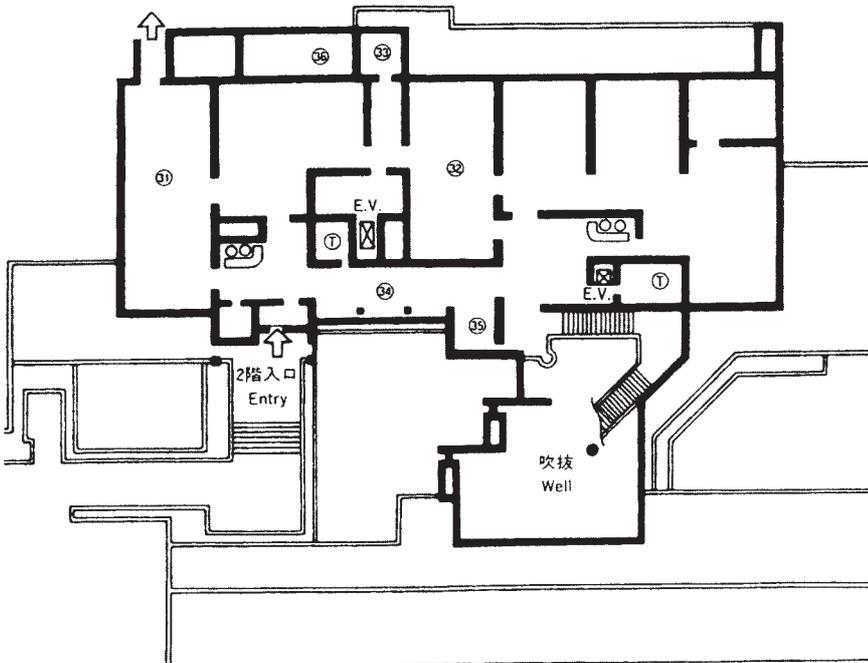
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講義室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ カフェ Cafe

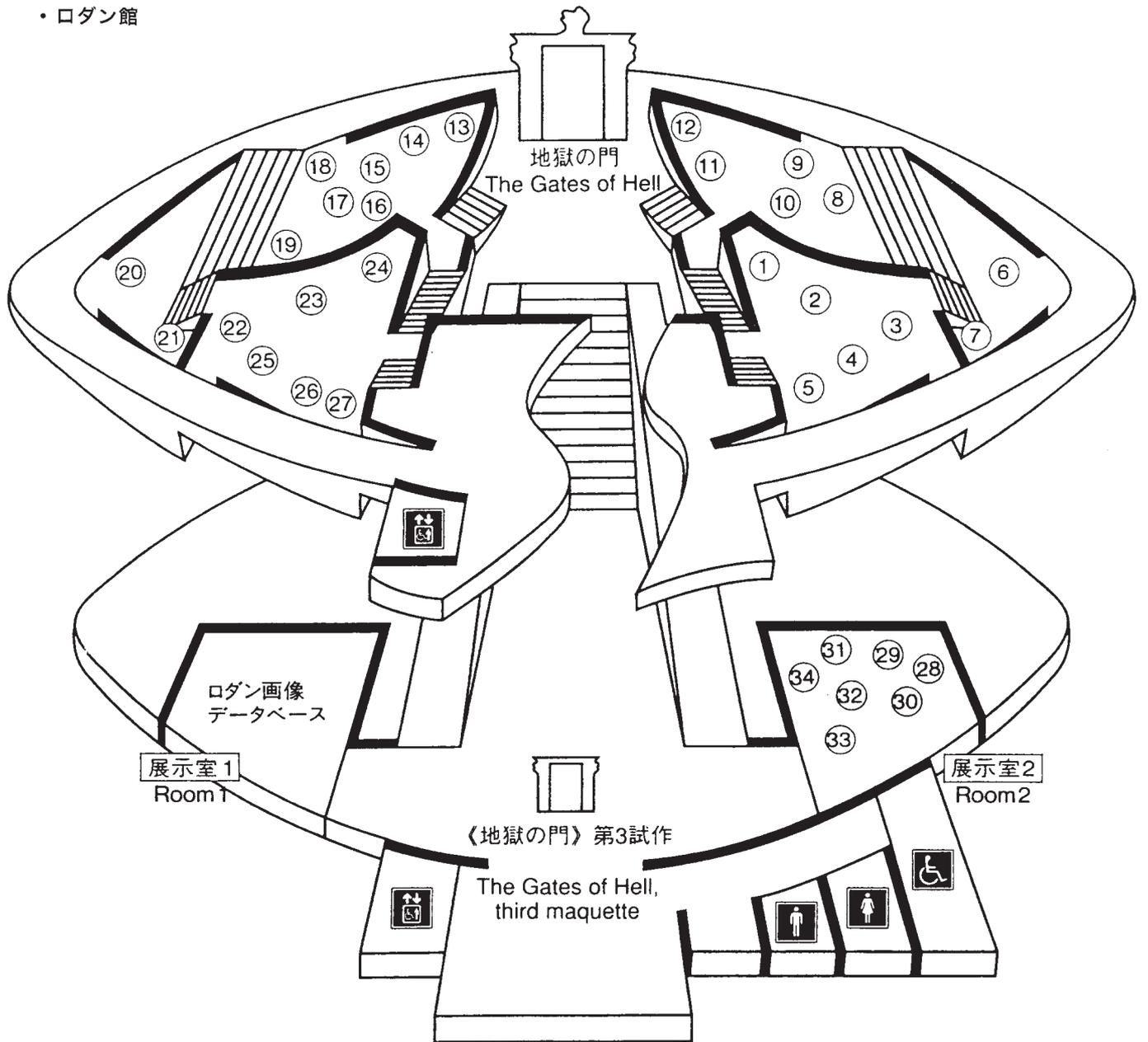
⑪ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W.C.
- E. V. エレベーター Elevator

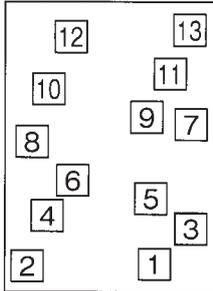
・ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレルの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室2

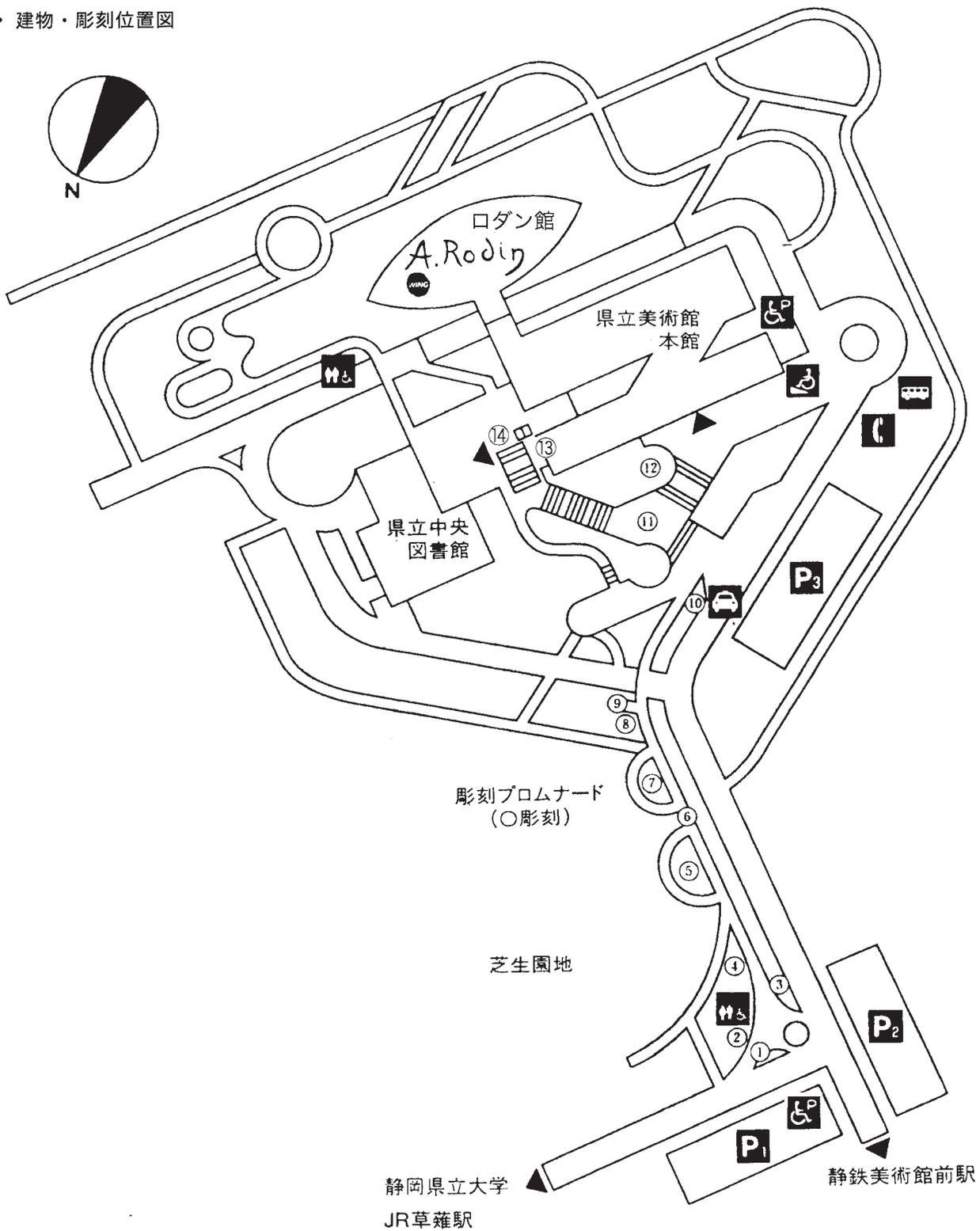
- ㉘ カルポー, J.B. / ナポリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波

・建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 午前10時～午後5時30分

(展示室への入室は午後5時まで)

[夜間開館] 4月27日(土)～6月22日(土)の間の土曜日(「草間彌生」展開催中)は午後8時まで開館(入室は午後7時30分まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

■収藏品展観覧料

一般300円(団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上
草間彌生	1,200円 <1,000円>	600円 <500円> <small>*高校生・大学生含む</small>
夏目漱石の美術世界	1,000円 <800円>	500円 <400円>
富士山の絵画	600円 <400円>	300円 <200円>
二見彰一展	600円 <400円>	300円 <200円>
グループ「幻触」と石子順造	1,000円 <800円>	500円 <400円>

* < >内は前売及び20名以上の団体料金

* 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収藏品展とも無料でご覧いただけます。(高校生・大学生は、収藏品展は無料、企画展は展覧会によって有料・無料となります。)

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料
		10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約20分

東名高速道路・静岡IC、清水ICまたは新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

総務課 TEL 054-263-5755

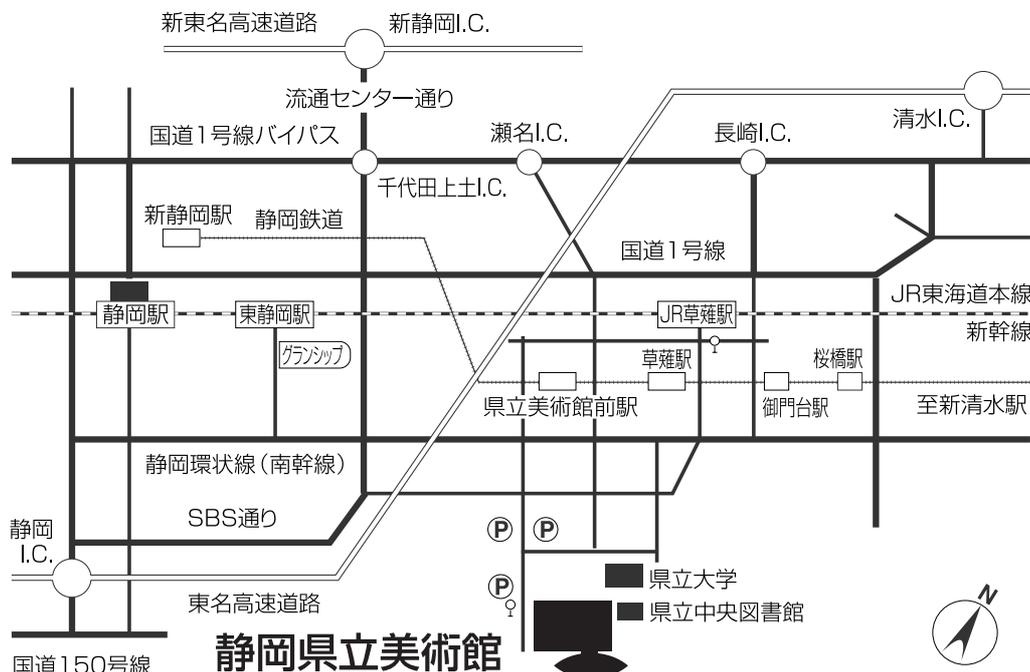
〃 FAX 054-263-5767

学芸課 TEL 054-263-5857

〃 FAX 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926



平成25年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印 刷：株式会社アプライズ

〒422-8037 静岡市駿河区下島114 蔵敷ビル

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2013

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by APRISE Co.Ltd. Shizuoka

Printed in Japan 2014